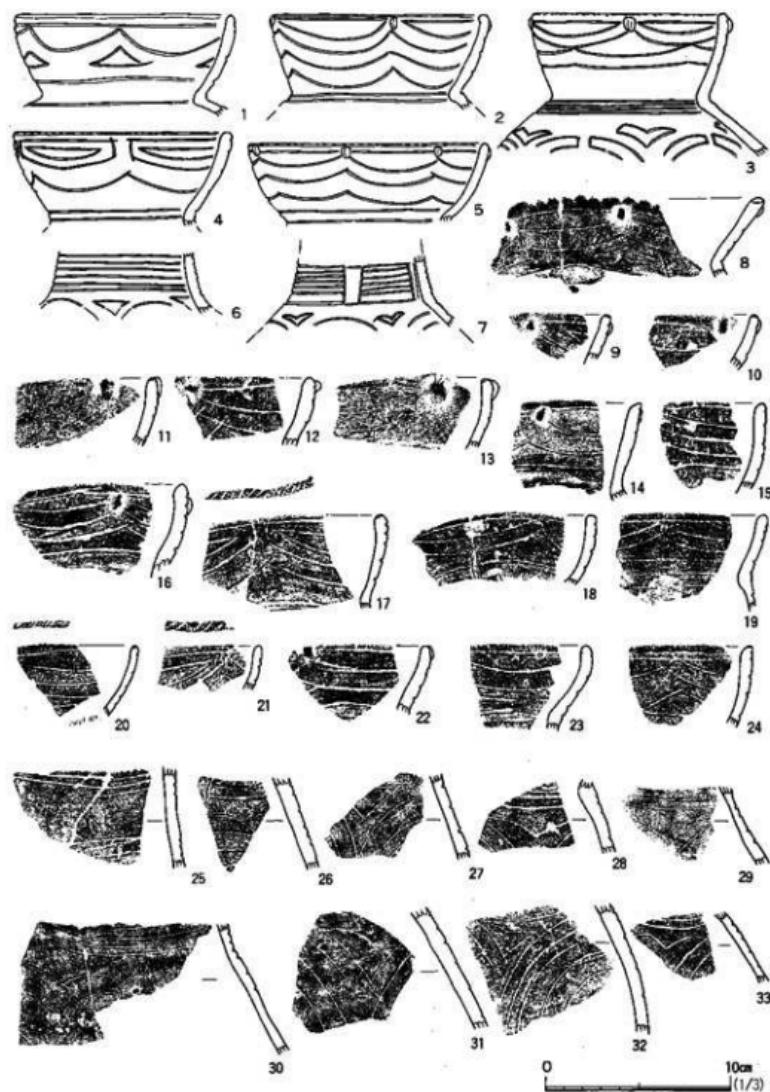
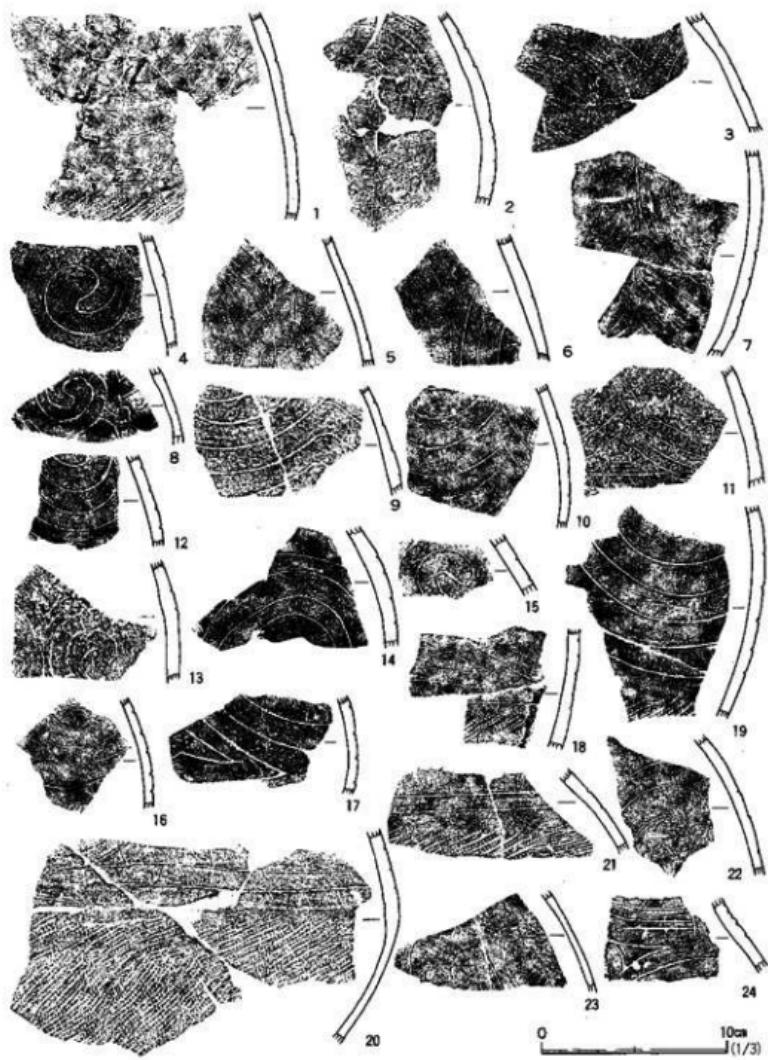


第66図 弥生土器実測図(39)

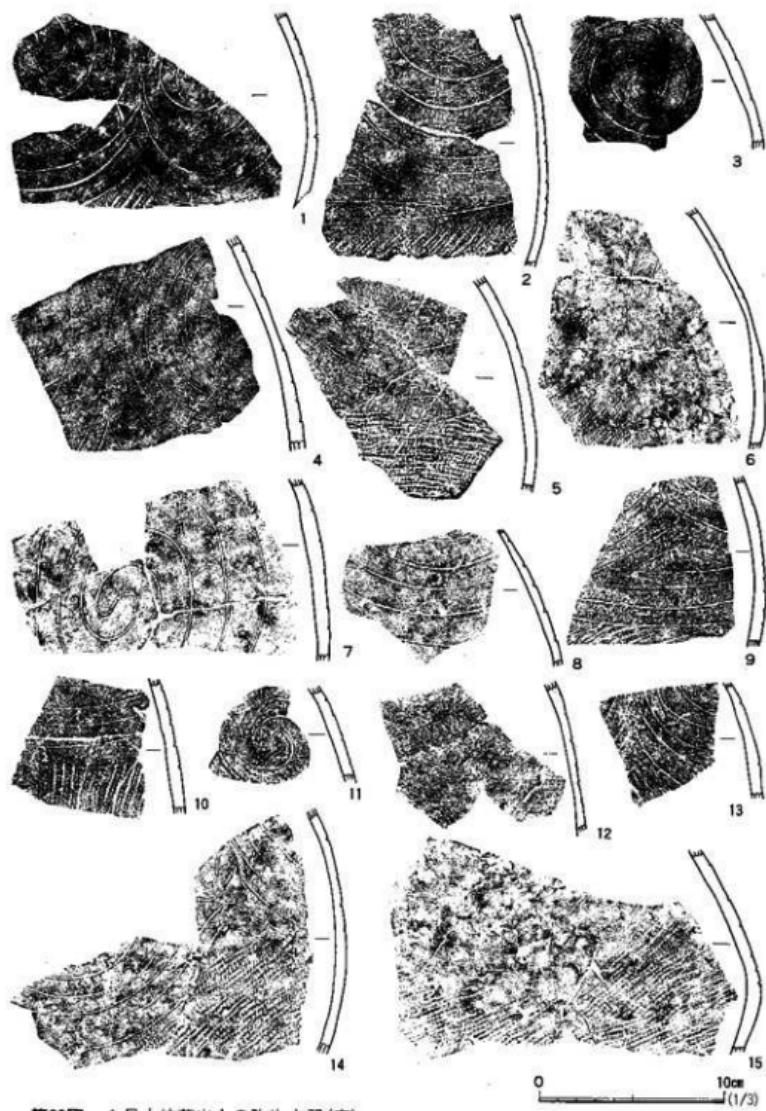


第67図 1号土坑墓出土の弥生土器(壹)

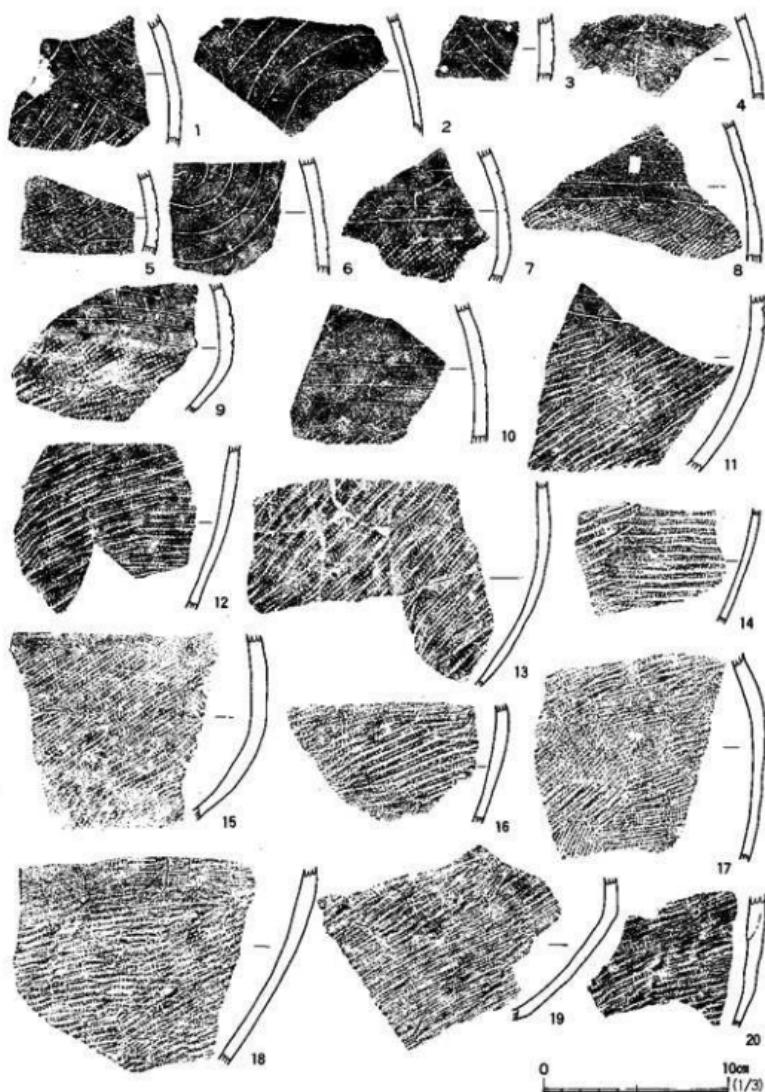


第68図 1号土坑墓出土の弥生土器(壺)

第2編 一ノ塚B遺跡

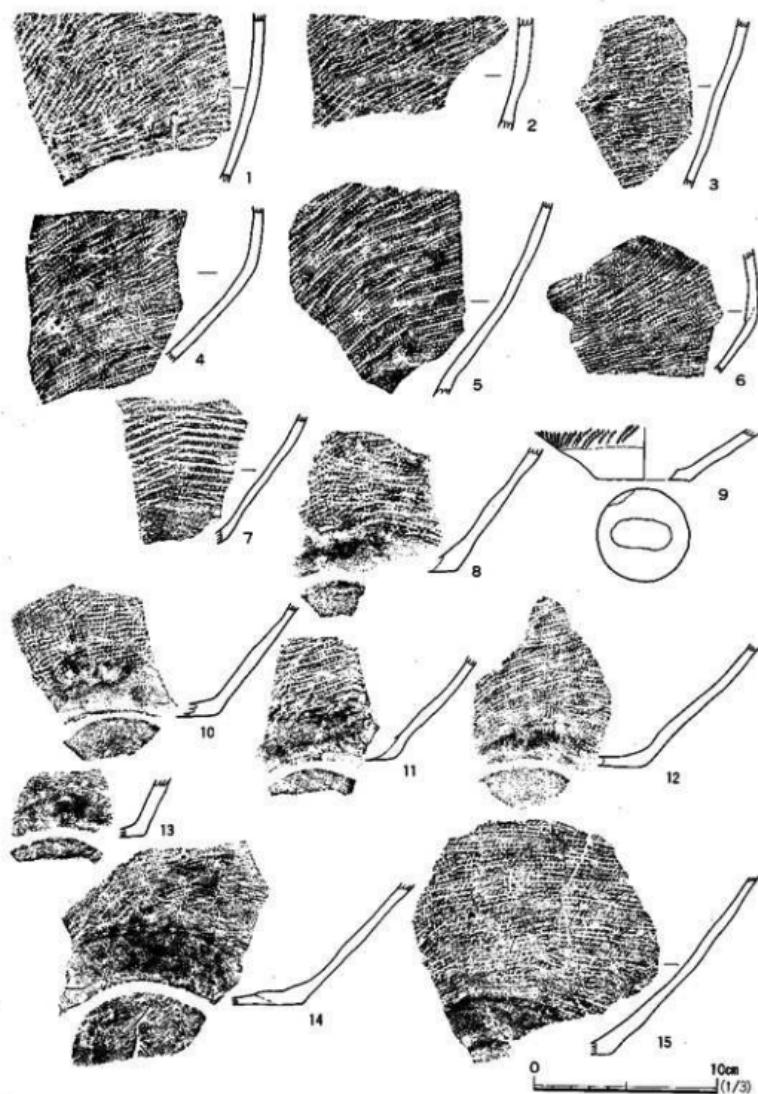


第69図 1号土坑墓出土の弥生土器(壹)

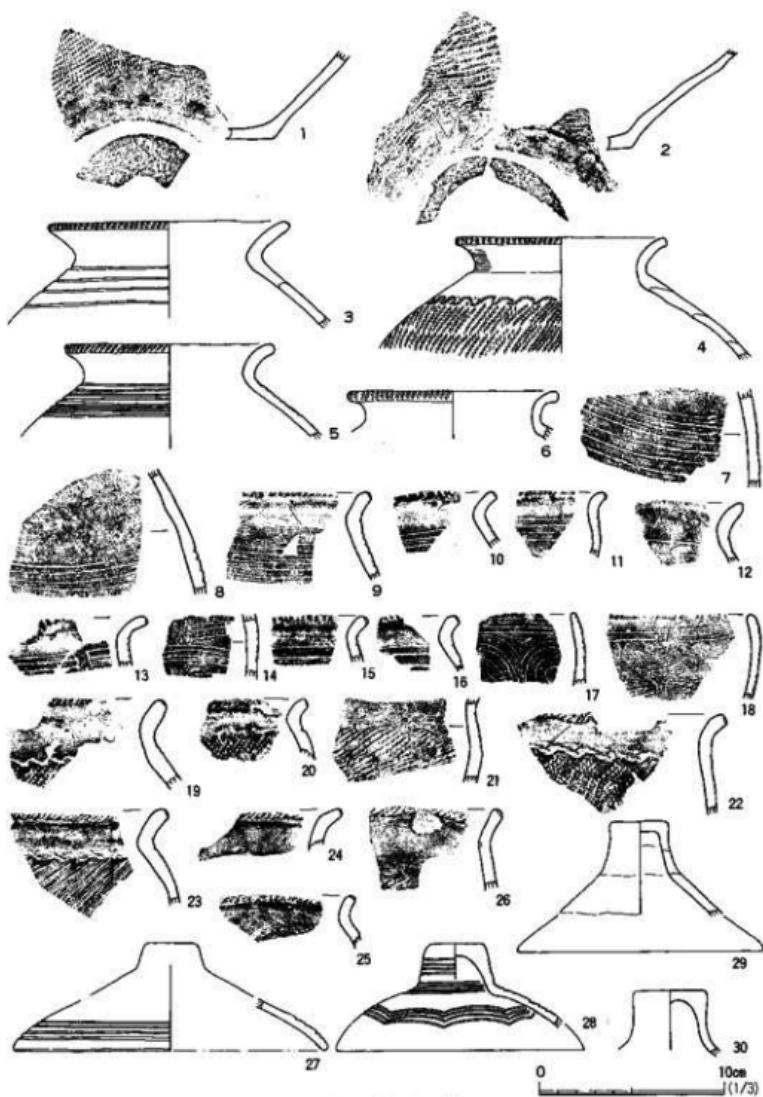


第70図 1号土坑墓出土の弥生土器(壺)

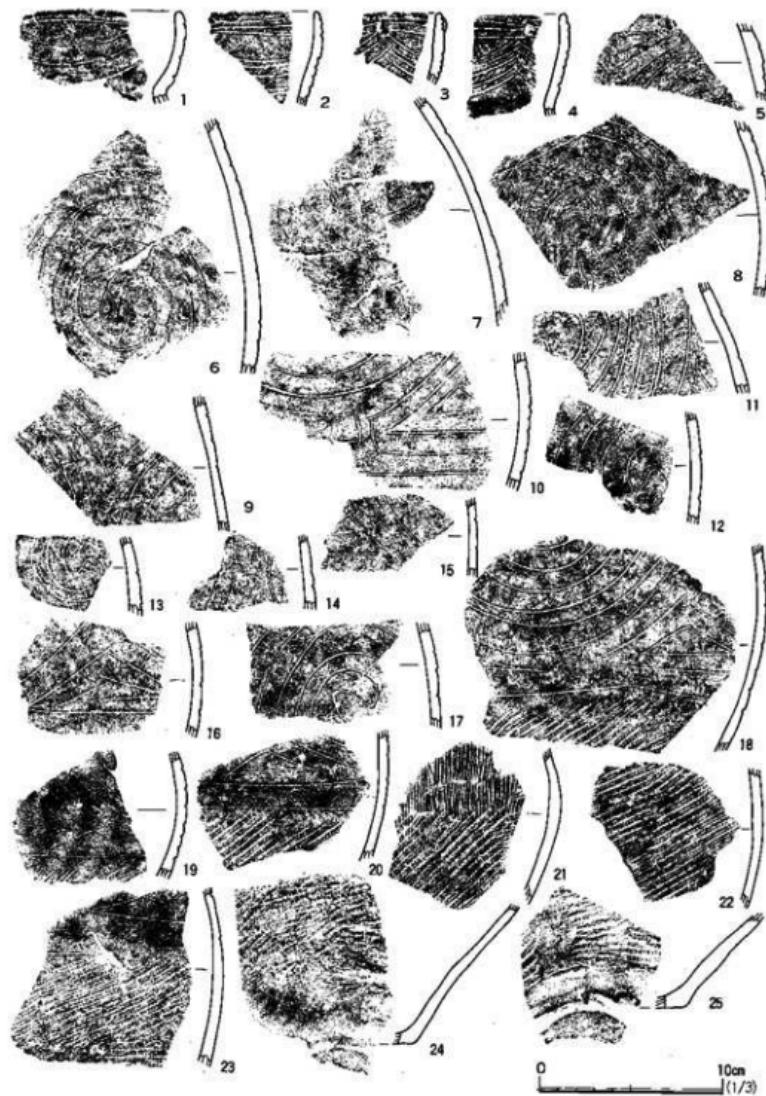
第2図 一ノ塙B遺跡



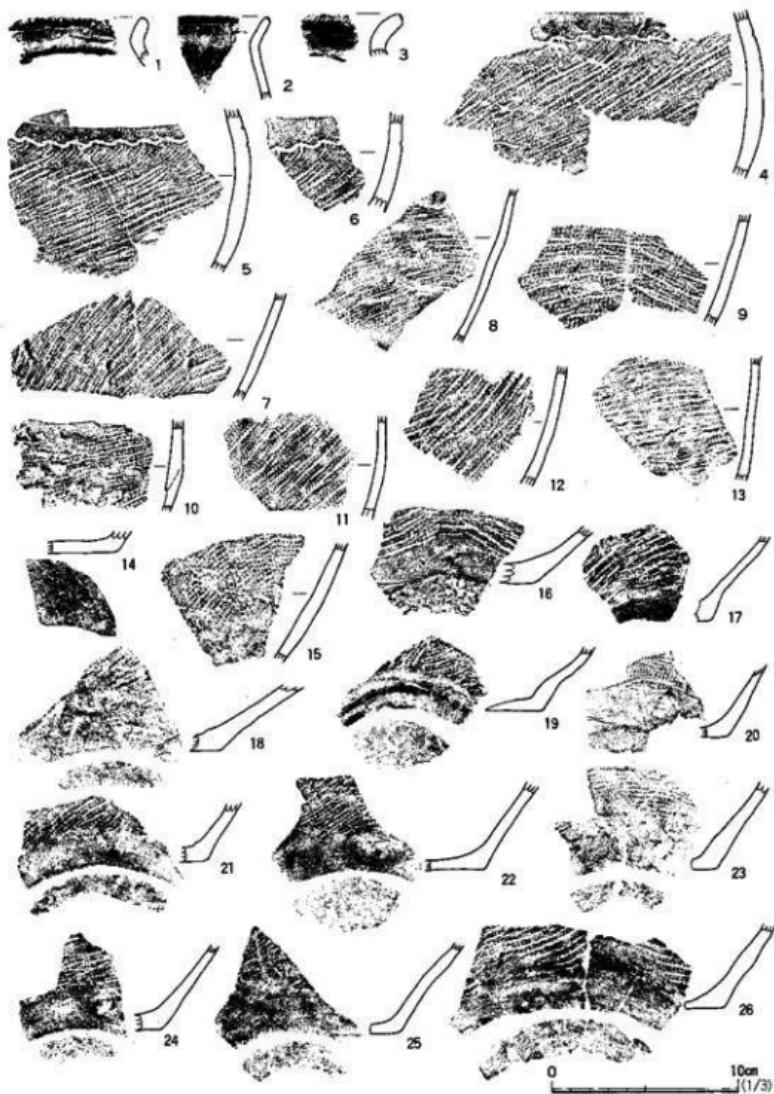
第71図 1号土坑墓出土の弥生土器 (壺)



第72図 1号土坑墓出土の弥生土器(壺・鉢・甌・蓋)

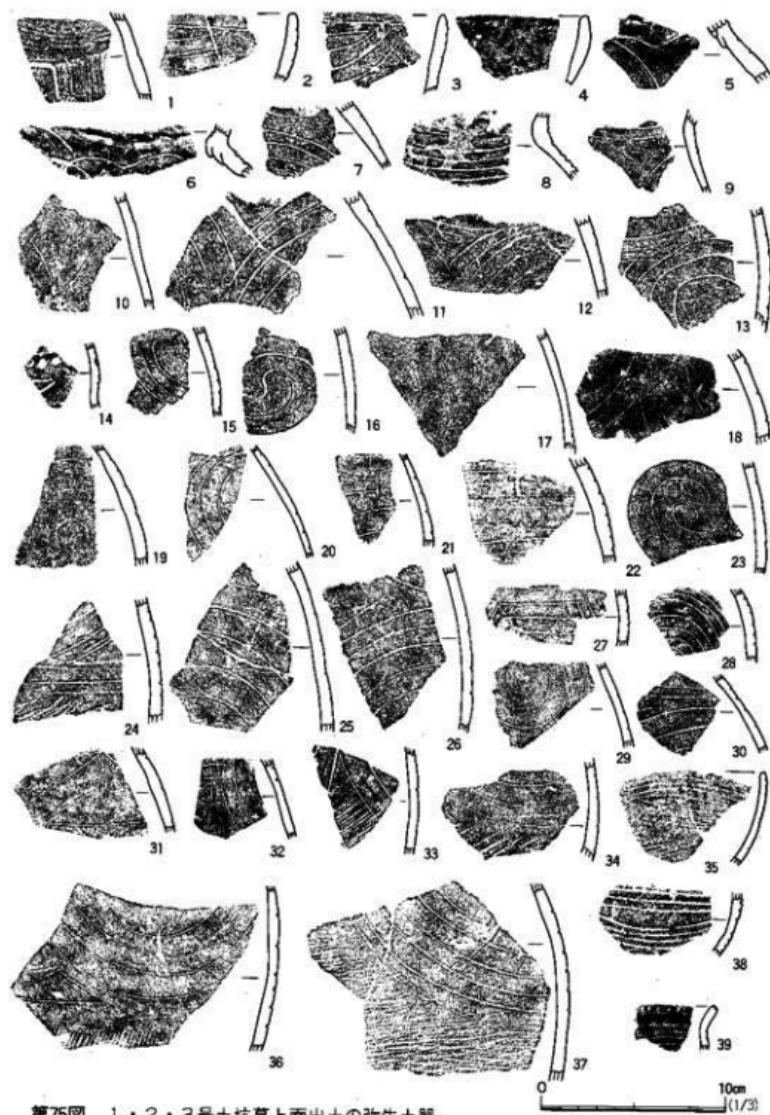


第73図 2号土坑墓出土の弥生土器(壺)

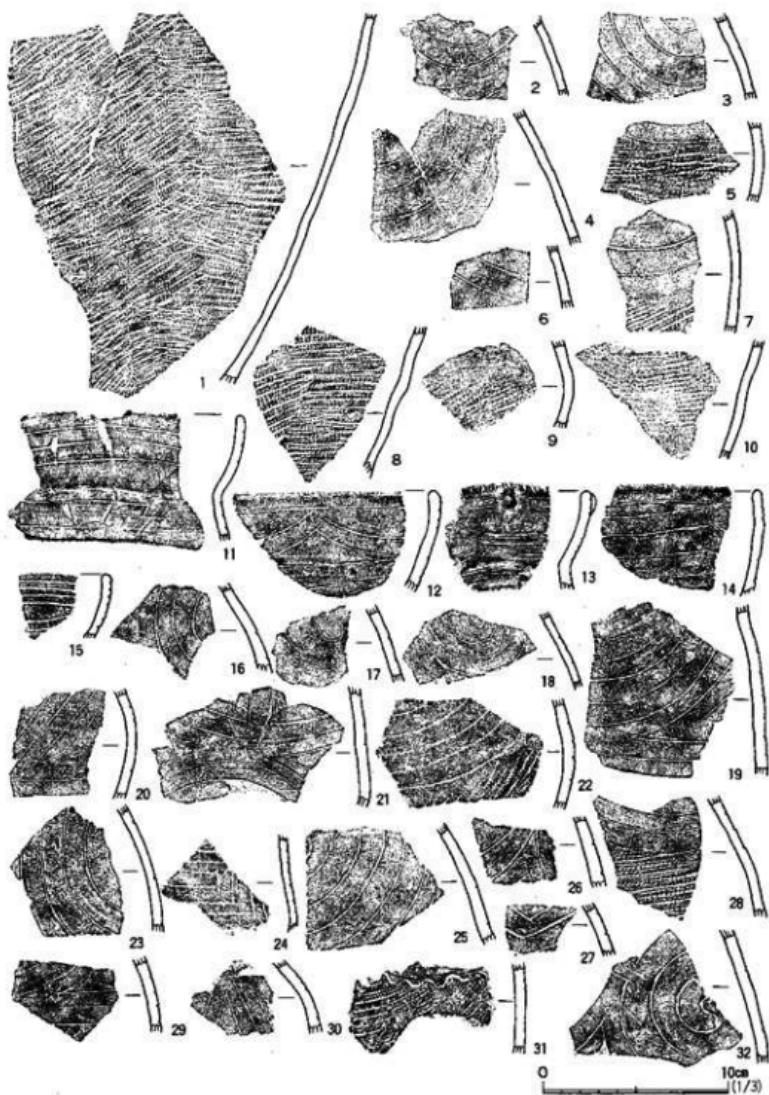


第74図 1・2・3号土坑墓上面出土の弥生土器

第2編 一ノ塚B遺跡



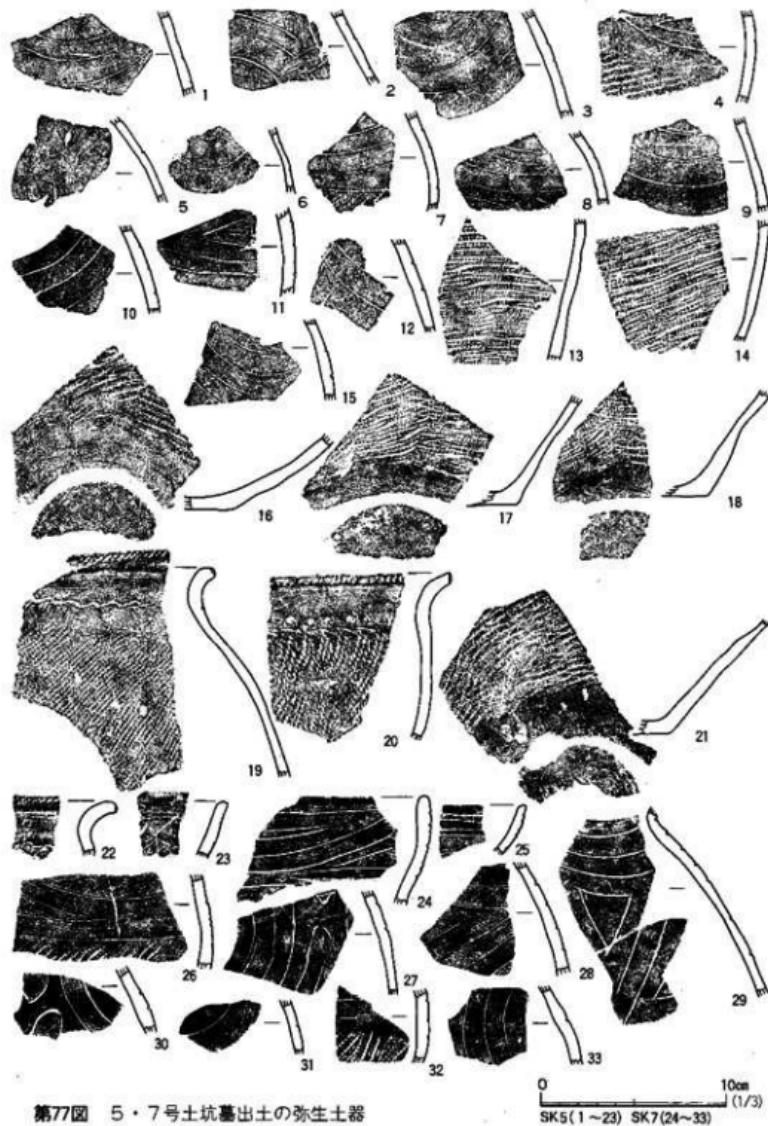
第75図 1・2・3号土坑墓上面出土の弥生土器



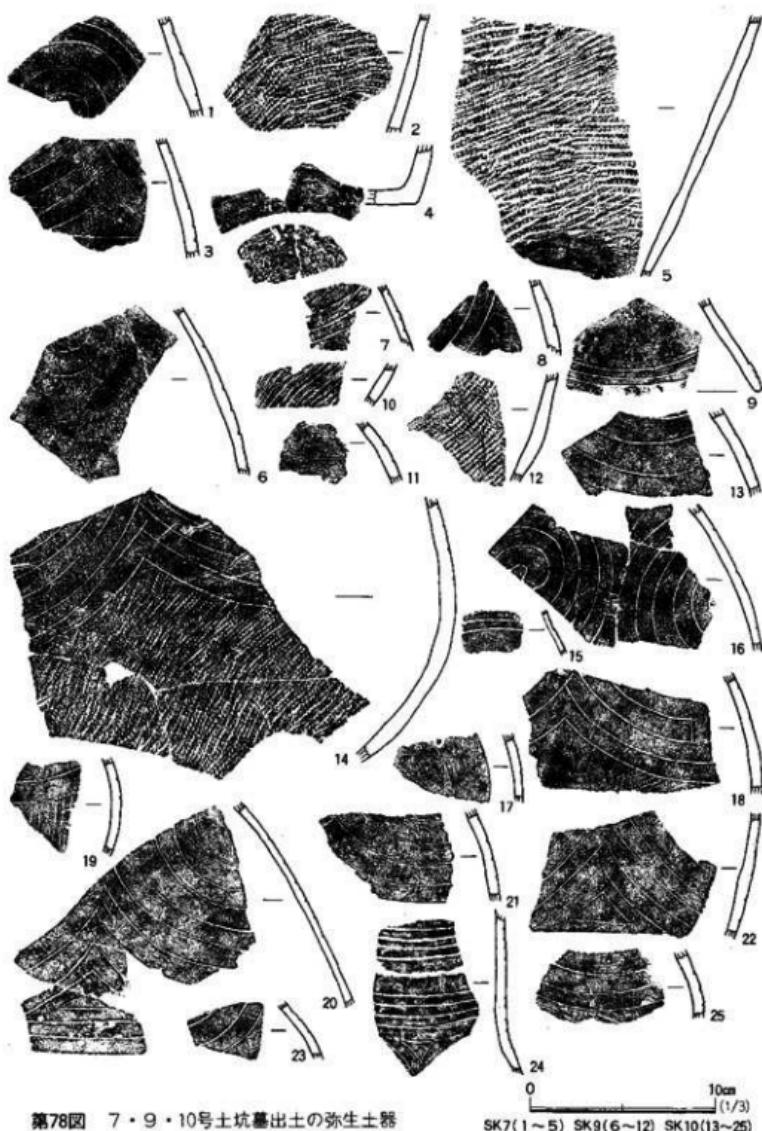
第76図 3・4・5号土坑墓の弥生土器

SK3(1・2) SK4(3~10) SK5(11~32)

第2編 一ノ塚B遺跡



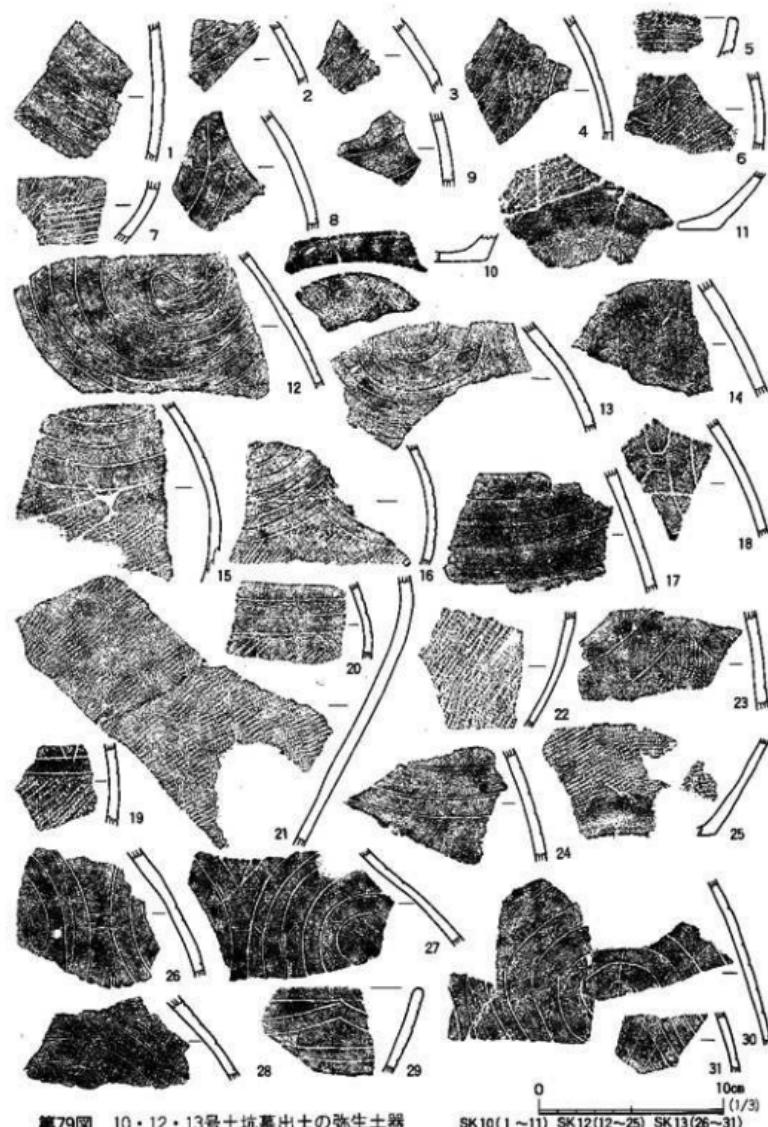
第77図 5・7号土坑墓出土の弥生土器



第78図 7・9・10号土坑墓出土の弥生土器

SK7(1~5) SK9(6~12) SK10(13~25)

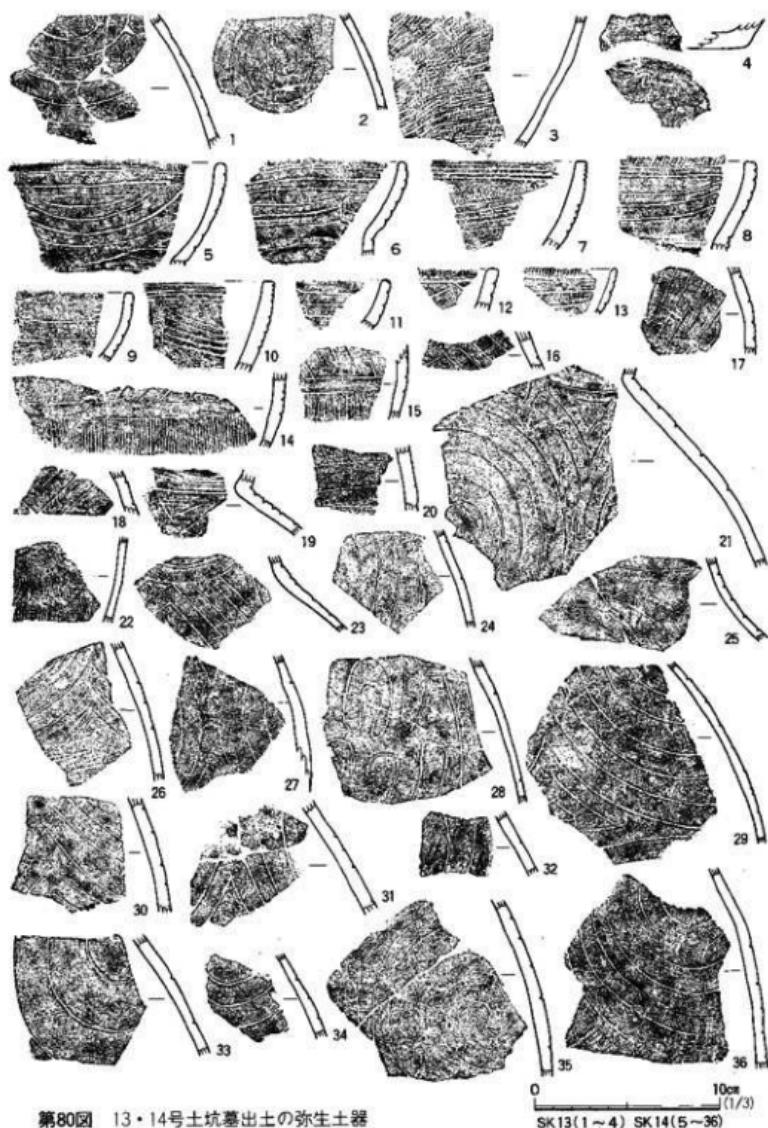
第2編 一ノ塙B遺跡



第79図 10・12・13号土坑墓出土の弥生土器

SK10(1~11) SK12(12~25) SK13(26~31)

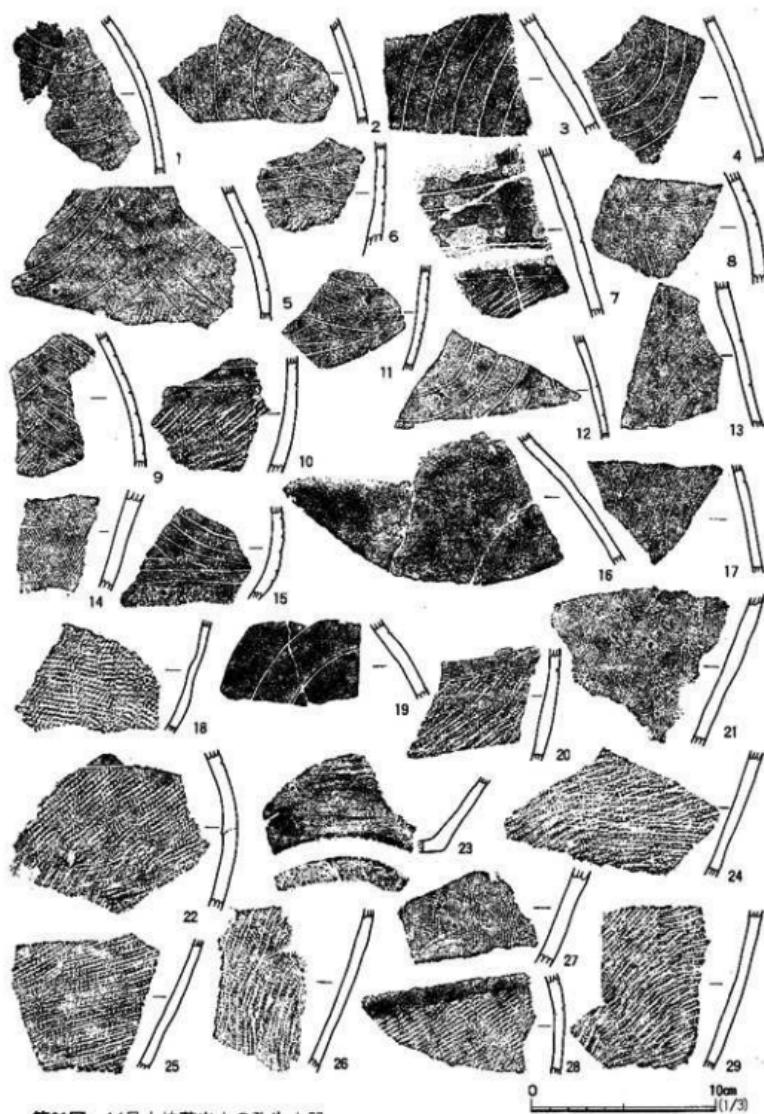
0 10cm (1/3)



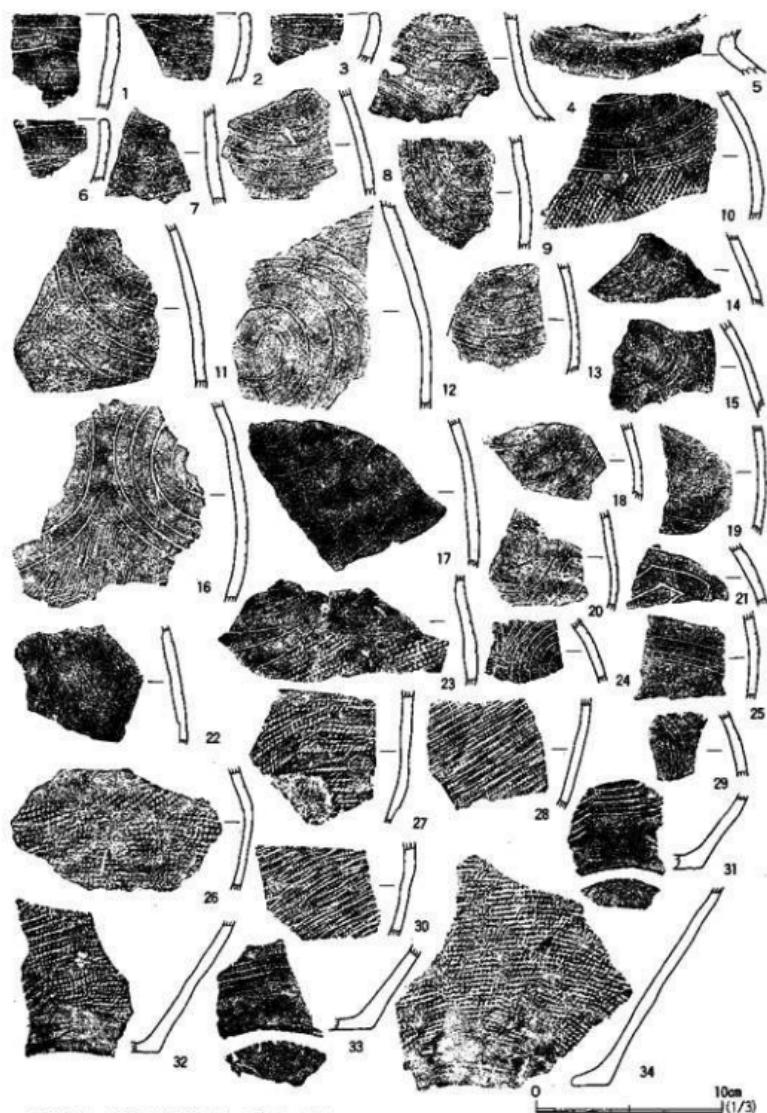
第80図 13・14号土坑墓出土の弥生土器

0
10cm
(1/3)
SK13(1~4) SK14(5~36)

第2編 一ノ塚B遺跡

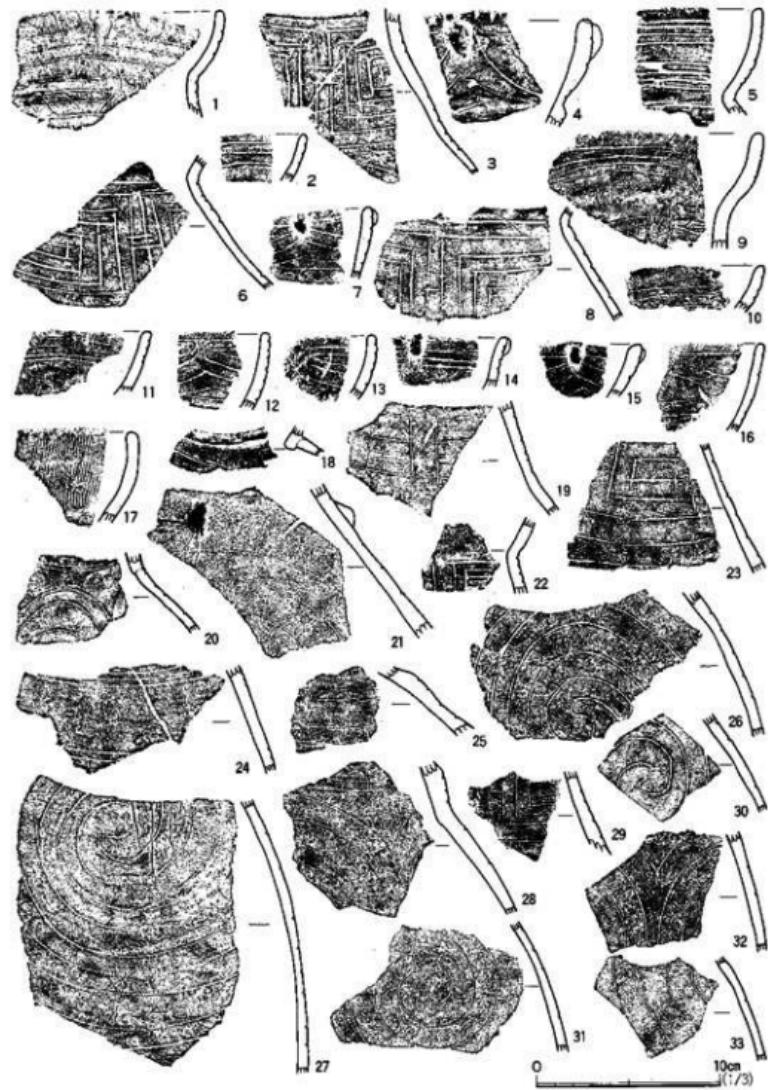


第81図 14号土坑墓出土の弥生土器

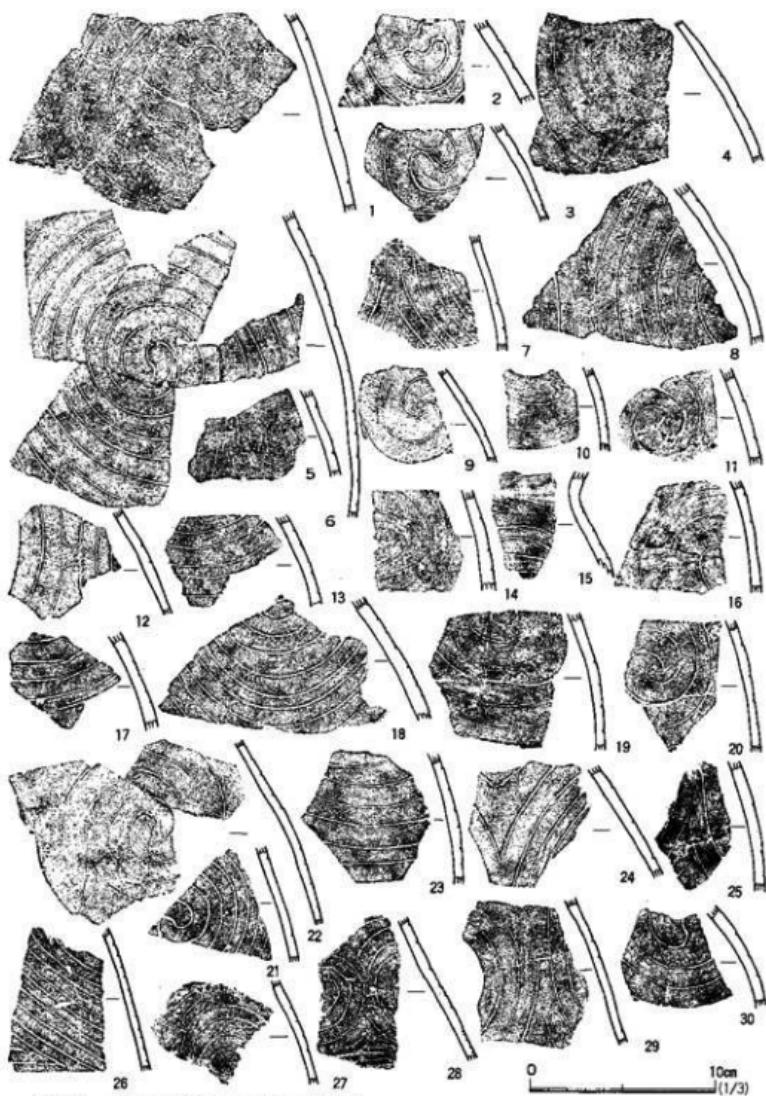


第82図 15号土坑墓出土の弥生土器

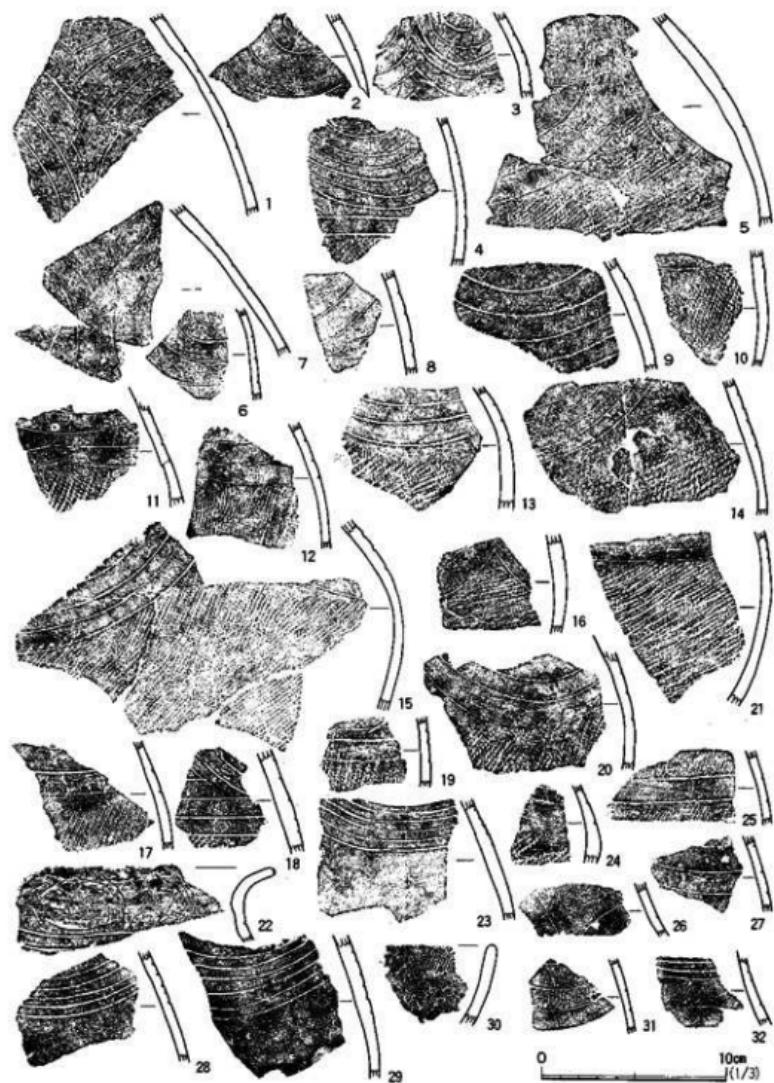
第2編 一ノ塚B遺跡



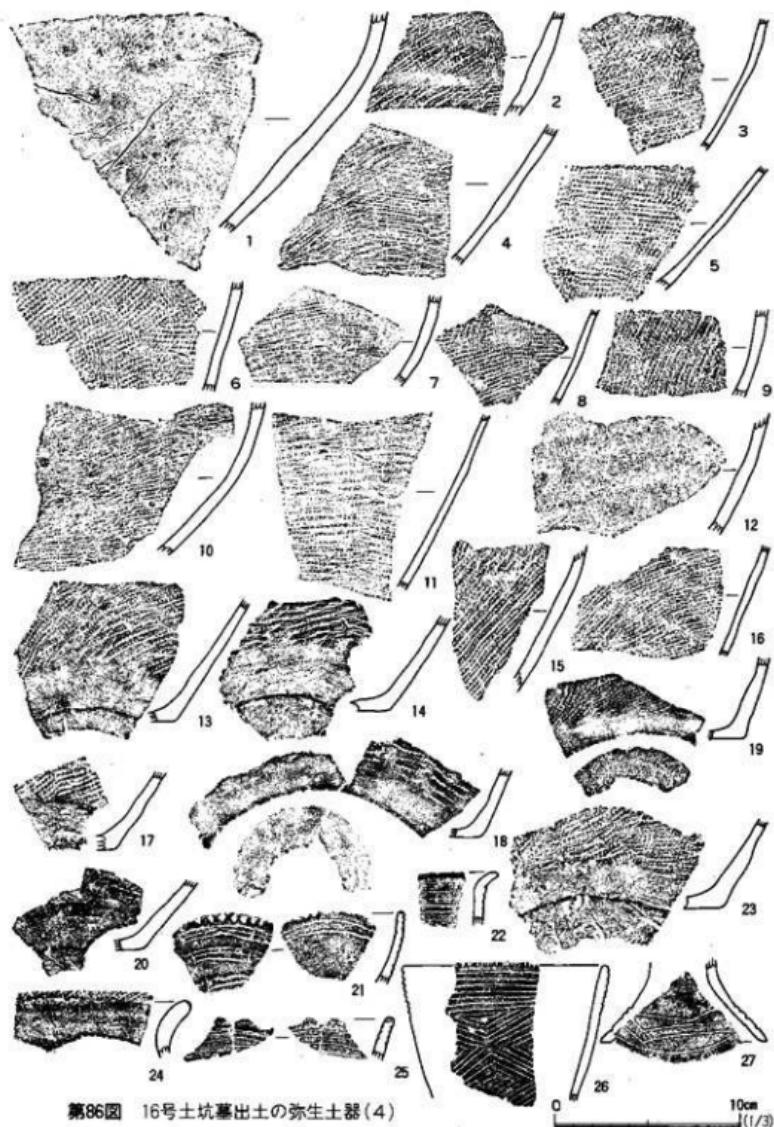
第83図 16号土坑墓出土の弥生土器(1)



第84図 16号土坑墓出土の弥生土器(2)

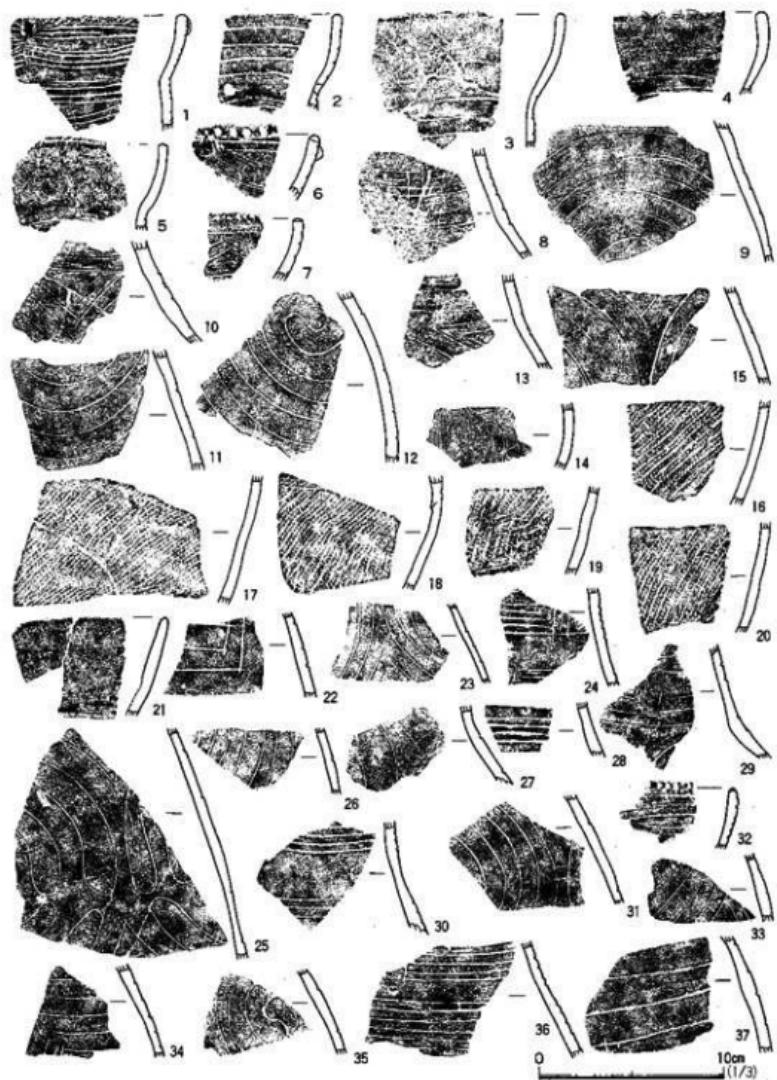


第85図 16号土坑墓出土の弥生土器(3)



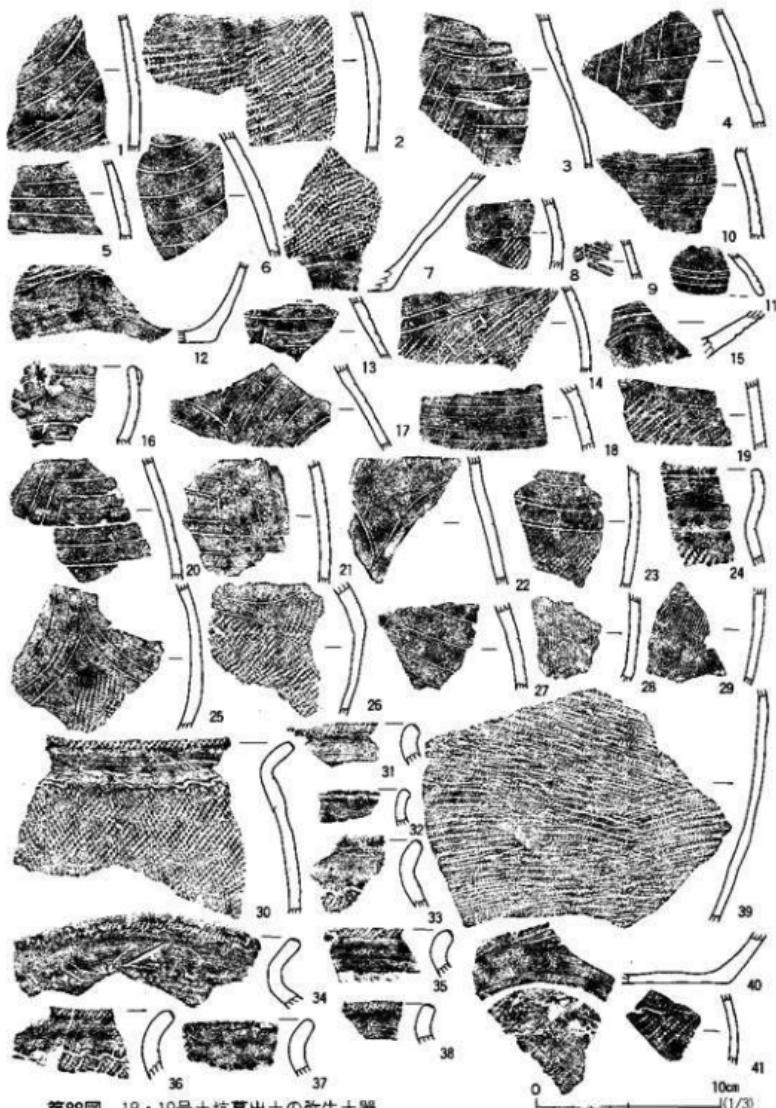
第86図 16号土坑墓出土の弥生土器(4)

第2図 一ノ塙B遺跡



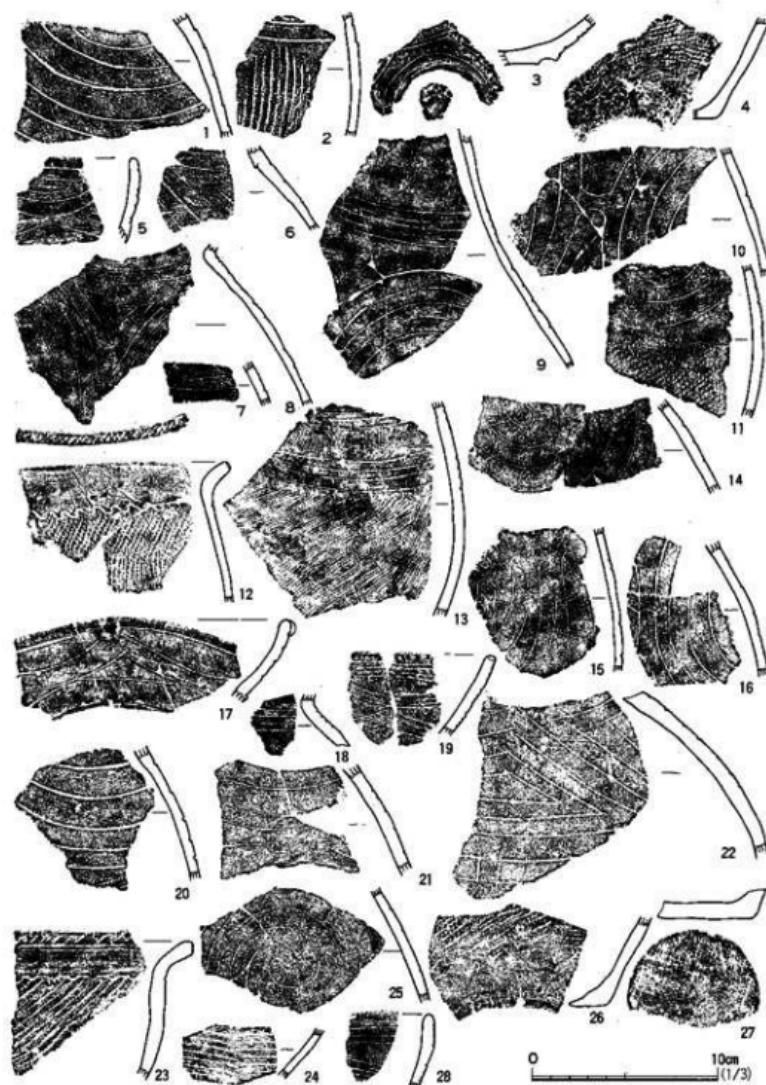
第87図 17・18号土坑墓出土の弥生土器

SK17(1~20) SK18(21~37)



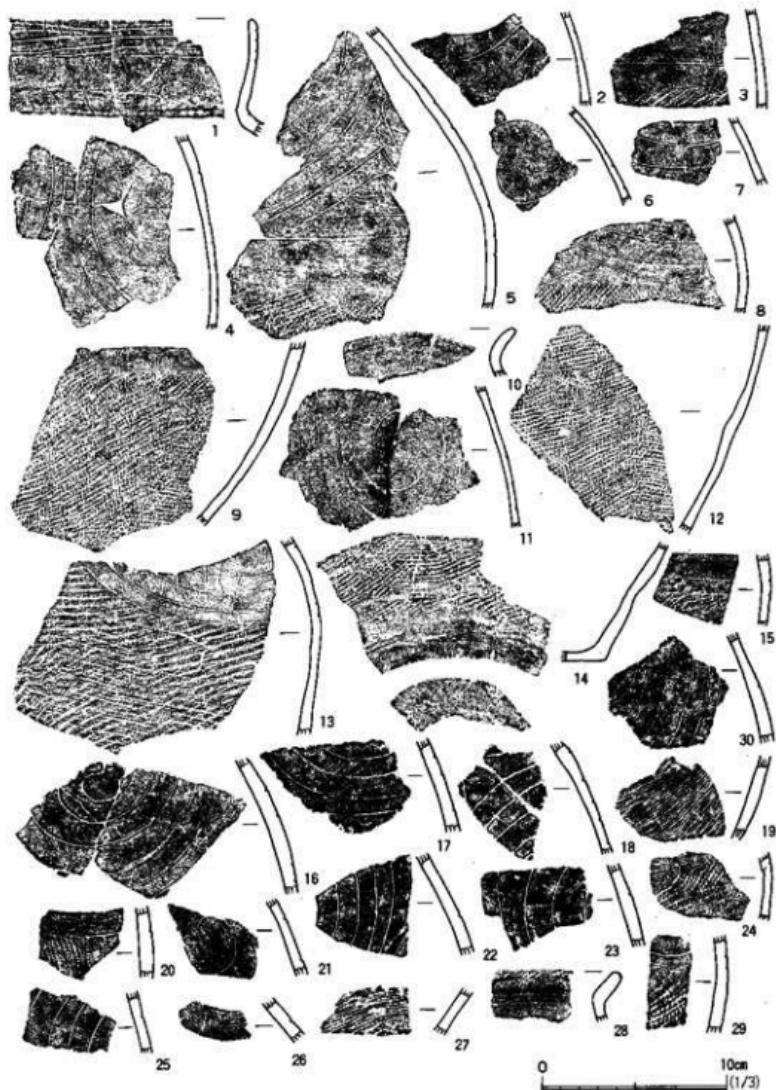
第88図 18・19号土坑墓出土の弥生土器

SK18(1~15) SK19(16~41)



第89図 20・21・22・23・24号土坑墓出土の弥生土器

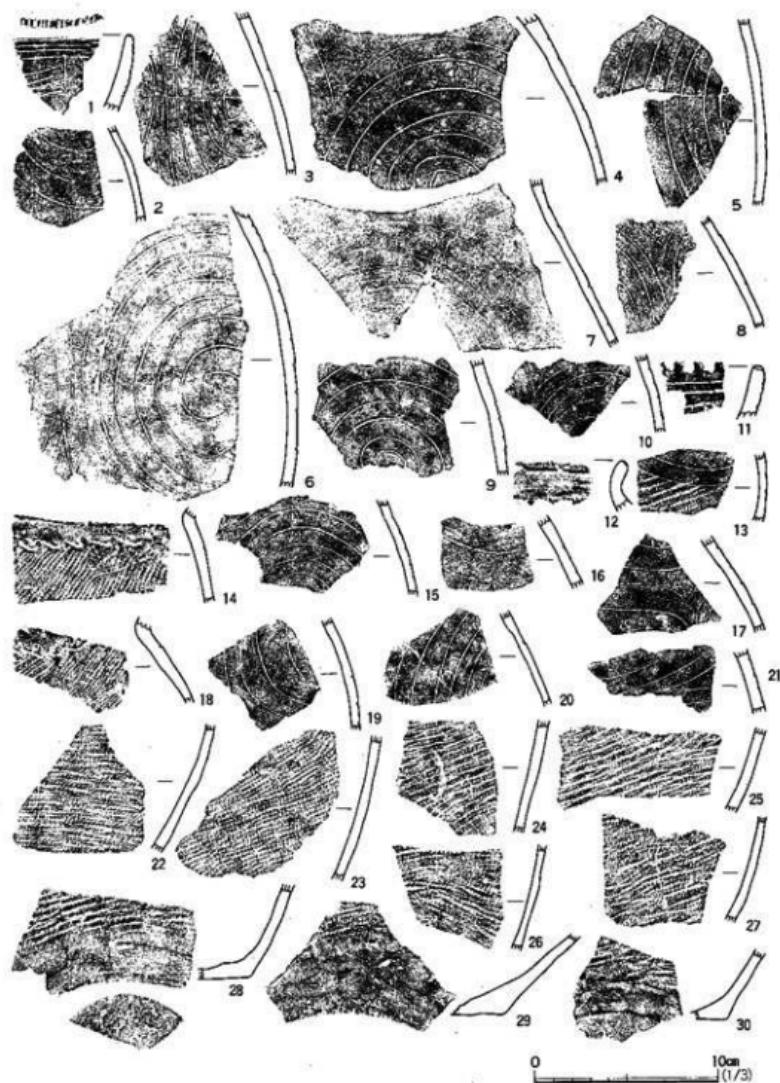
SK20(1~4) SK21(5・6)
SK22(7~15) SK23(16~27) SK24(28)



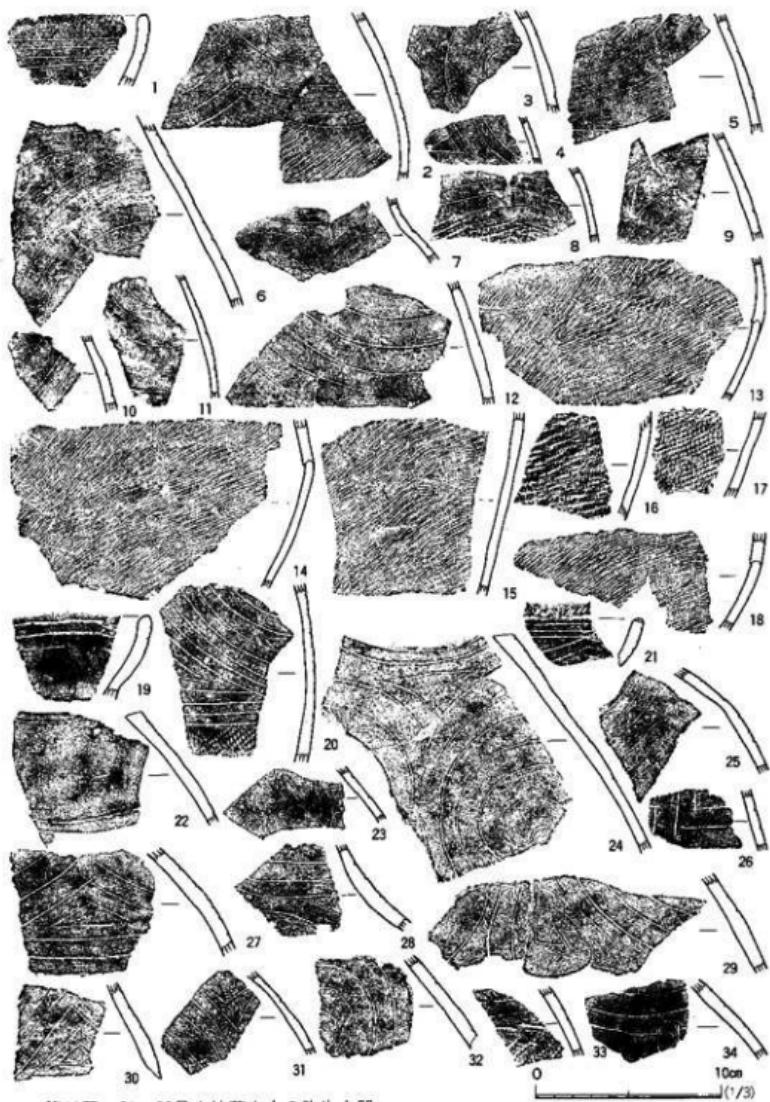
第90図 27・28・29号土坑墓出土の弥生土器

SK27(1~15) SK28(16~23) SK29(24~30)

第2圖 一ノ塚B遺跡



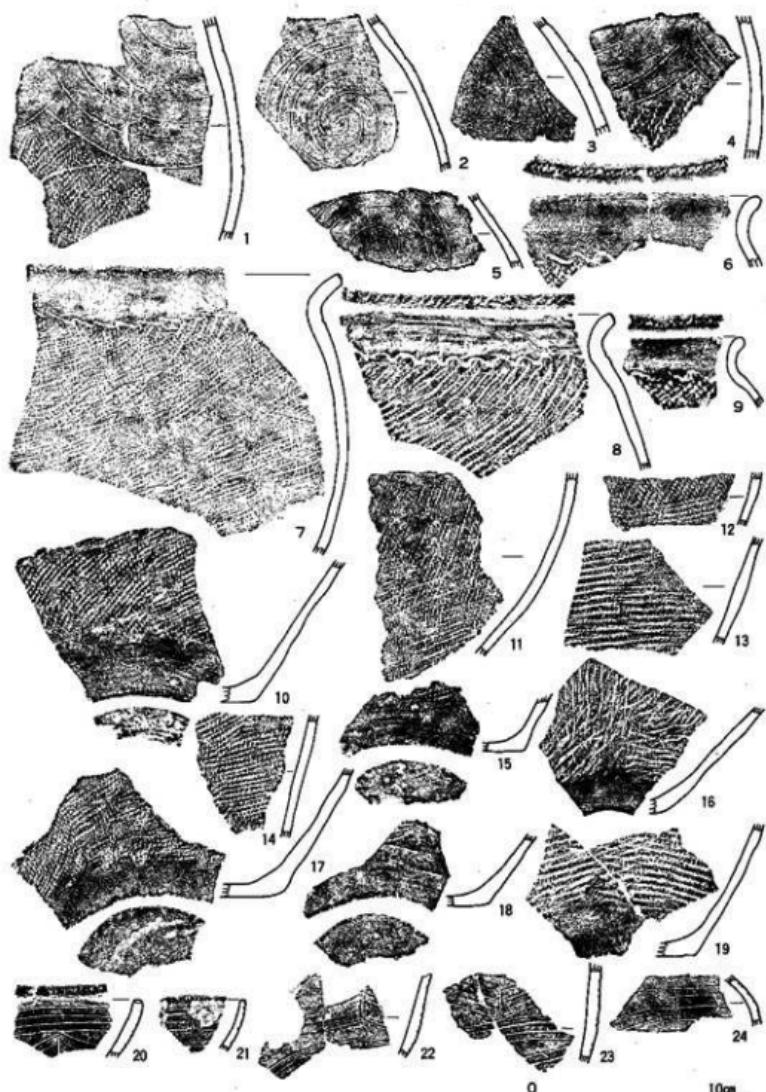
第91図 30号土坑墓出土の弥生土器



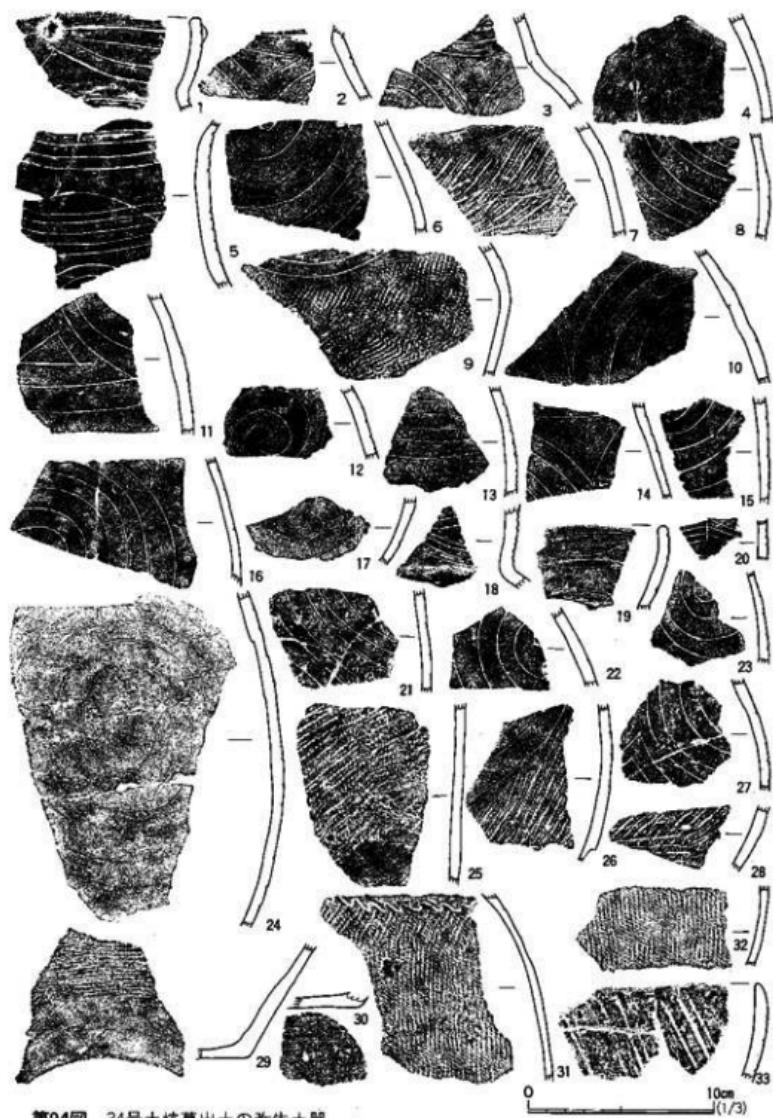
第92図 31・32号土坑墓出土の弥生土器

SK31(1~18) SK32(19~34)

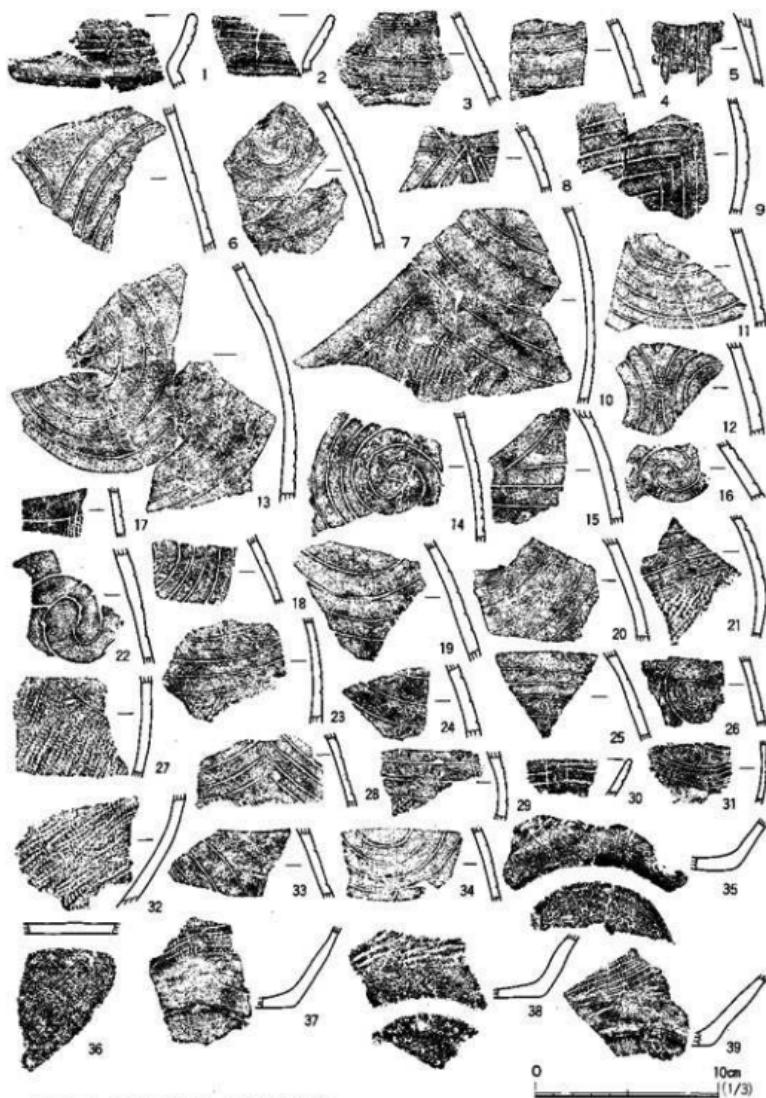
第2図 一ノ堀B道路



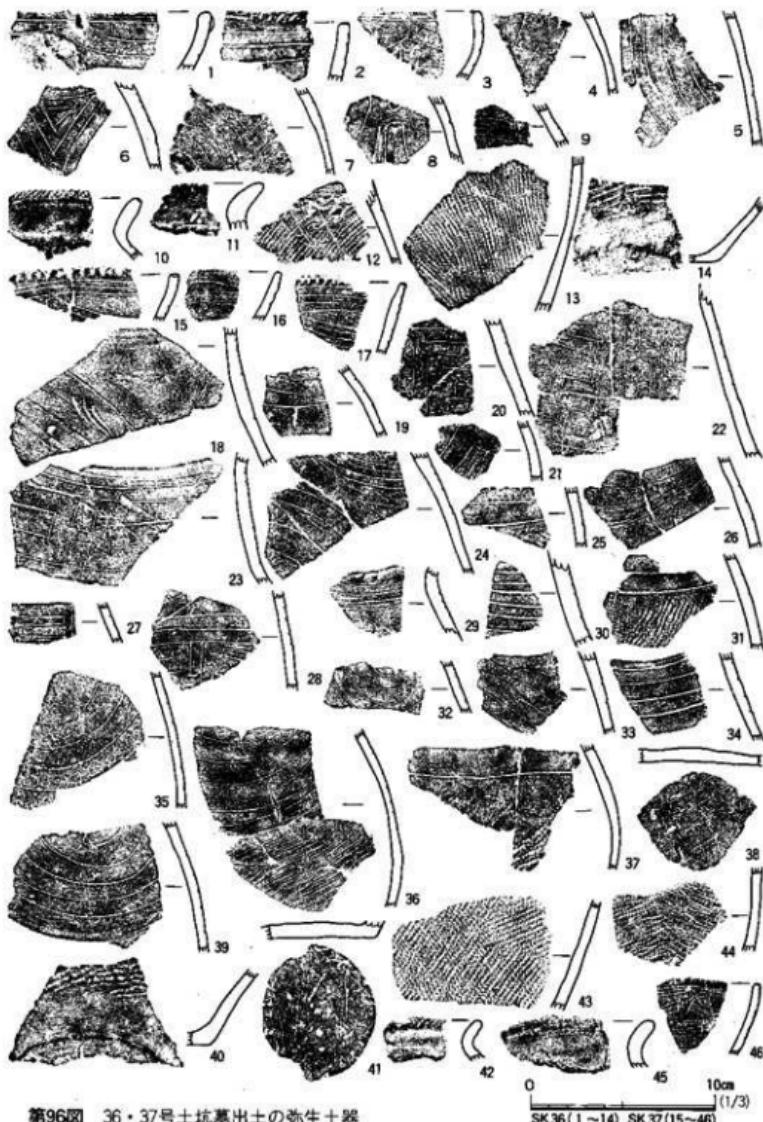
第93図 32号土坑墓出土の弥生土器



第94図 34号土坑墓出土の弥生土器



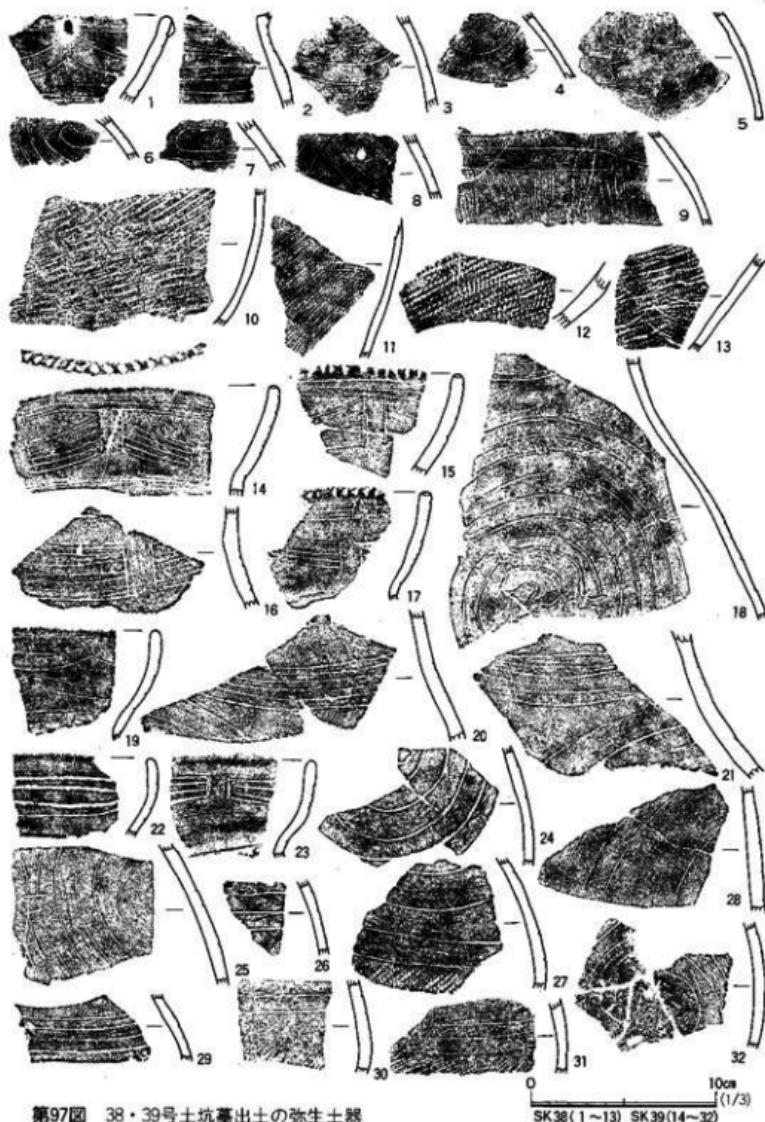
第95図 35号土坑墓出土の弥生土器



第96図 36・37号土坑墓出土の弥生土器

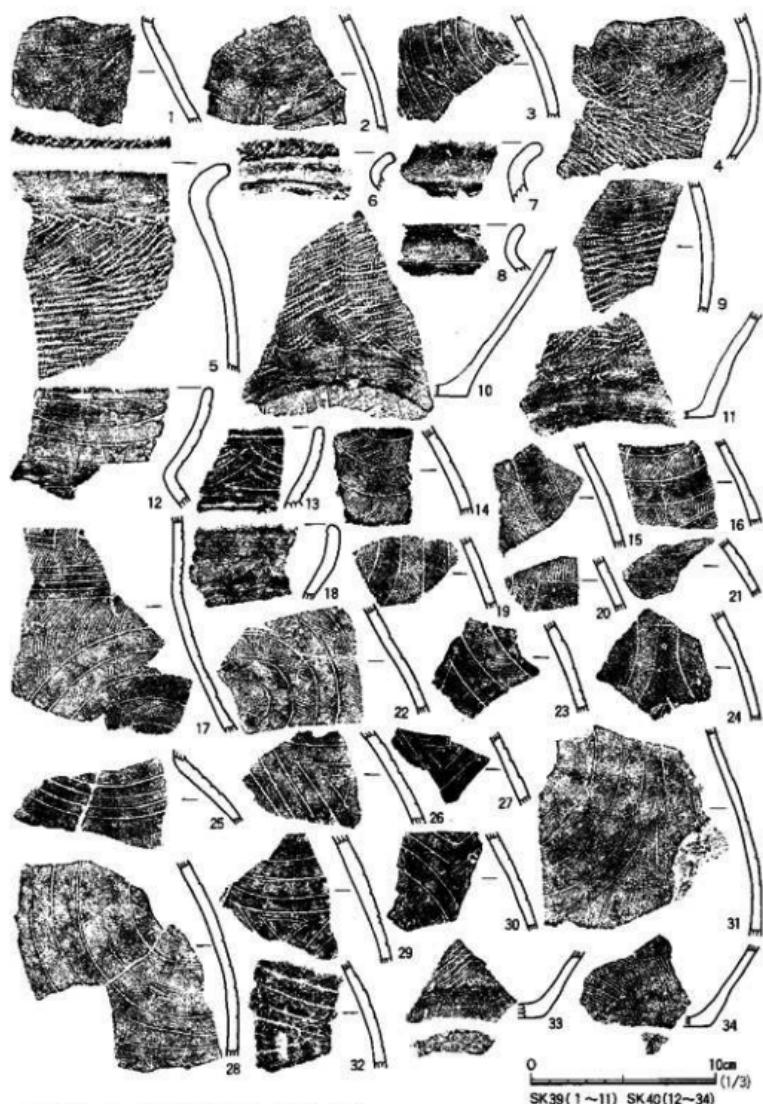
SK 36(1~14) SK 37(15~46)
10cm
(1/3)

第2編 --ノ塚B遺跡



第97図 38・39号土坑墓出土の弥生土器

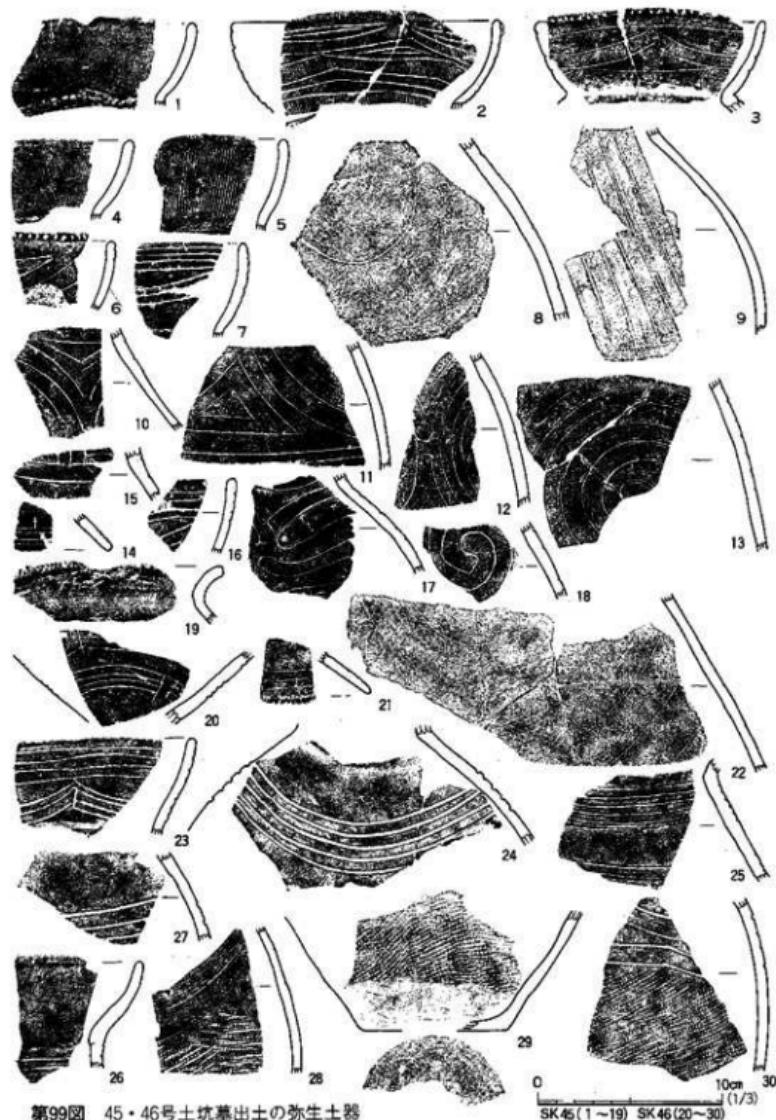
SK38(1~13) SK39(14~32)
10cm
(1/3)



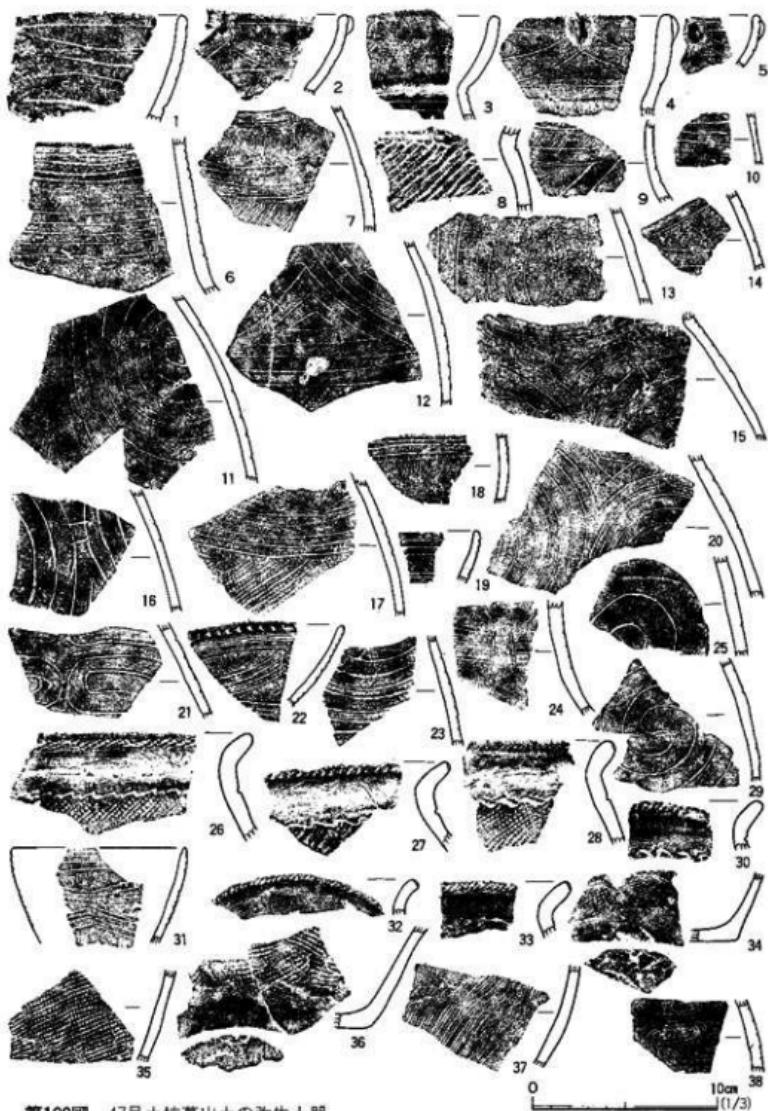
第98図 39・40号土坑墓出土の弥生土器

SK39(1~11) SK40(12~34)

第2編 一ノ坂B遺跡

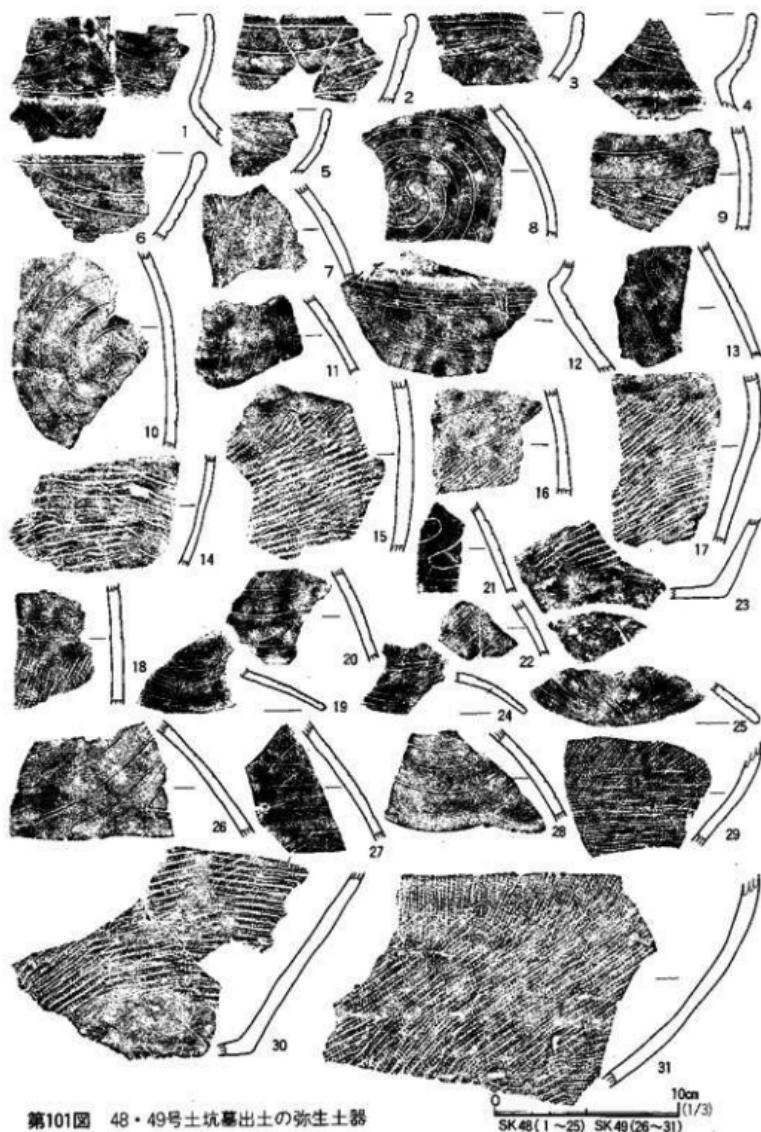


第99図 45・46号土坑墓出土の弥生土器

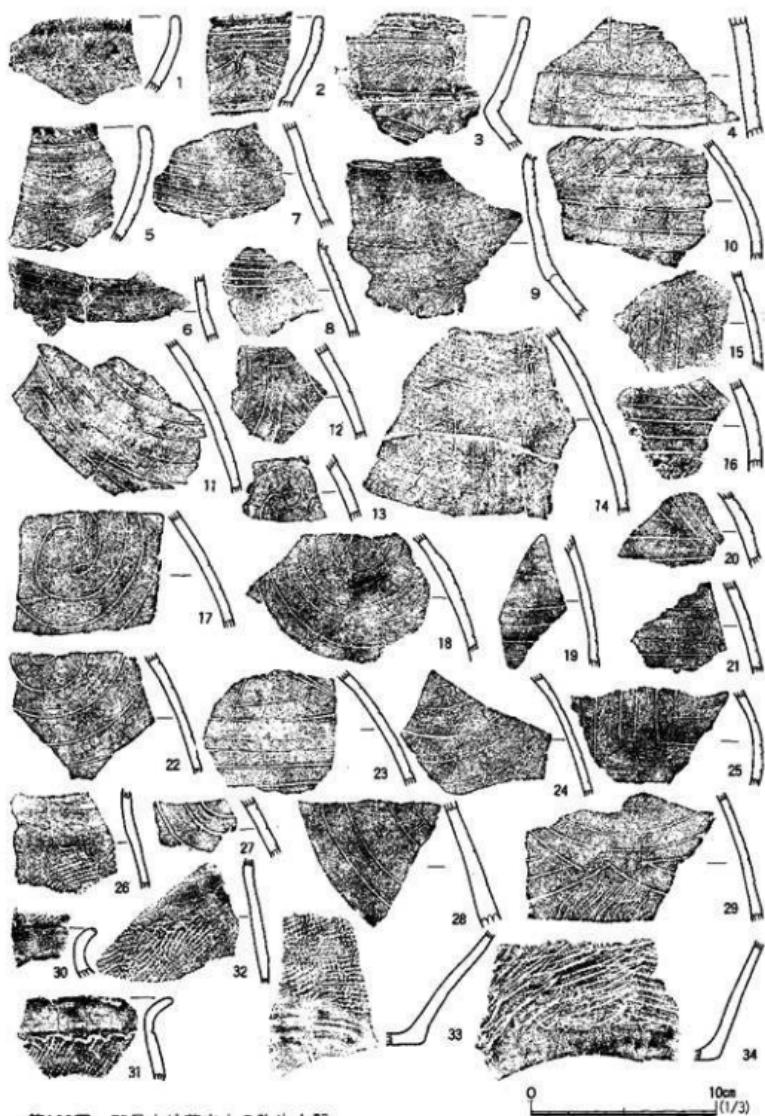


第100図 47号土坑墓出土の弥生土器

第2編 一ノ塚B遺跡

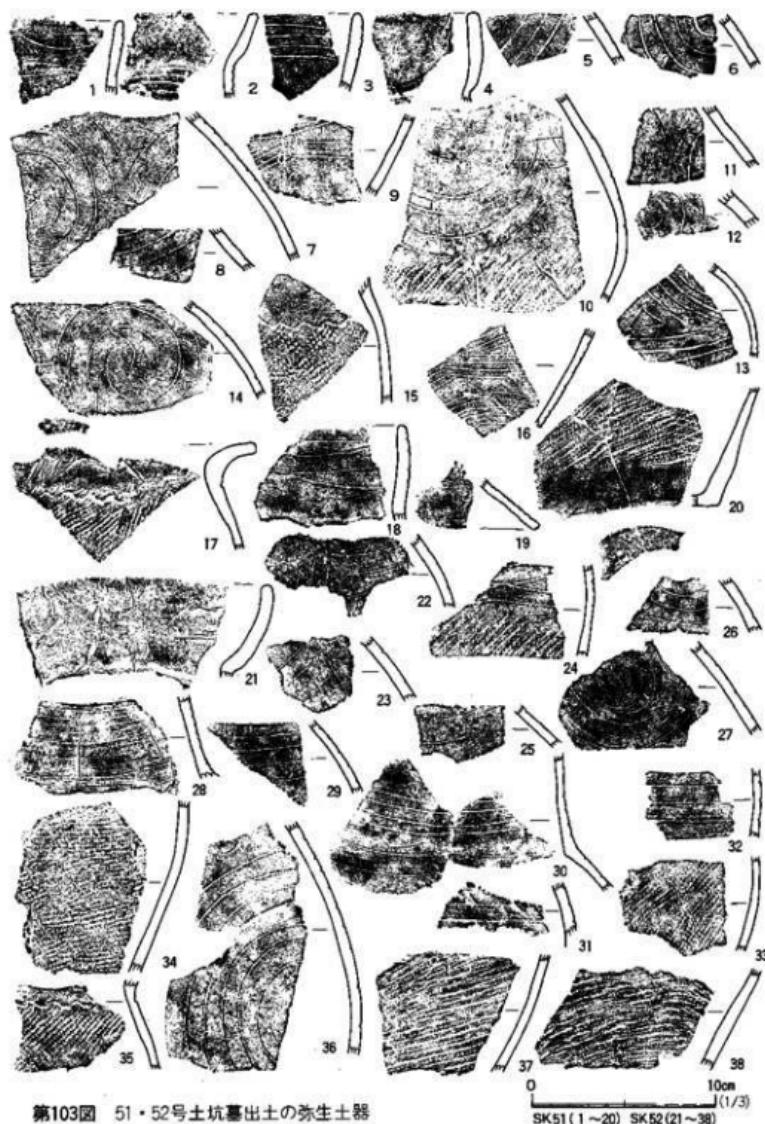


第101図 48・49号土坑墓出土の弥生土器



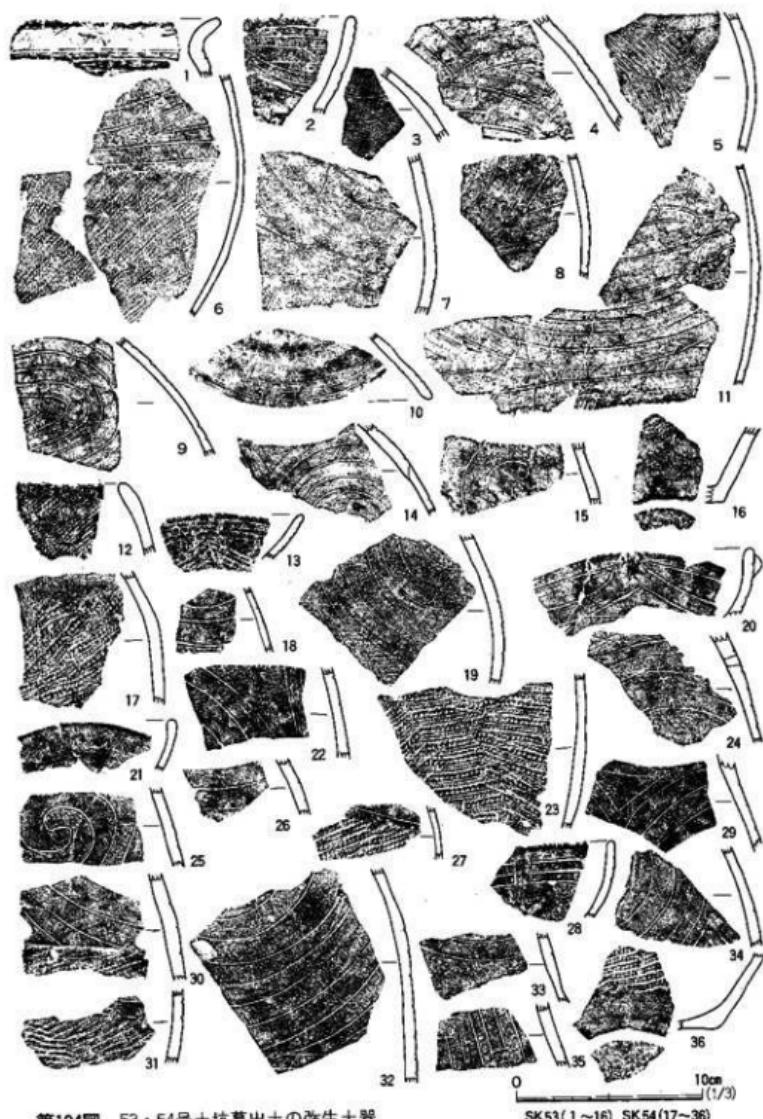
第102図 50号土坑墓出土の弥生土器

第2編 一ノ塚B遺跡



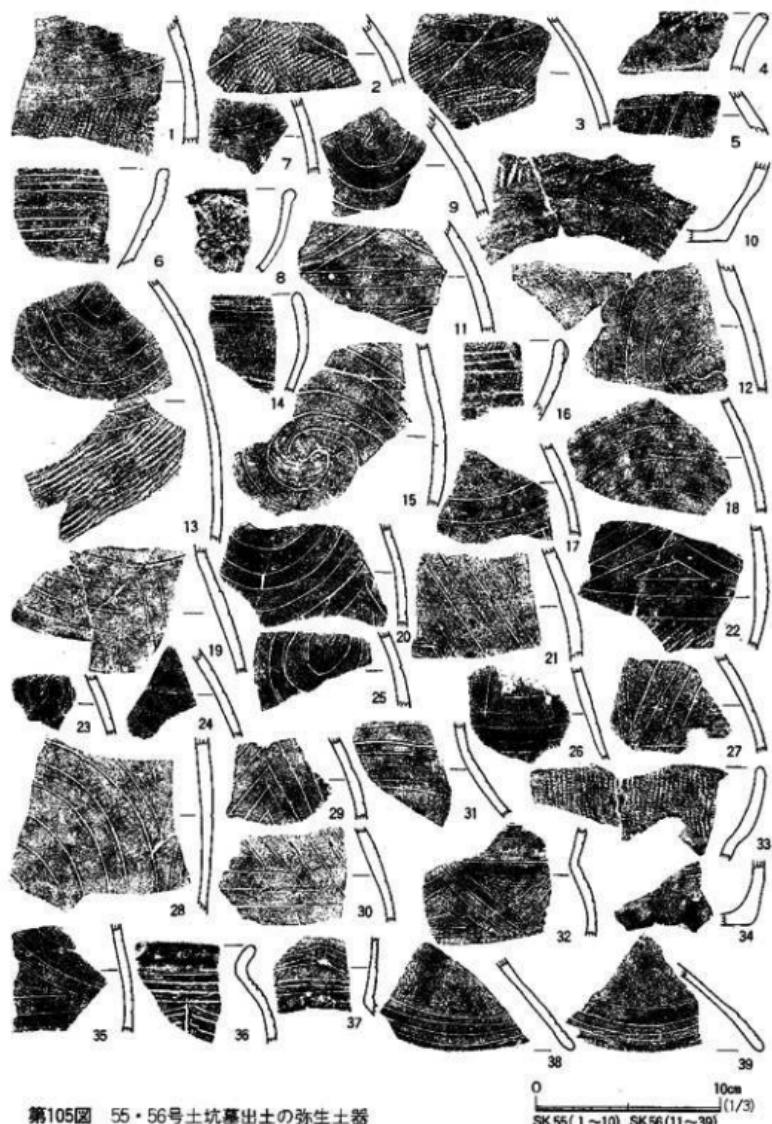
第103図 51・52号土坑墓出土の赤生土器

SK51(1~20) SK52(21~38)

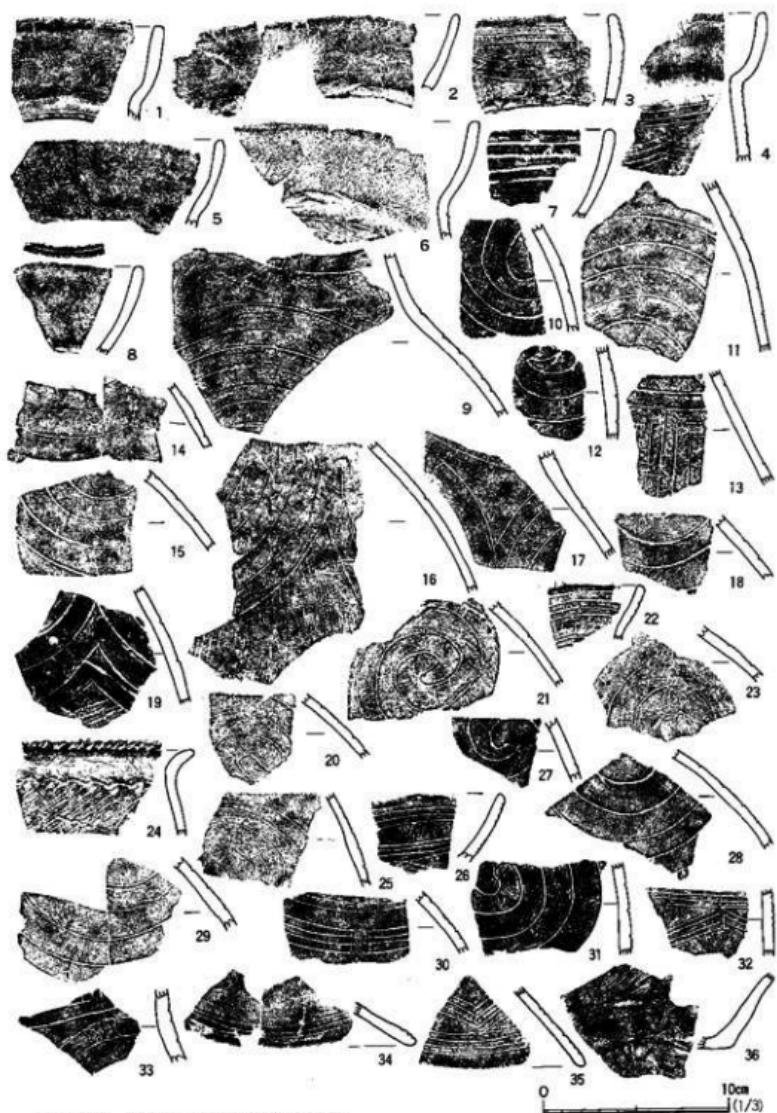


第104図 53・54号土坑墓出土の弥生土器

SK53(1~16) SK54(17~36)

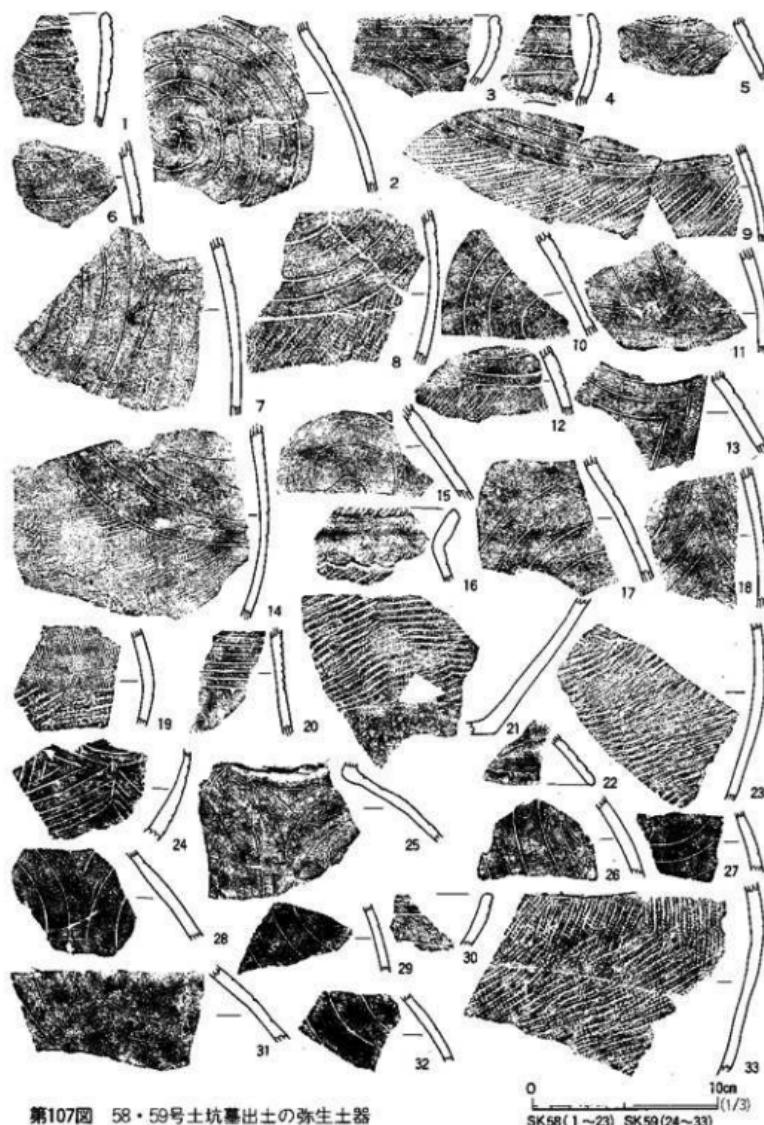


第105図 55・56号土坑墓出土の弥生土器

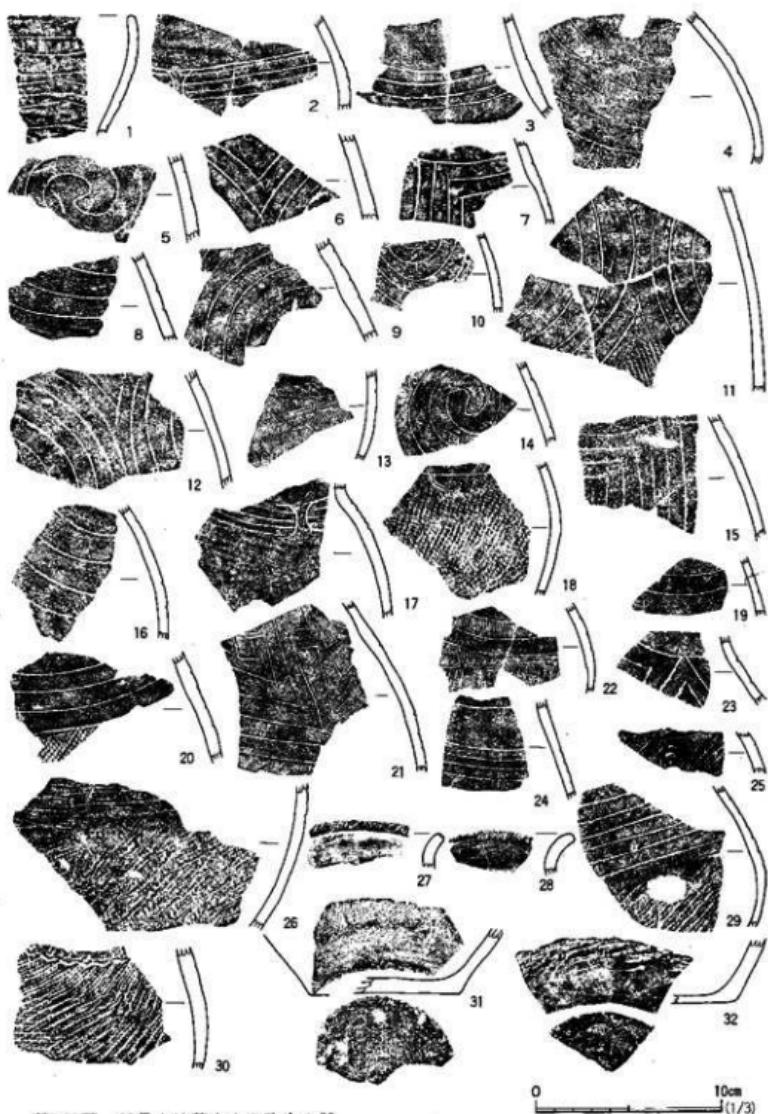


第106図 57号土坑墓出土の弥生土器

第2編 一ノ塚B遺跡

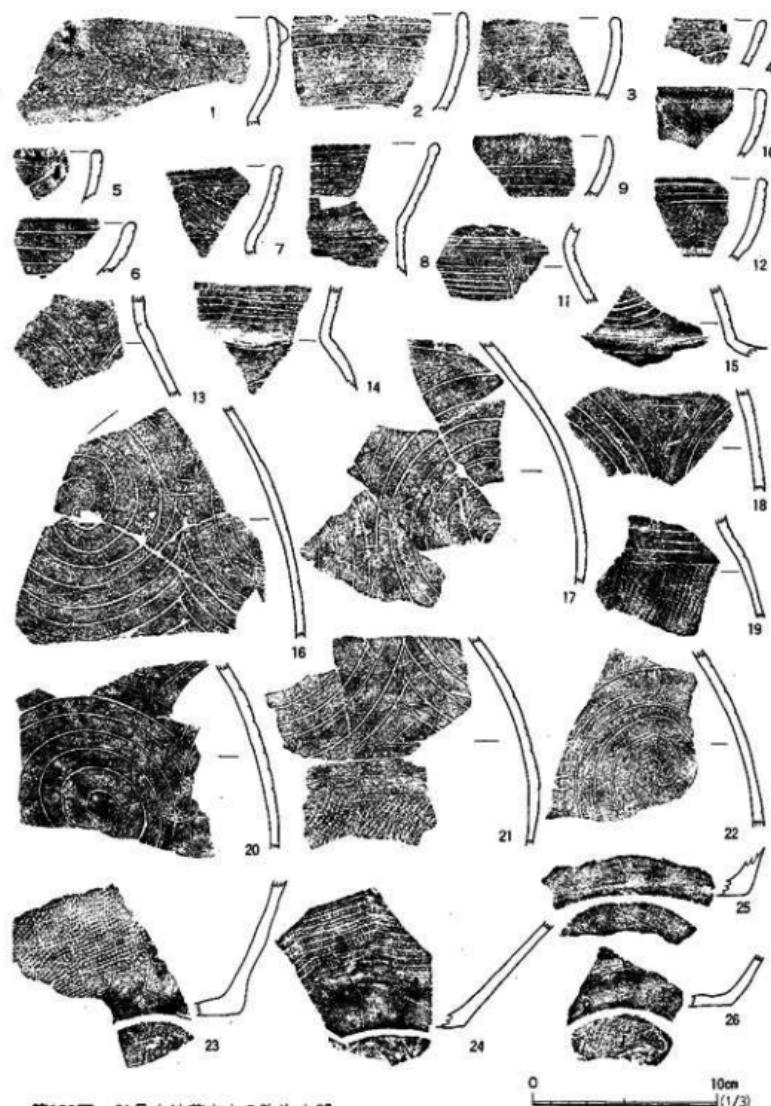


第107図 58・59号土坑墓出土の弥生土器

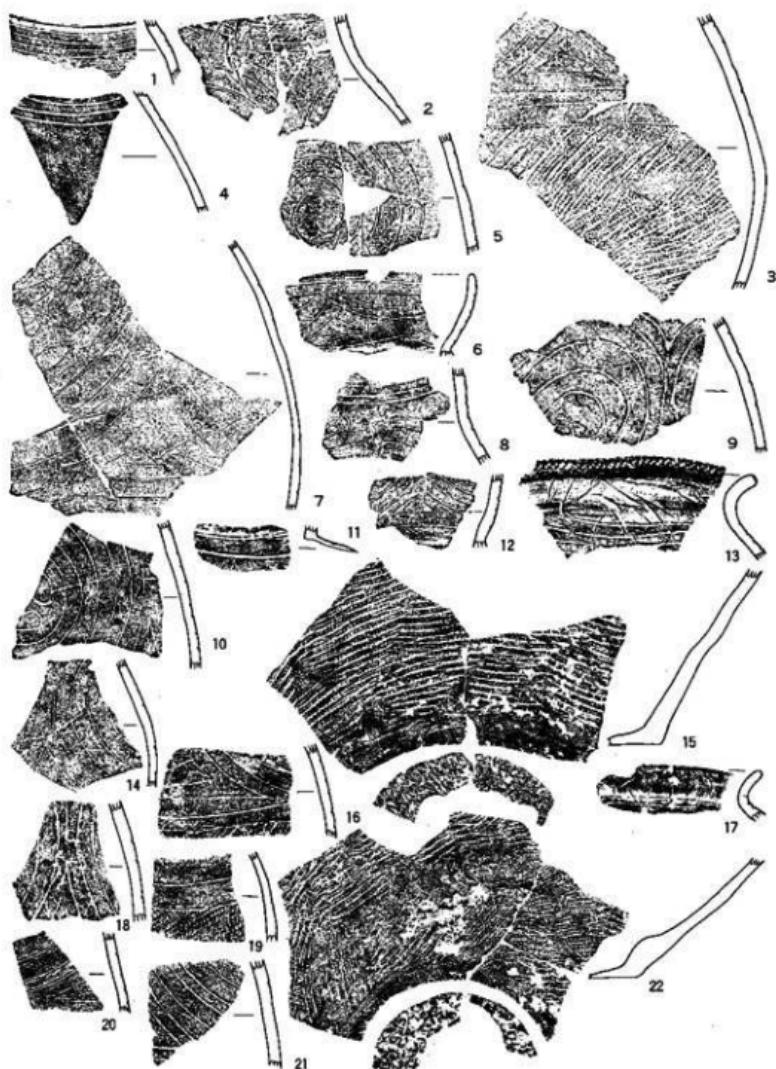


第108図 60号土坑墓出土の弥生土器

第2編 一ノ塙B遺跡



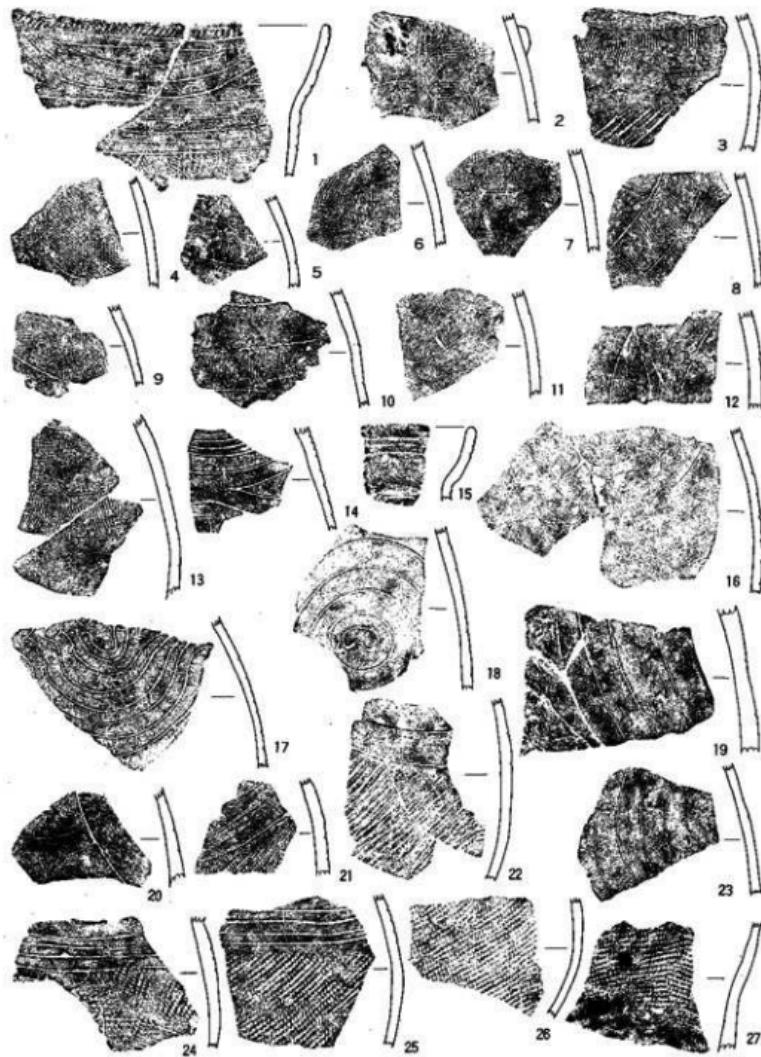
第109図 61号土坑墓出土の弥生土器



第110図 62号土坑墓出土の弥生土器

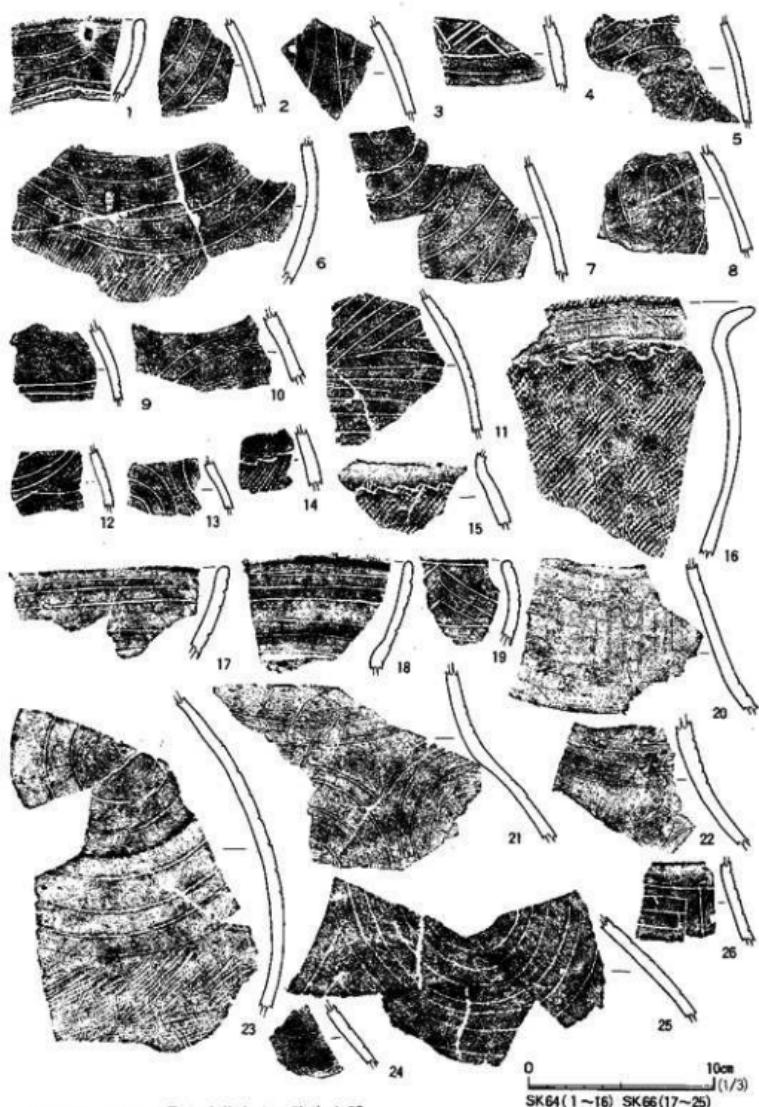
0 10cm
SK62(1~22) (1/3)

第2編 一ノ塙B遺跡



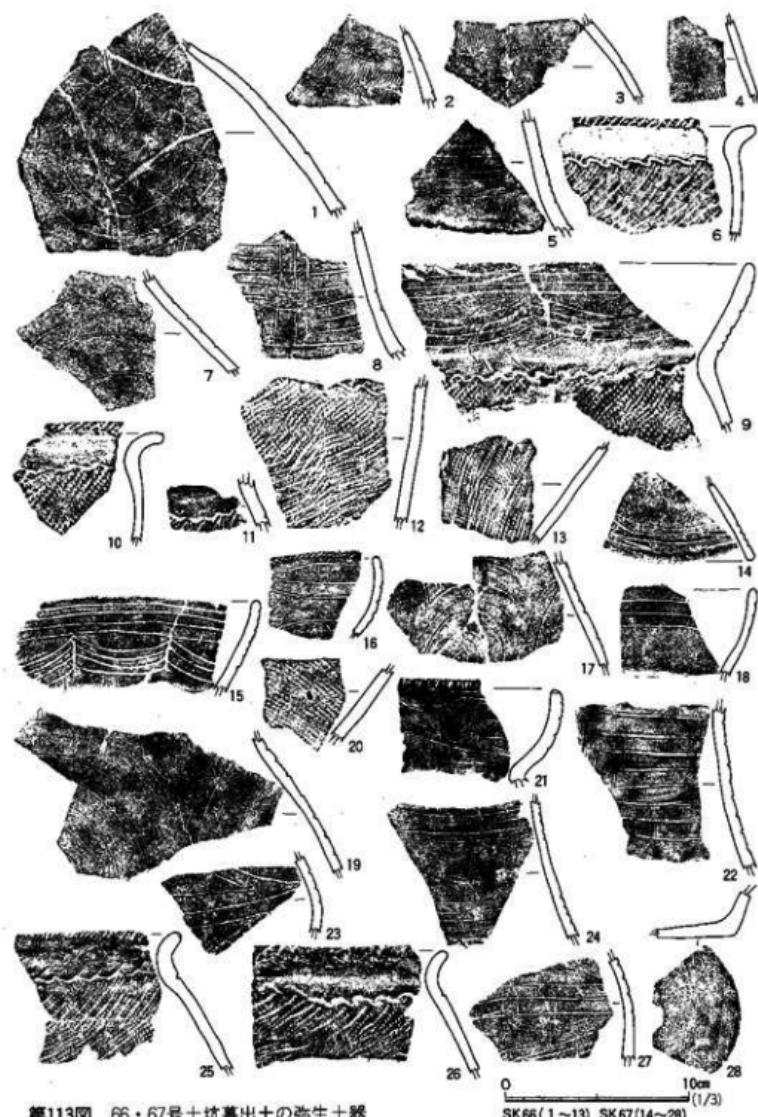
0 10cm
SK63(1~27) (1/3)

第111図 63号土坑墓出土の弥生土器

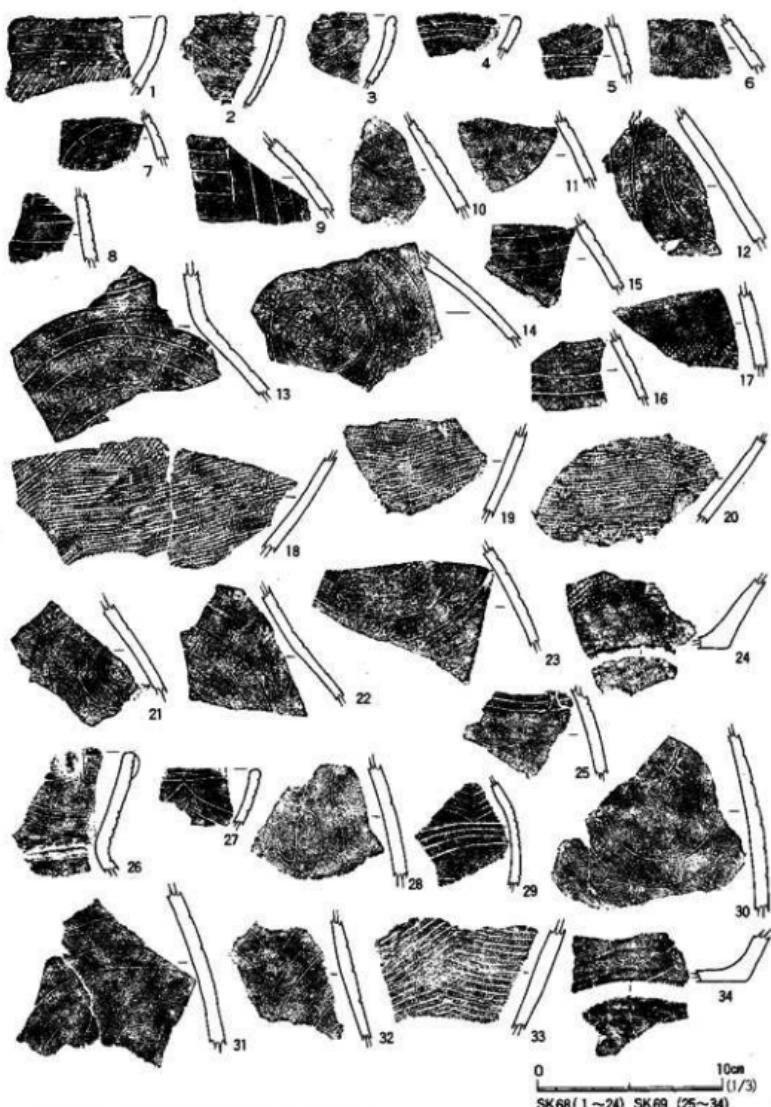


第112図 64・66号土坑墓出土の弥生土器

第2編 一ノ坂B遺跡



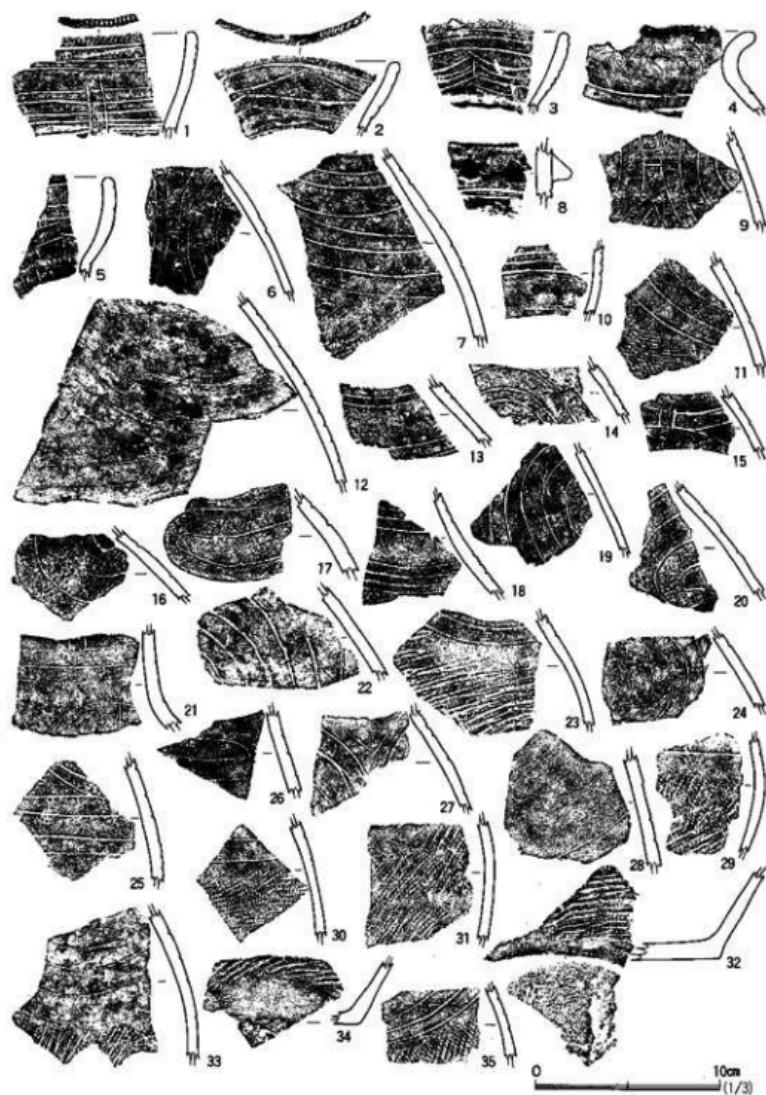
第113図 66・67号土坑墓出土の弥生土器



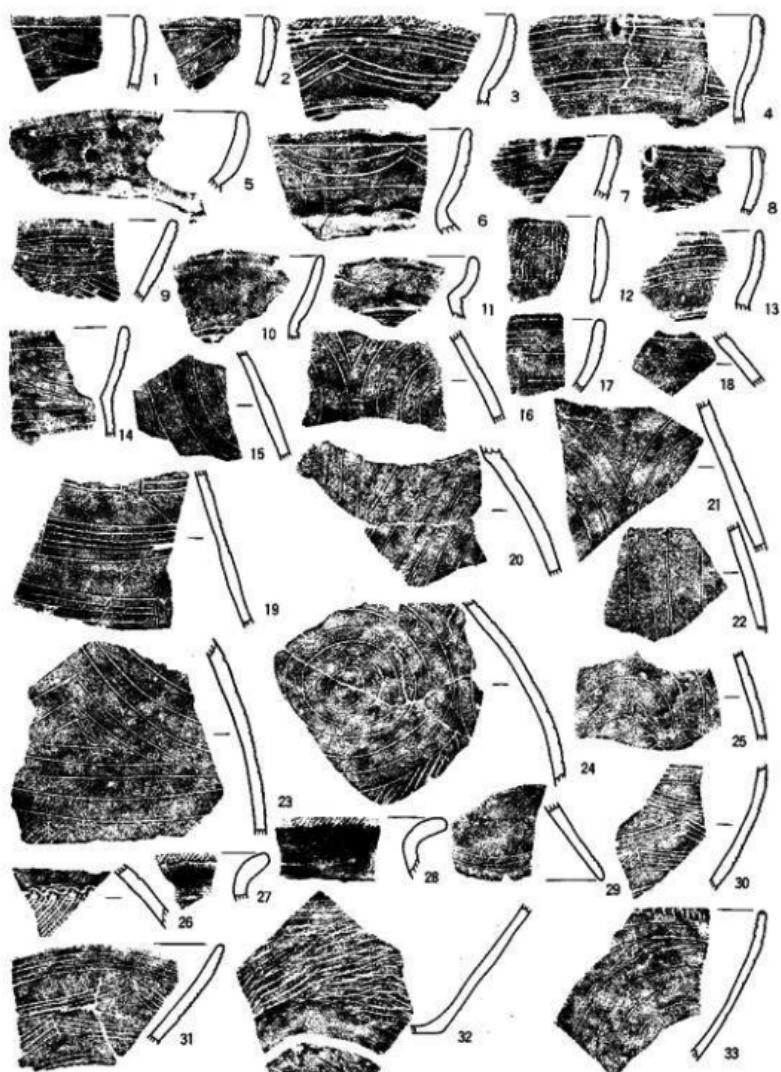
第114図 68・69号土坑墓出土の弥生土器

SK68(1~24) SK69(25~34)
0 10cm (1/3)

第2編 一ノ塙B遺跡



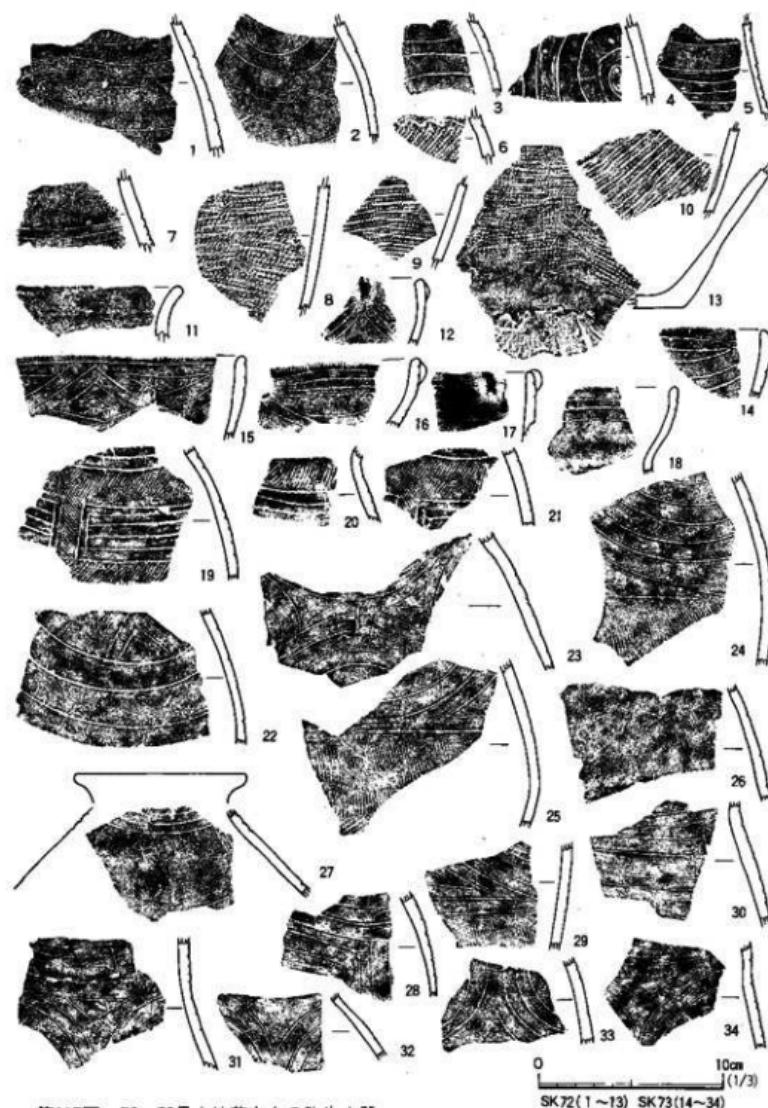
第115図 70号土坑墓出土の弥生土器



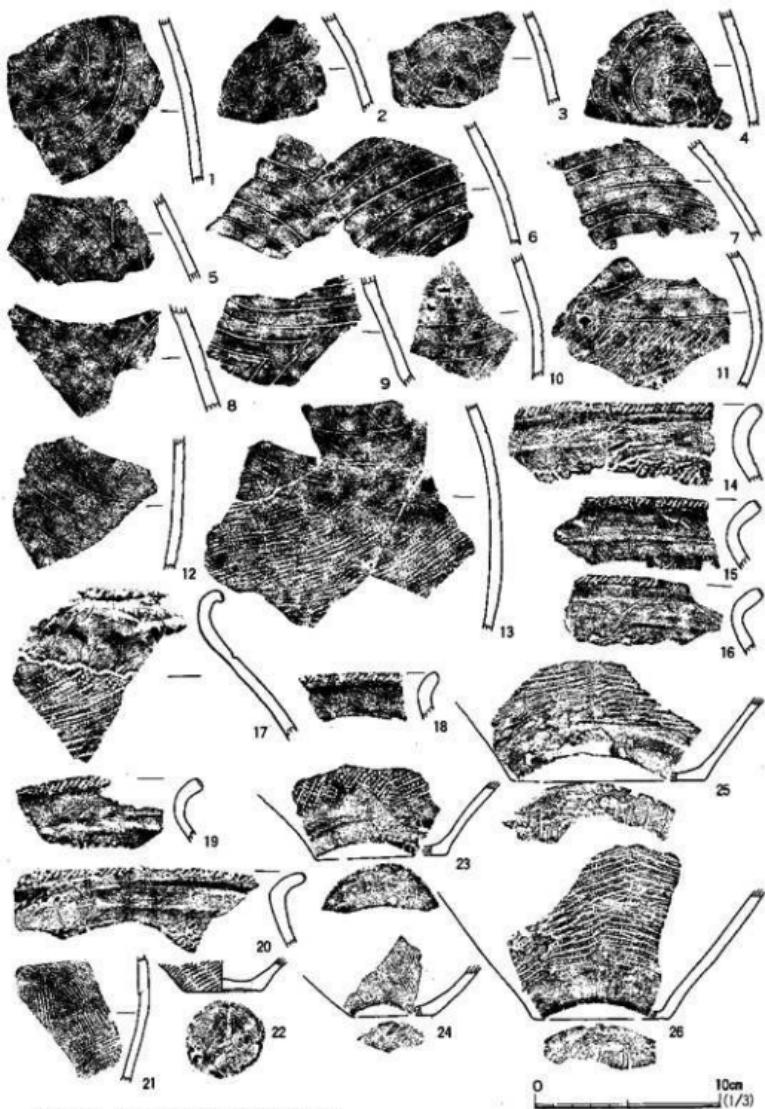
第116図 71号土坑墓出土の弥生土器

0
SK71(1~33)
10cm
(1/3)

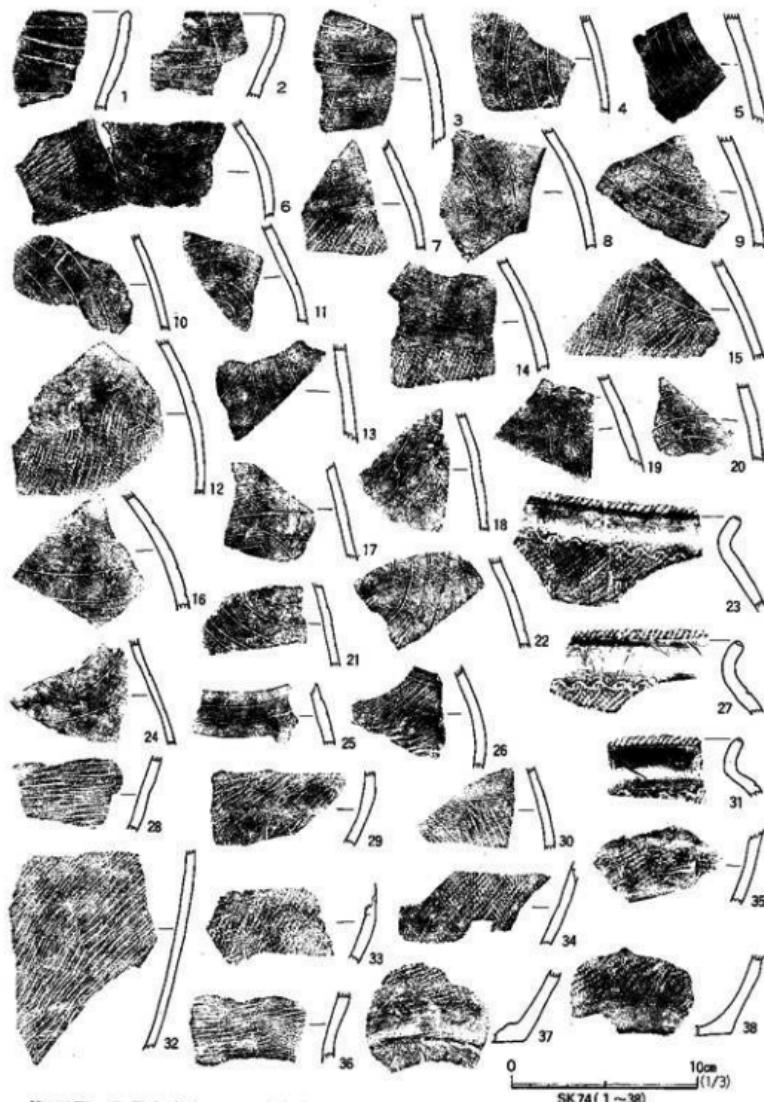
第2編 一ノ塚B遺跡



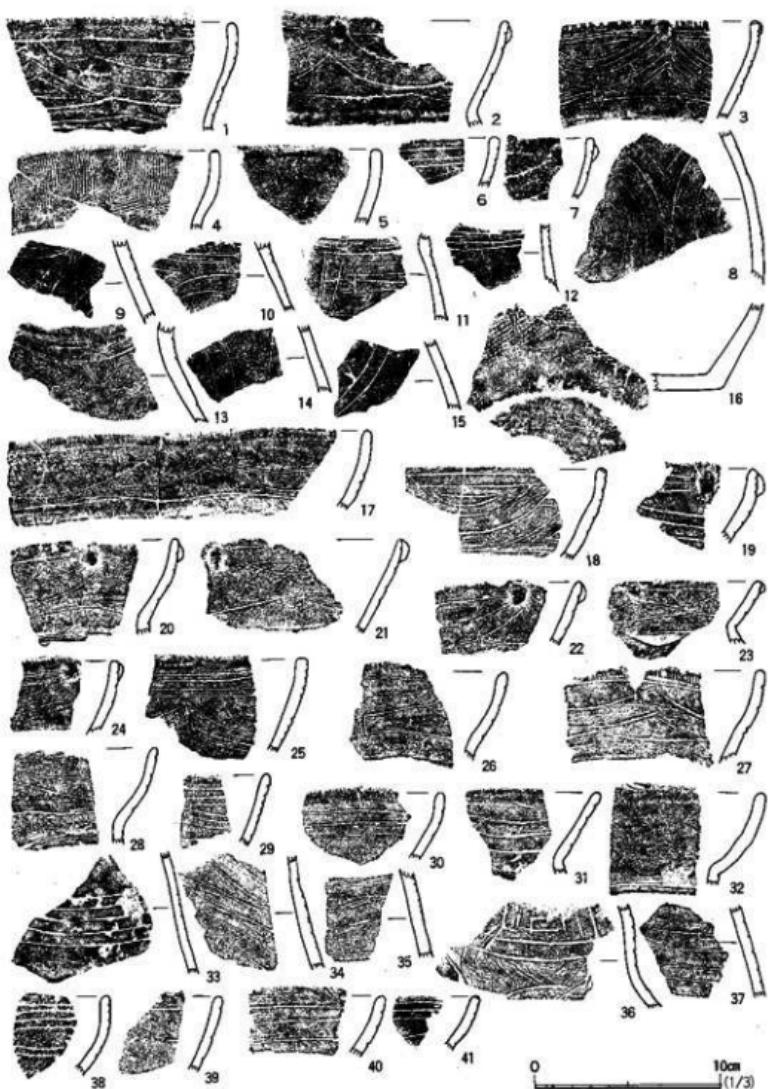
第117図 72・73号土坑墓出土の弥生土器



第118図 73号土坑墓出土の弥生土器

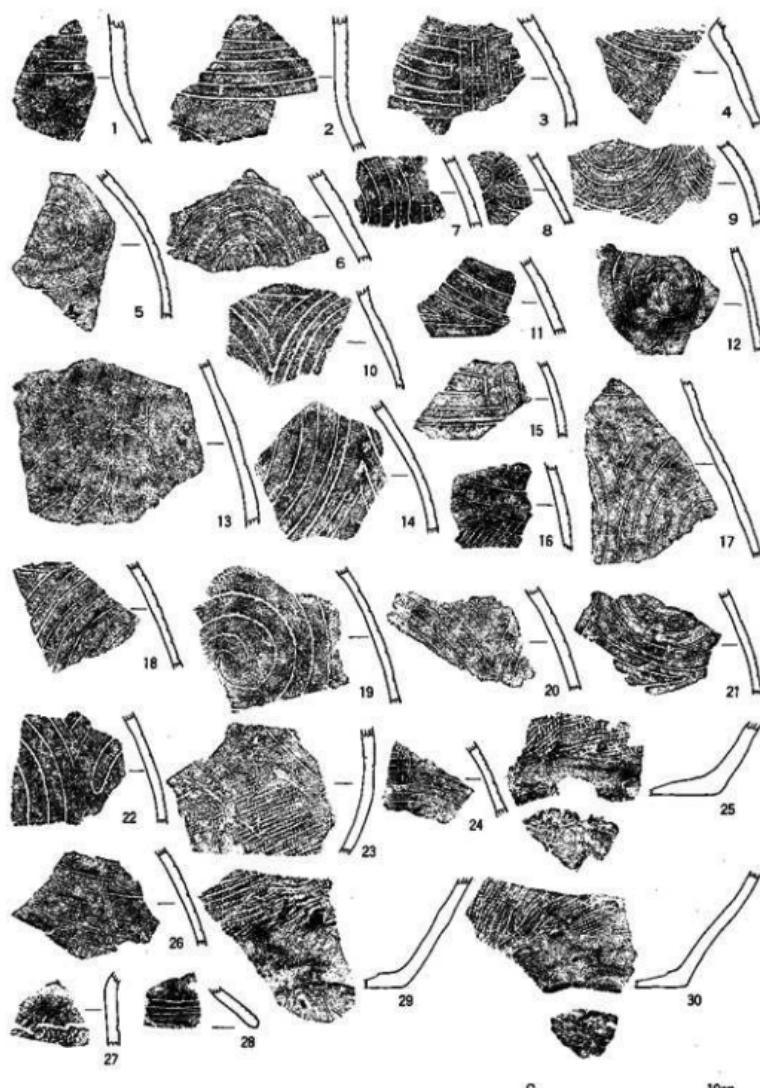


第119図 74号土坑基出土の弥生土器



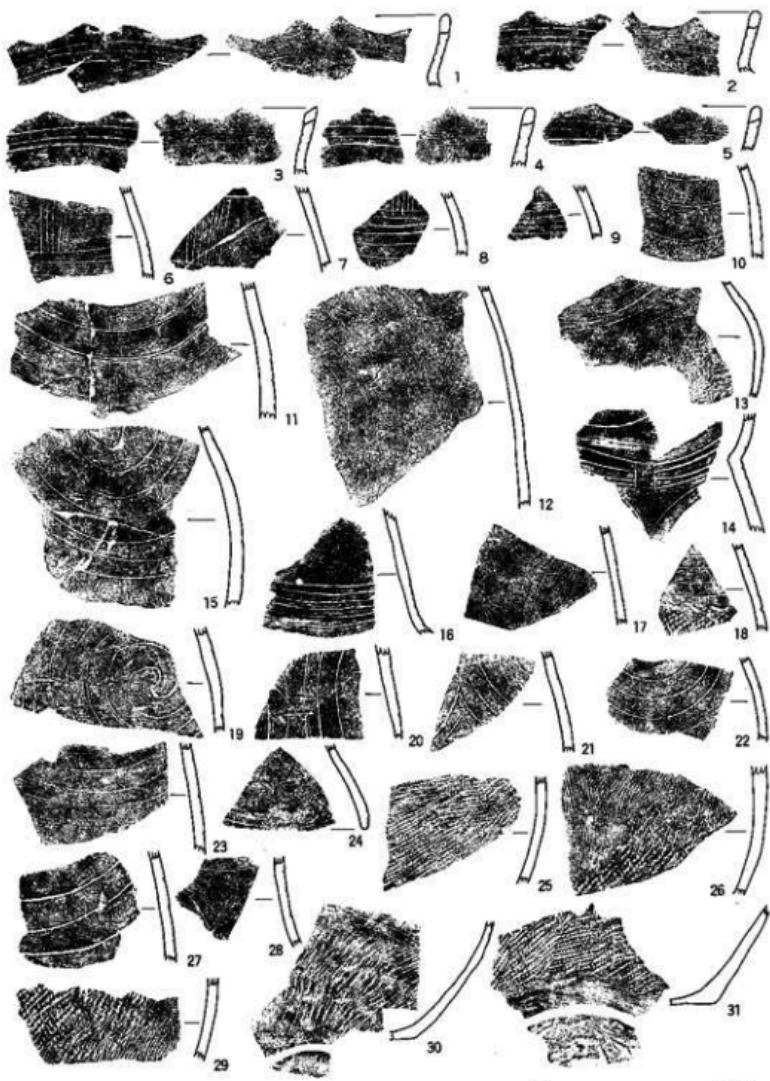
第120図 75・76号土坑墓出土の弥生土器

SK75(1~16) SK76(17~41)



0 10cm
(1/3)

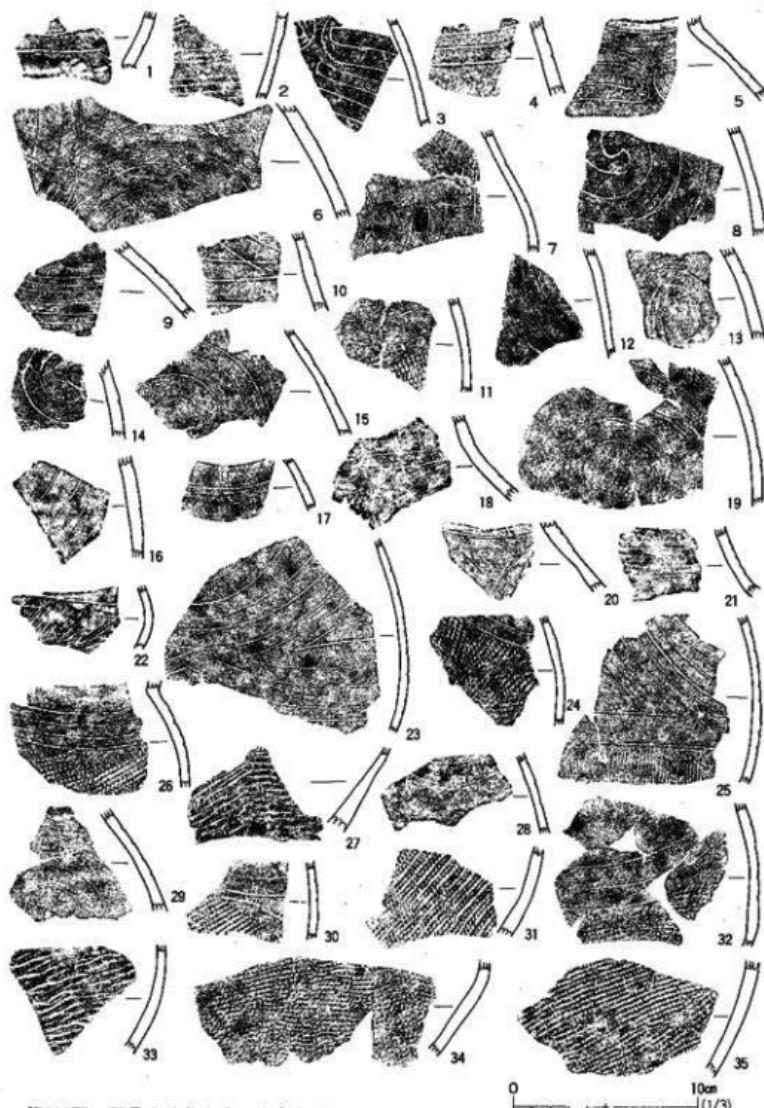
第121図 76号土坑墓出土の弥生土器



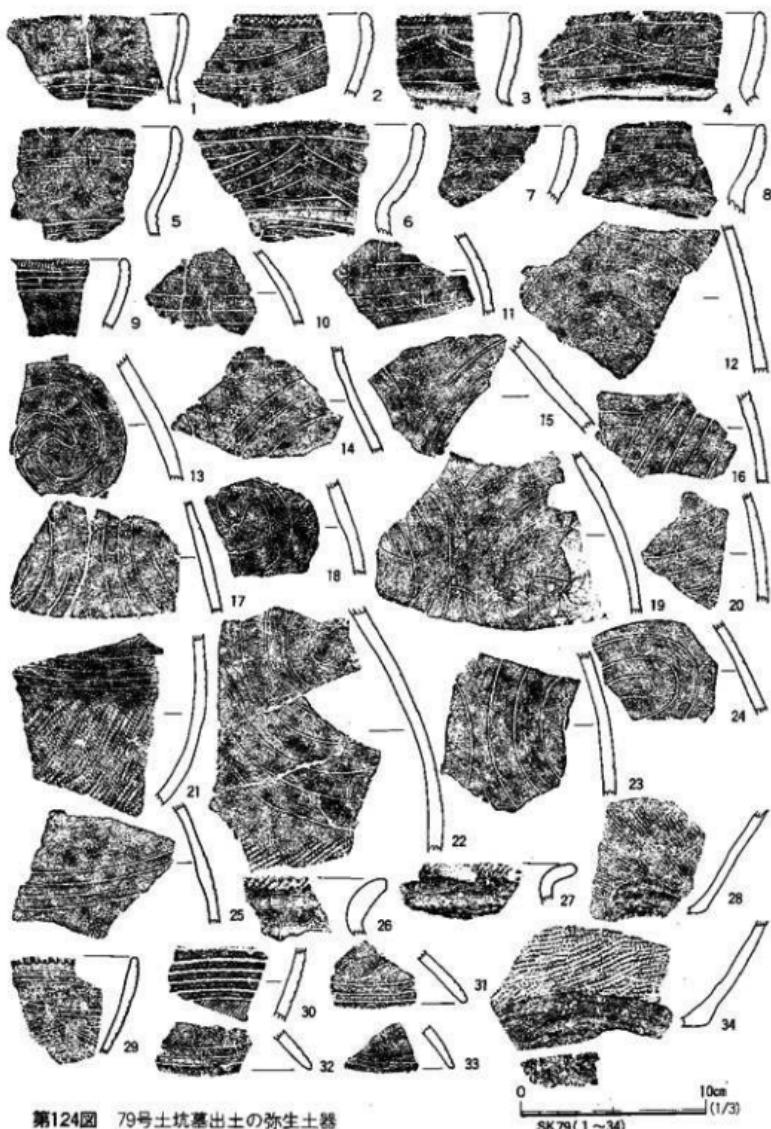
第122図 77号土坑墓出土の弥生土器

SK77(1~31)

0 10cm (1/3)

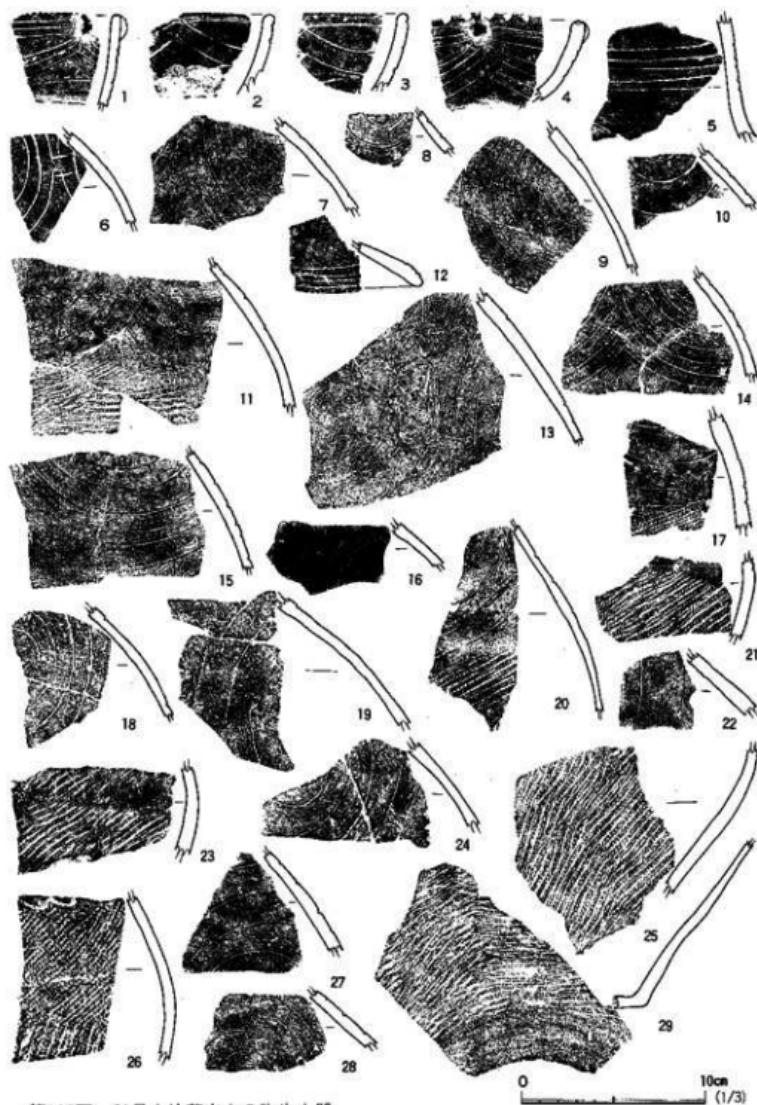


第123図 78号土坑墓出土の弥生土器

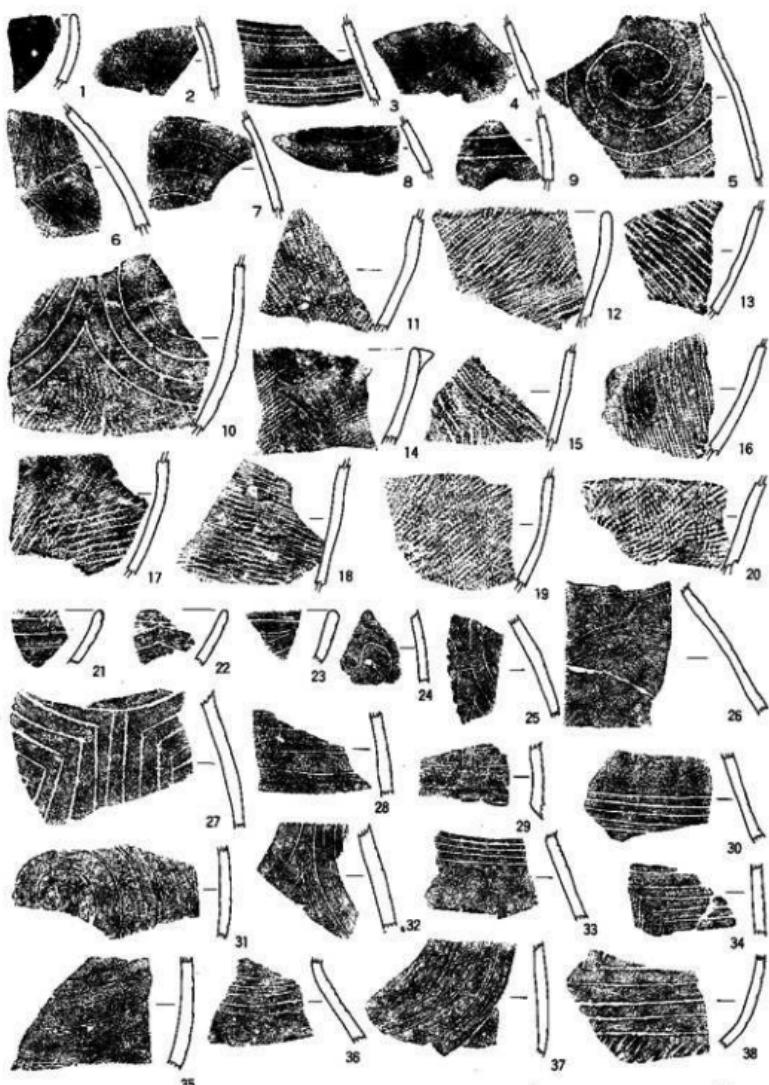


第124図 79号土坑墓出土の弥生土器

第2編 一ノ塙B遺跡



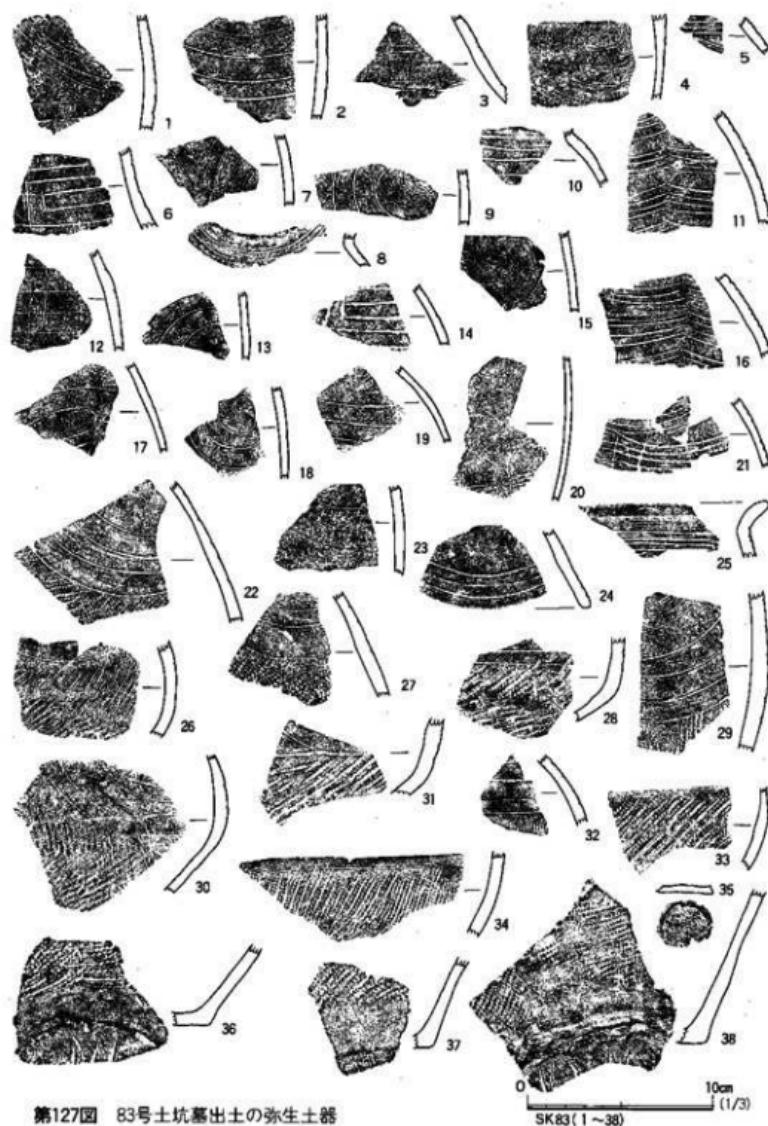
第125図 81号土坑墓出土の弥生土器



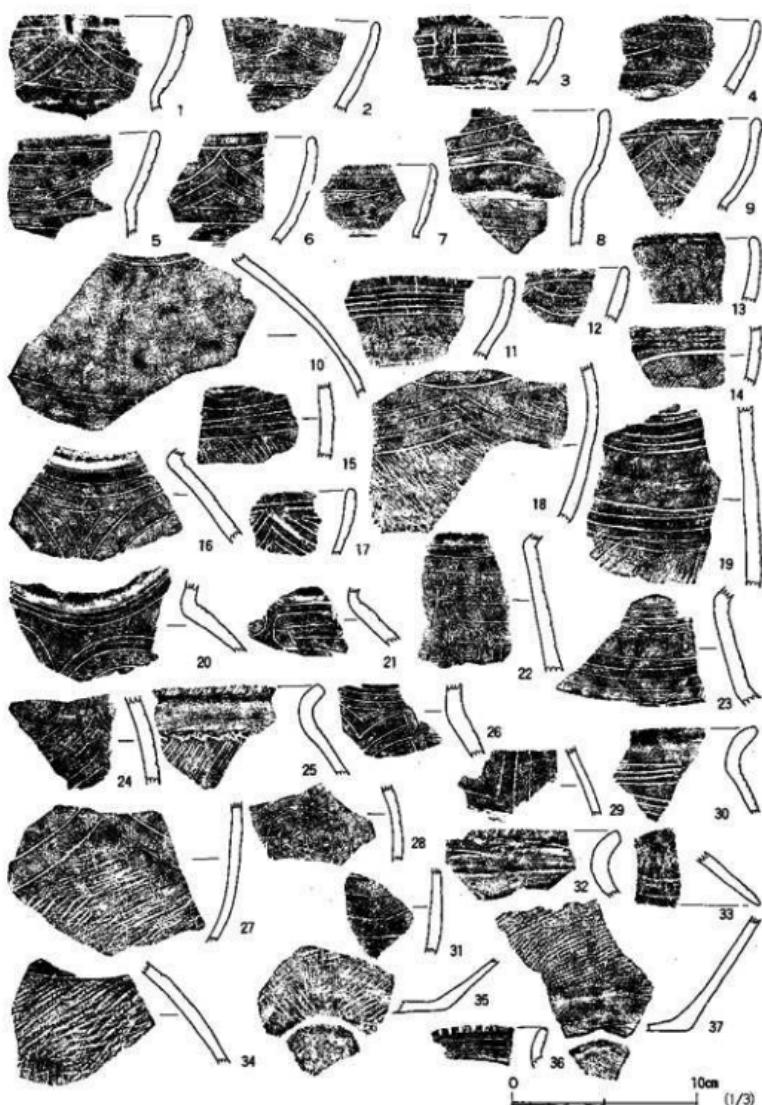
第126図 82・83号土坑墓出土の弥生土器

0 10cm
SK82(1~20) SK83(21~38)

第2編 一ノ塚B遺跡

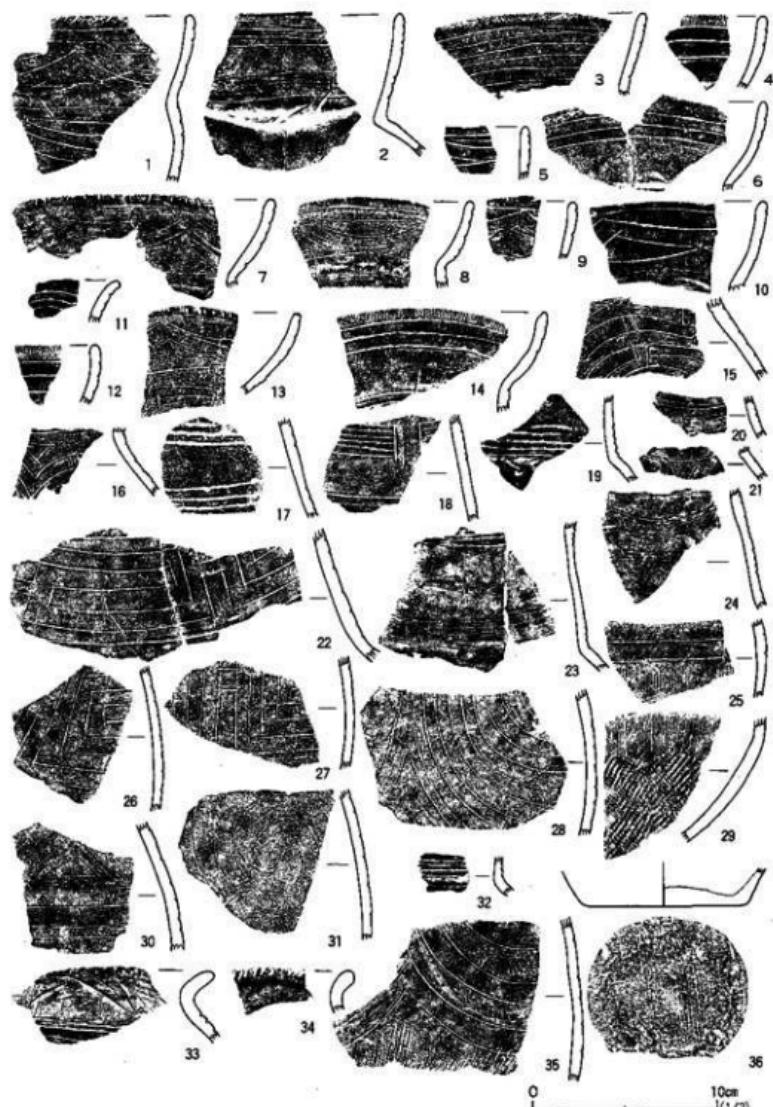


第127図 83号土坑墓出土の弥生土器

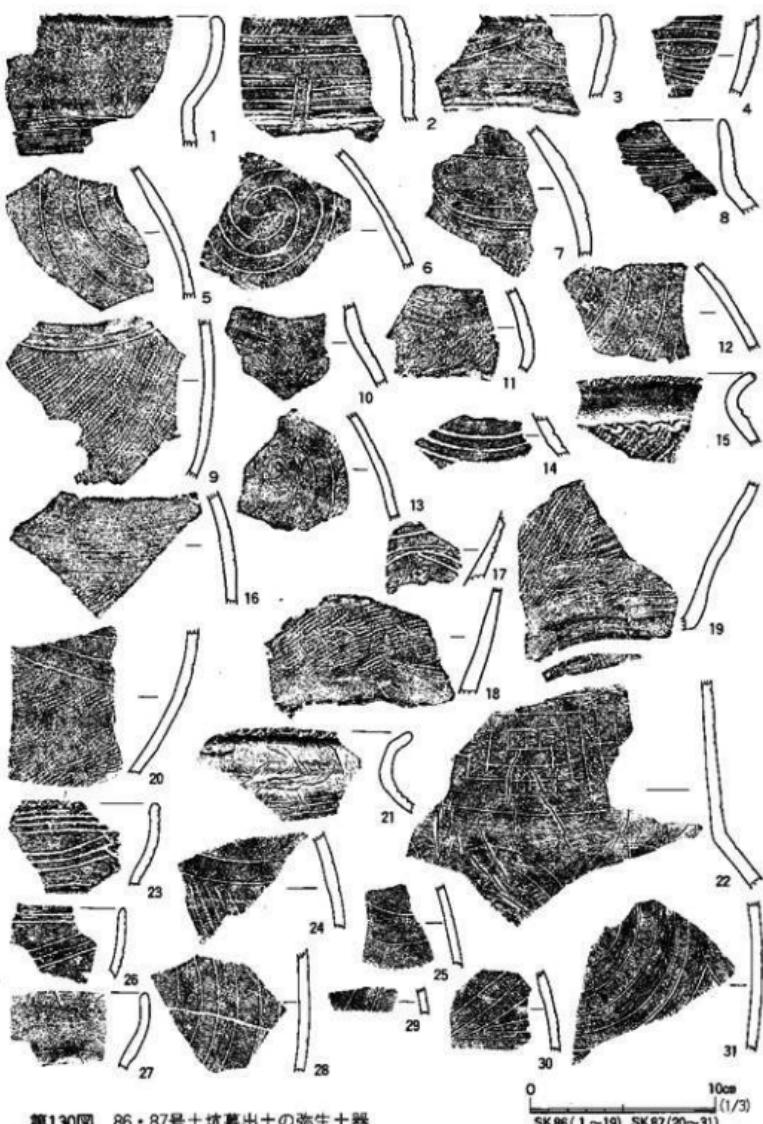


第128図 84号土坑墓出土の弥生土器

第2編 一ノ塙B遺跡



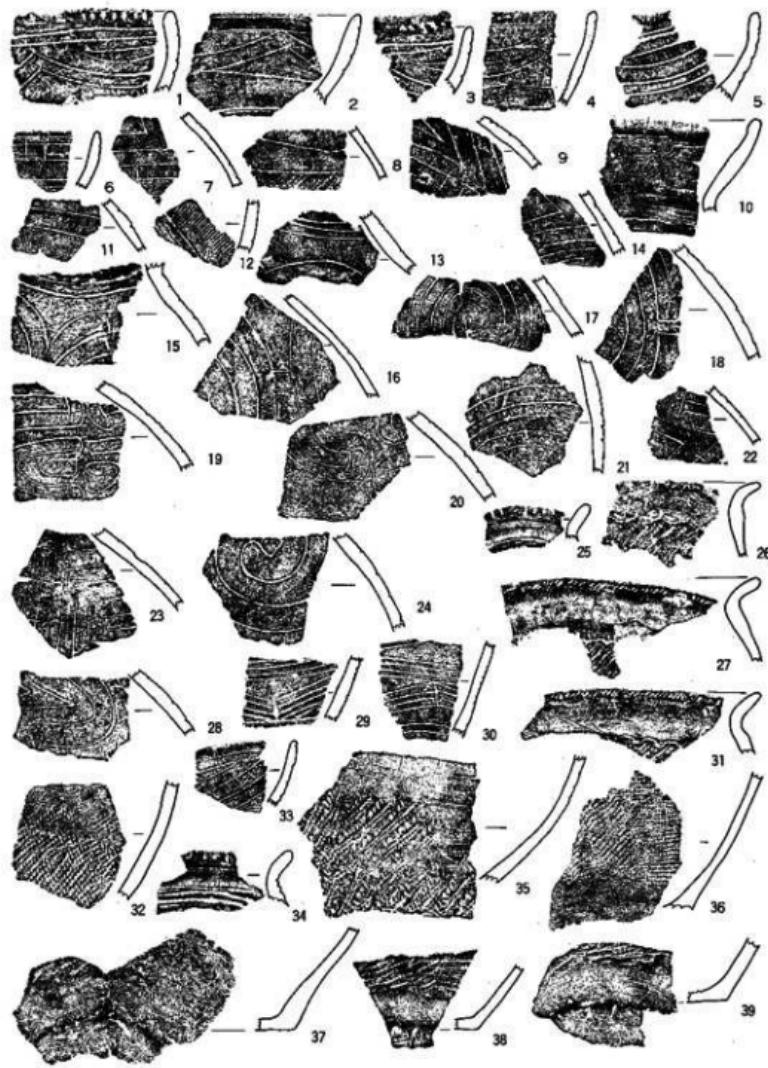
第129図 85号土坑墓出土の弥生土器



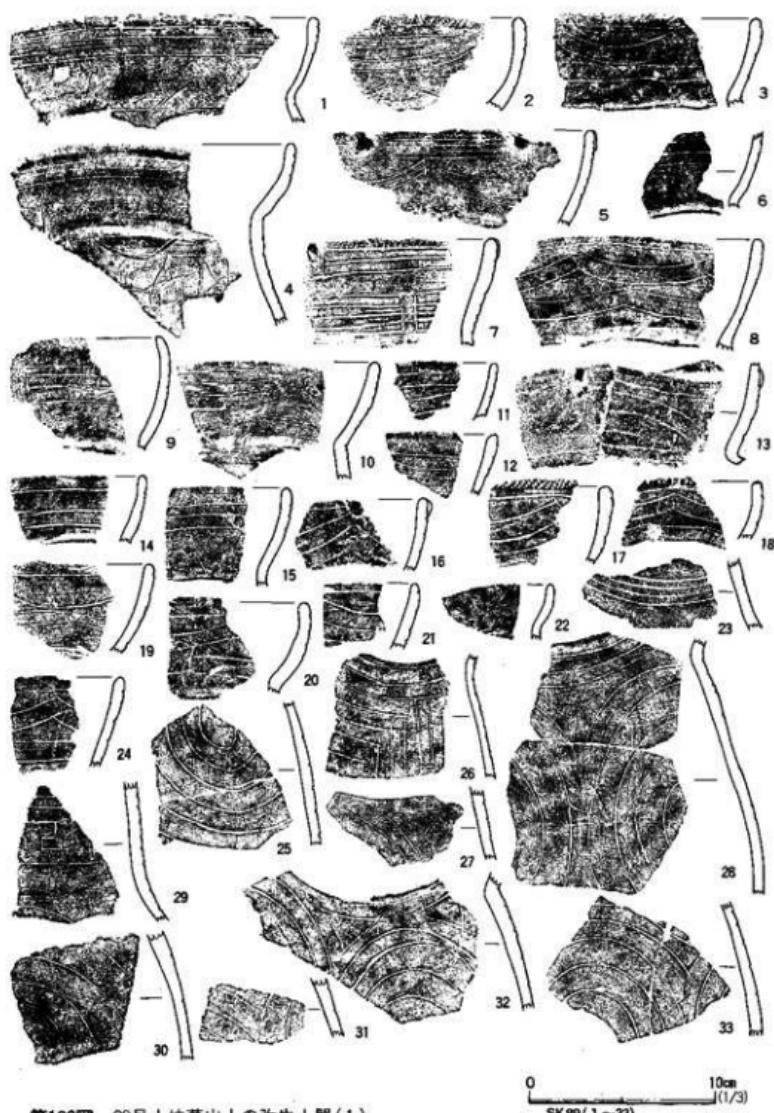
第130図 86・87号土坑墓出土の弥生土器

SK 86 (1~19) SK 87 (20~31)
0 10cm (1/3)

第2編 一ノ塚B遺跡



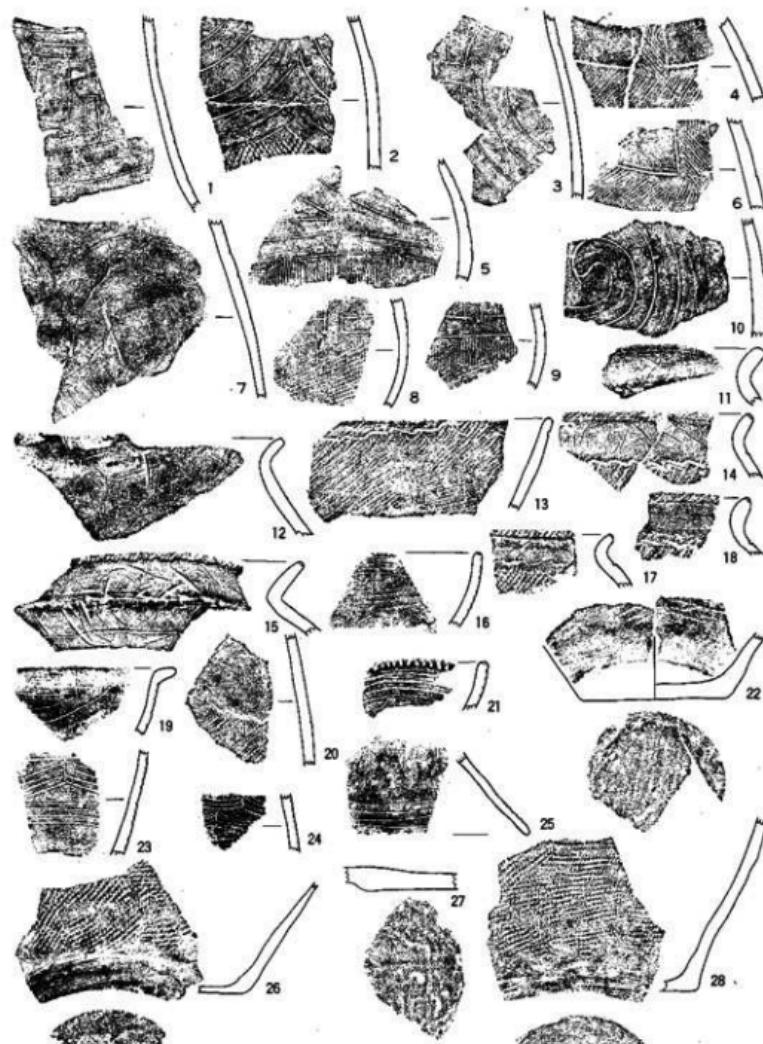
第131図 88号土坑墓出土の弥生土器



第132図 89号土坑墓出土の弥生土器(1)

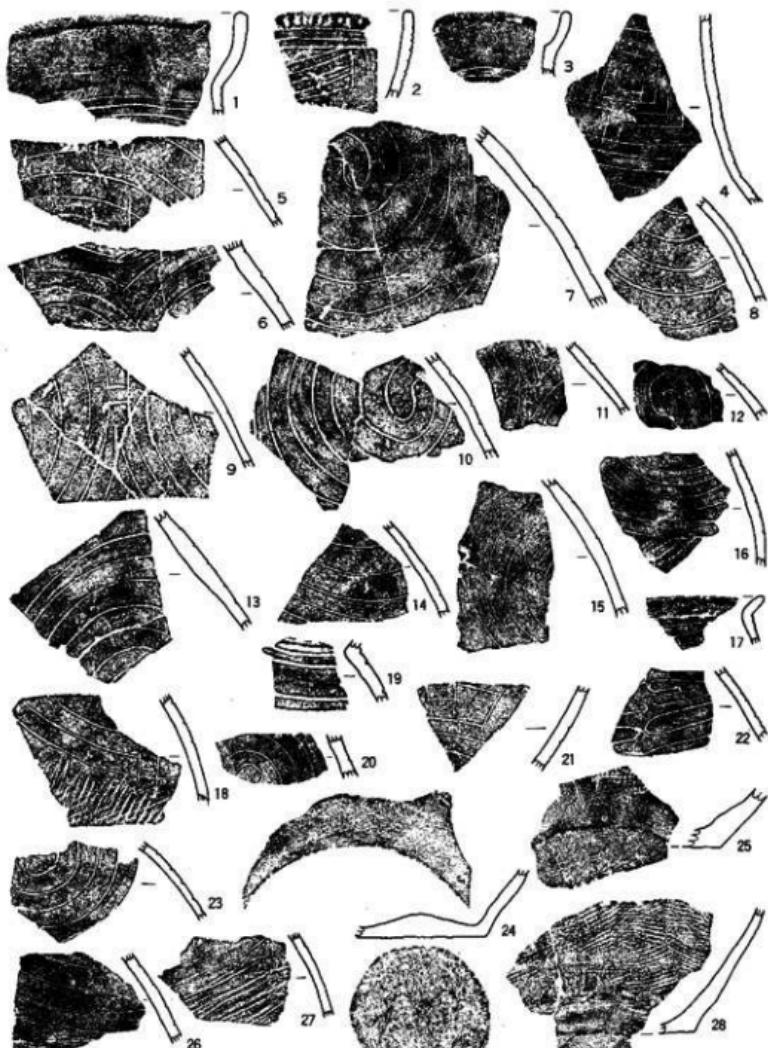
0
SK89(1~33)
10cm
(1/3)

第2編 一ノ塙B遺跡



第133図 89号土坑墓出土の弥生土器(2)

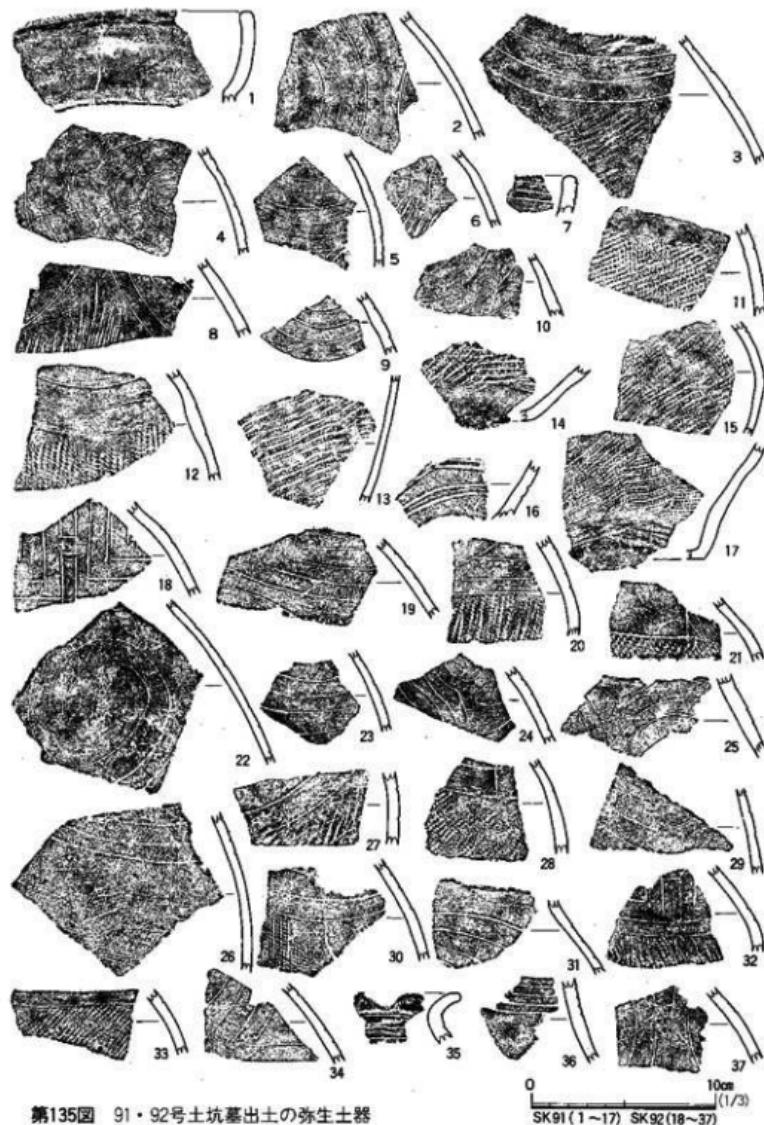
0 10cm
SK89(1~28) (1/3)



第134図 90号土坑墓出土の弥生土器

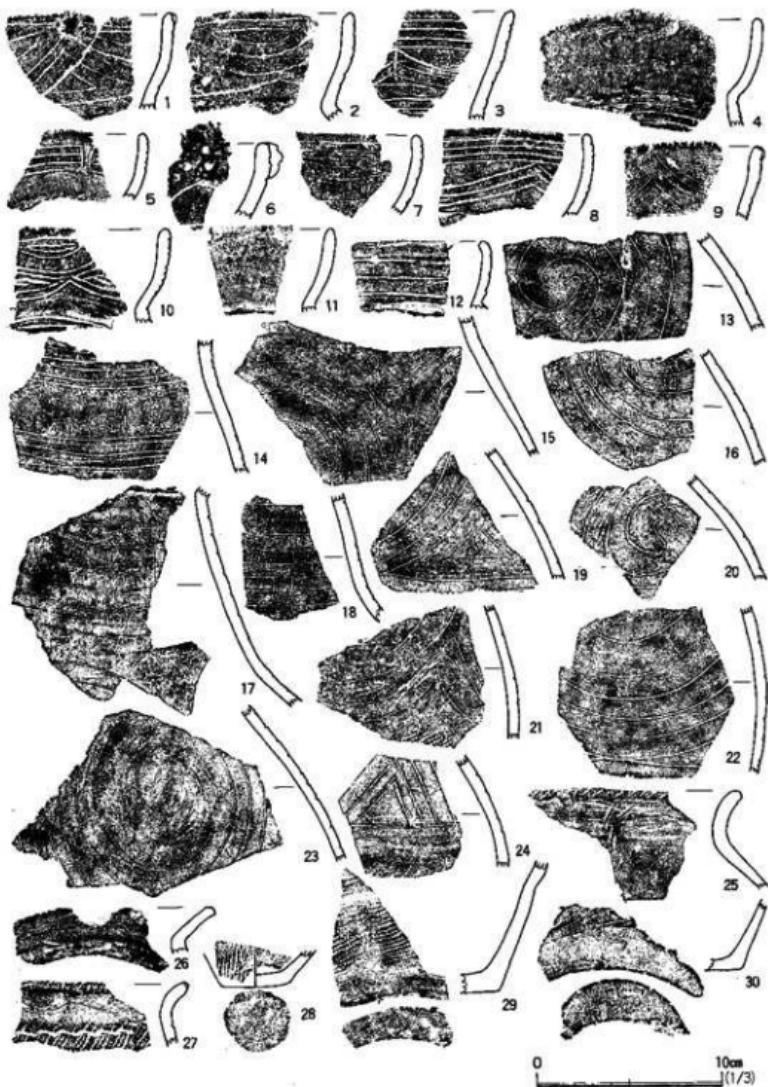
0 10cm
SK90(1~28)

第2編 一ノ堆B遺跡



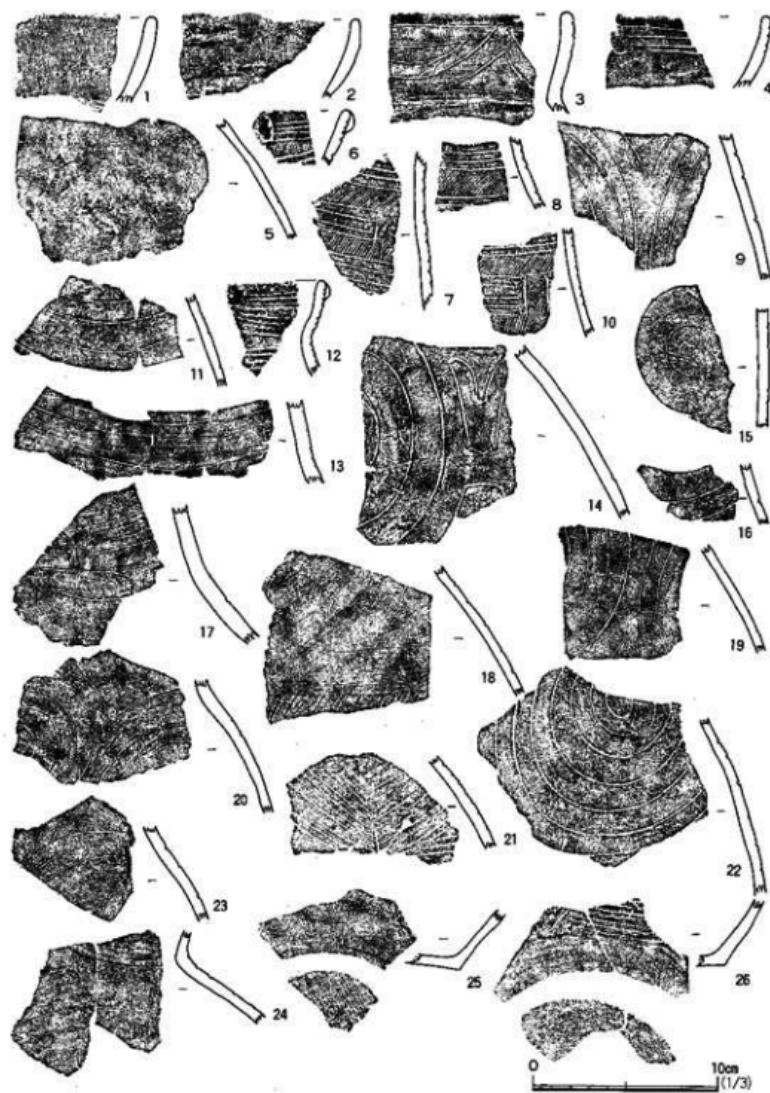
第135図 91・92号土坑墓出土の弥生土器

SK91(1~17) SK92(18~37)

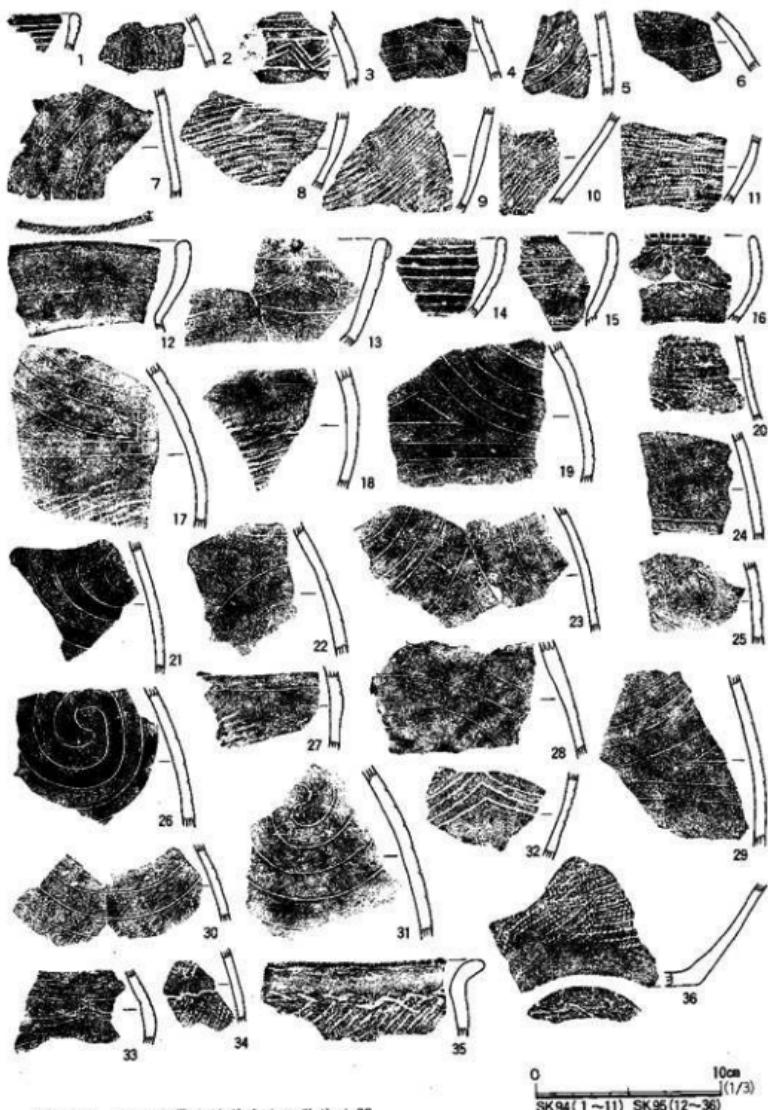


第136図 92号土坑墓出土の弥生土器

第2編 一ノ堆B遺跡



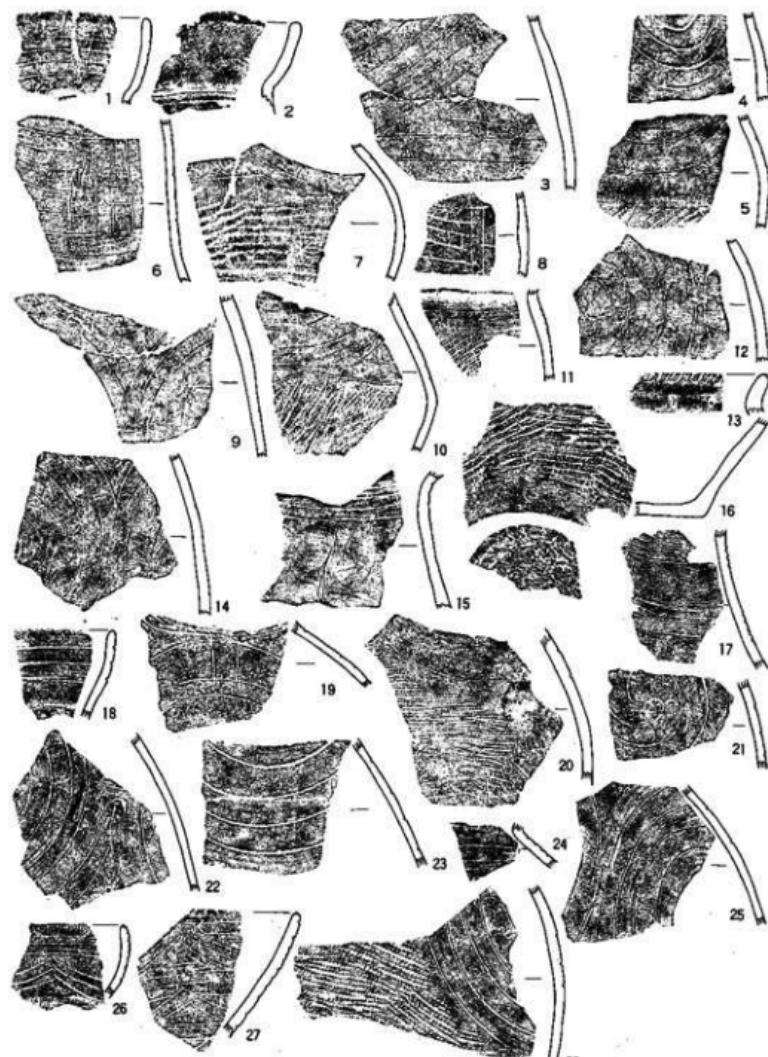
第137図 93号土坑墓上面出土の弥生土器



第138図 94・95号土坑墓出土の弥生土器

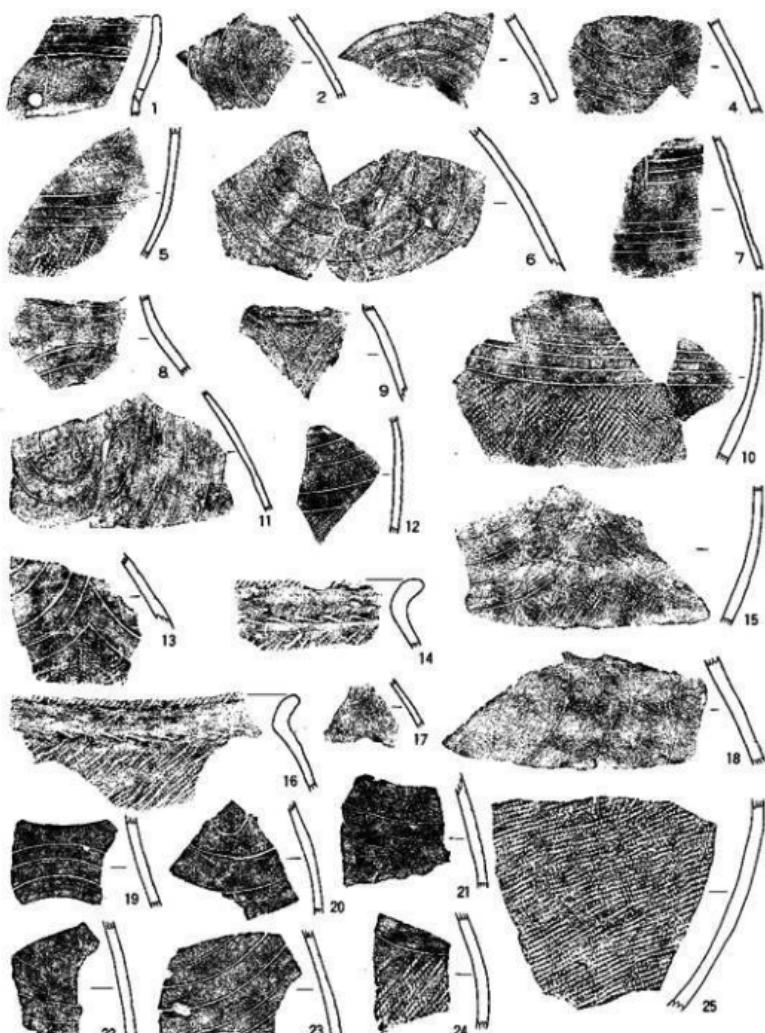
0 10cm
SK94(1~11) SK95(12~36)

第2編 一ノ塙B遺跡



第139図 96・97号土坑墓出土の弥生土器

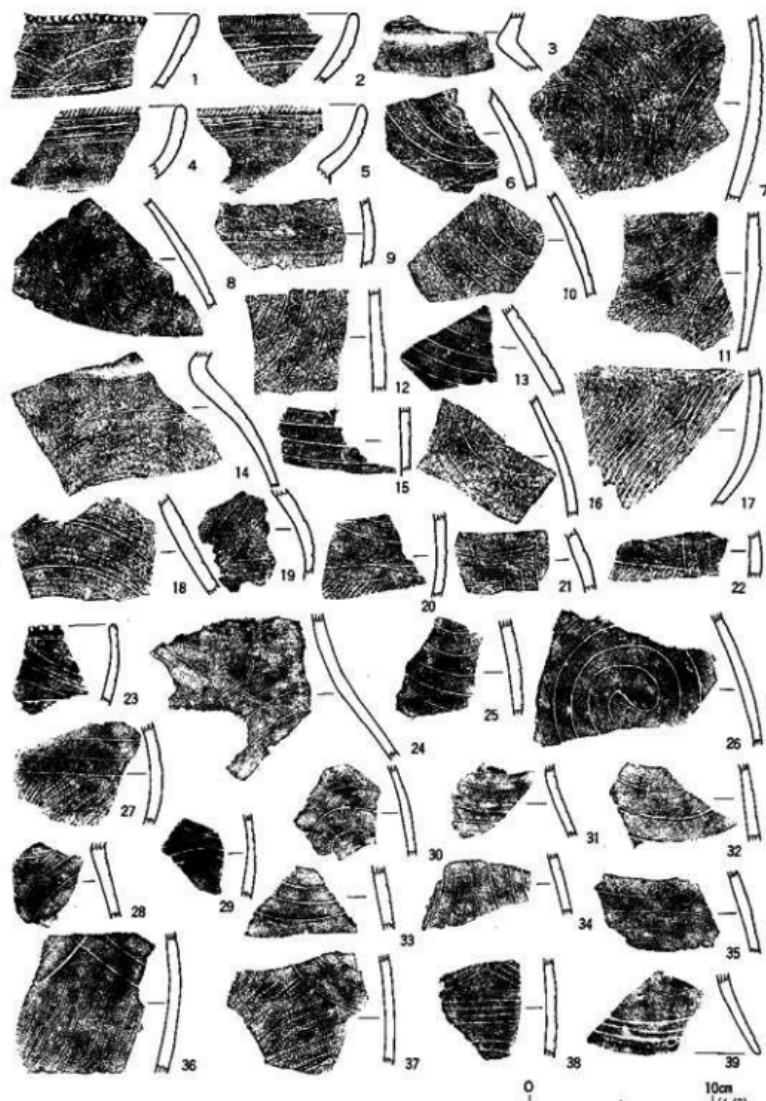
0 10cm
SK96(1~16) SK97(17~28)
(1/3)



第140図 98・99号土坑墓出土の弥生土器

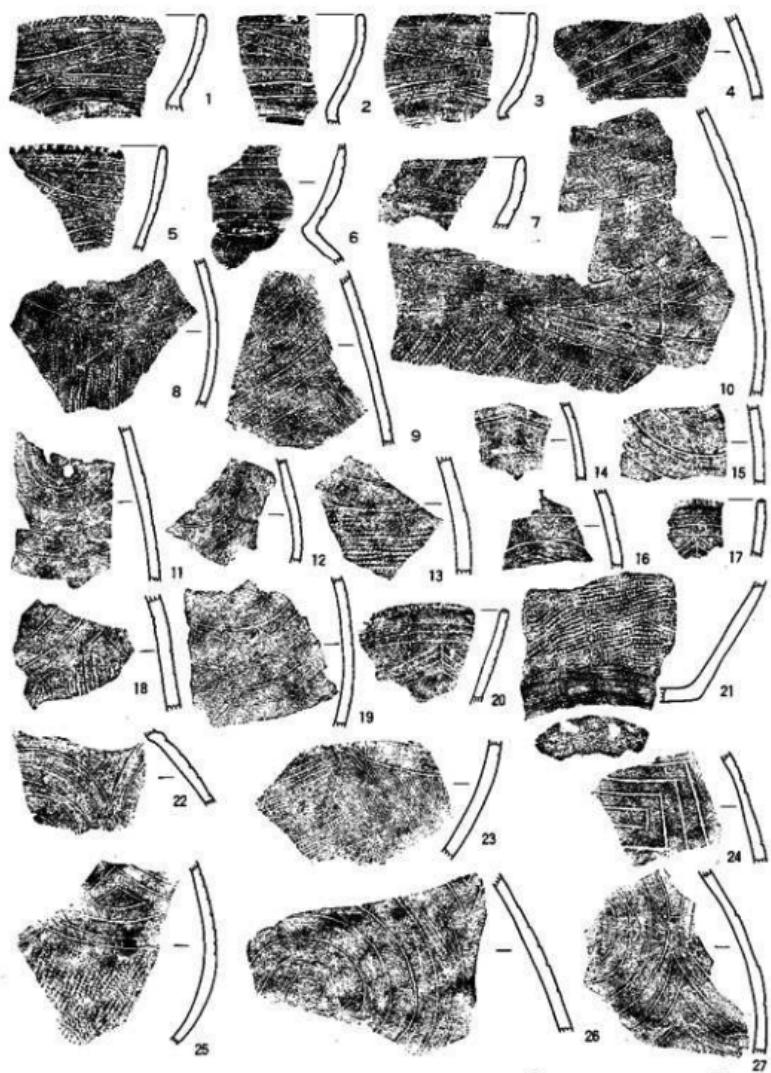
0 10cm
SK98(1~18) SK99(19~25)

第2圖 一ノ塚B遺跡



第141図 100・101号土坑墓出土の弥生土器

0 10cm
SK100(1~22) SK101(23~39)
(1/3)

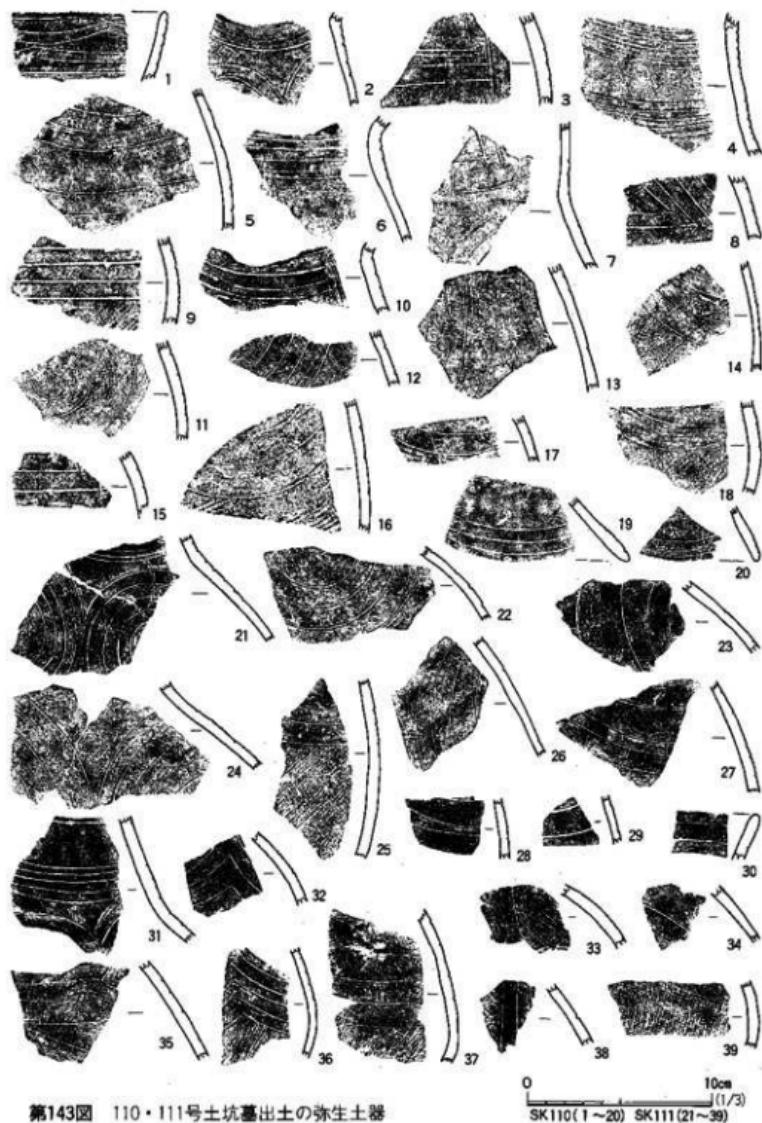


第142図 104・105・108号土坑墓出土の弥生土器

SK104(1~10) SK105(11~21) SK108(22~27)

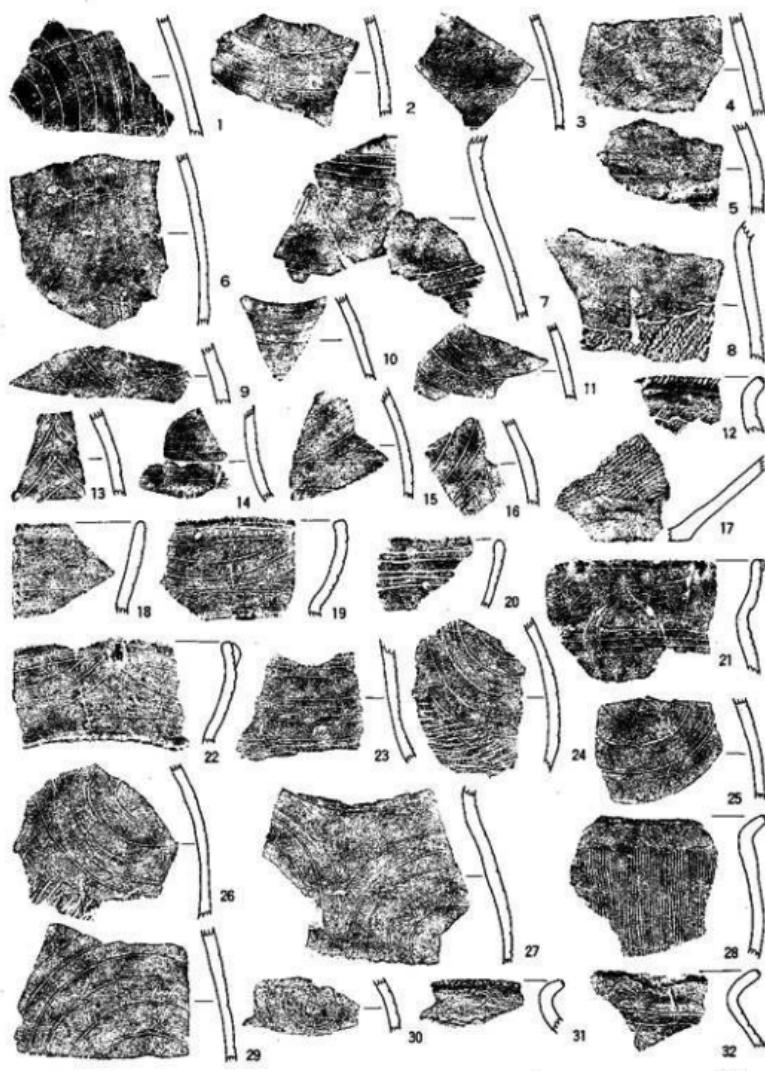
0 10cm
(1/3)

第2幅 一ノ塙B遺跡



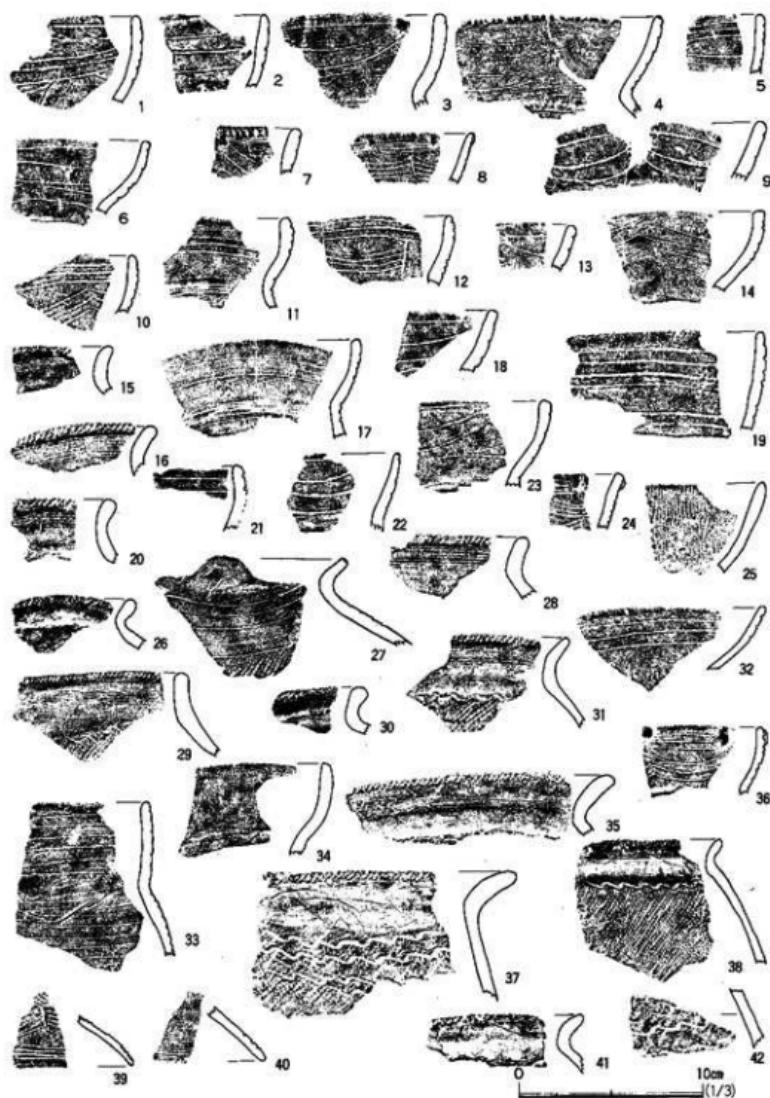
第143図 110・111号土坑墓出土の弥生土器

0 10cm
(1/3)
SK110(1~20) SK111(21~39)

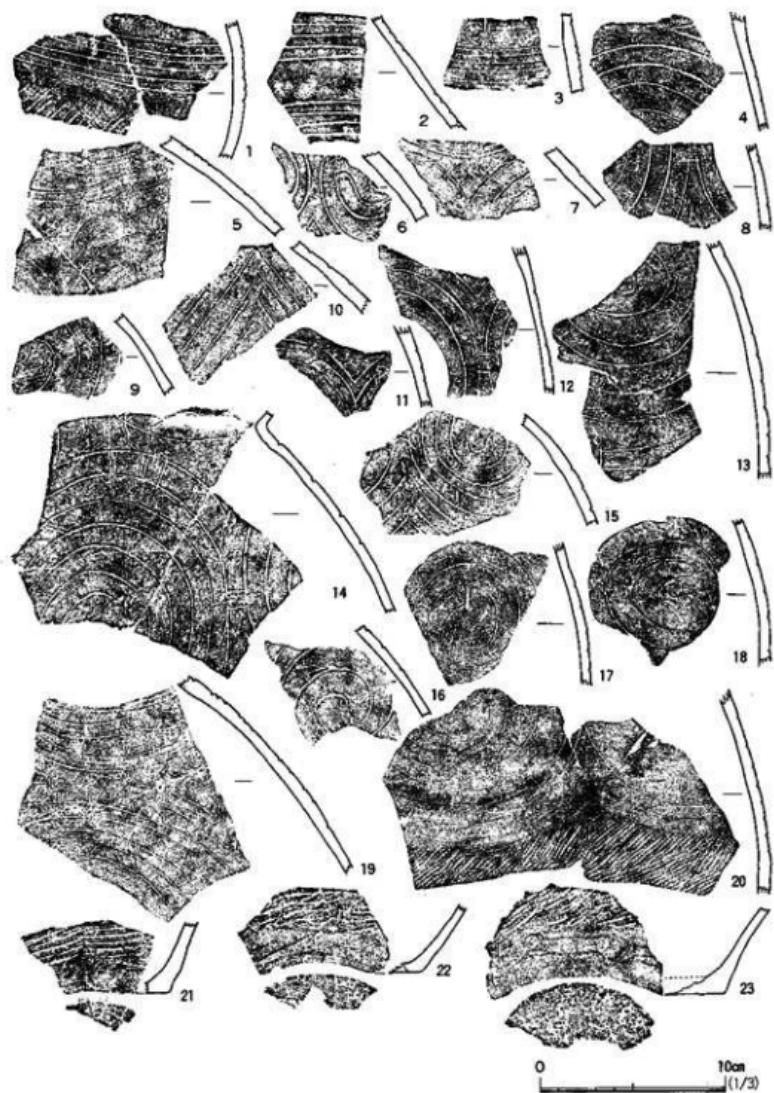


第144図 112号土坑墓、113号土坑出土の弥生土器

SK112(1~17) SK113(18~32)

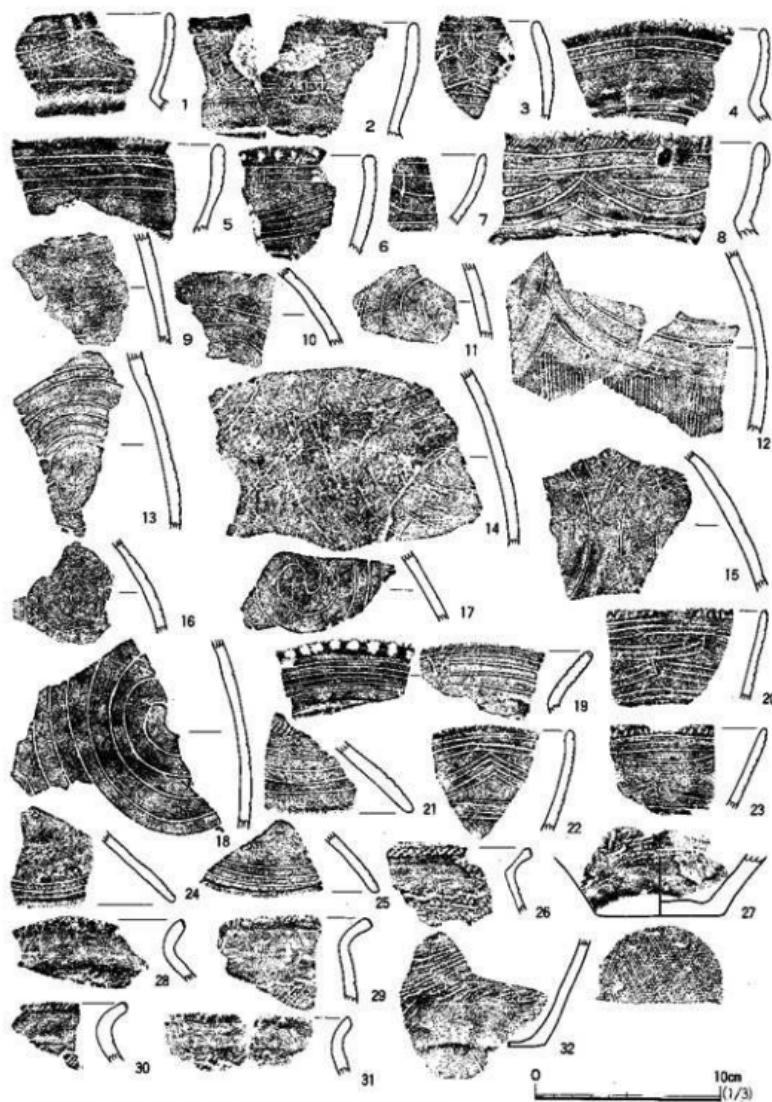


第145図 61号土坑墓上面出土の弥生土器(1)

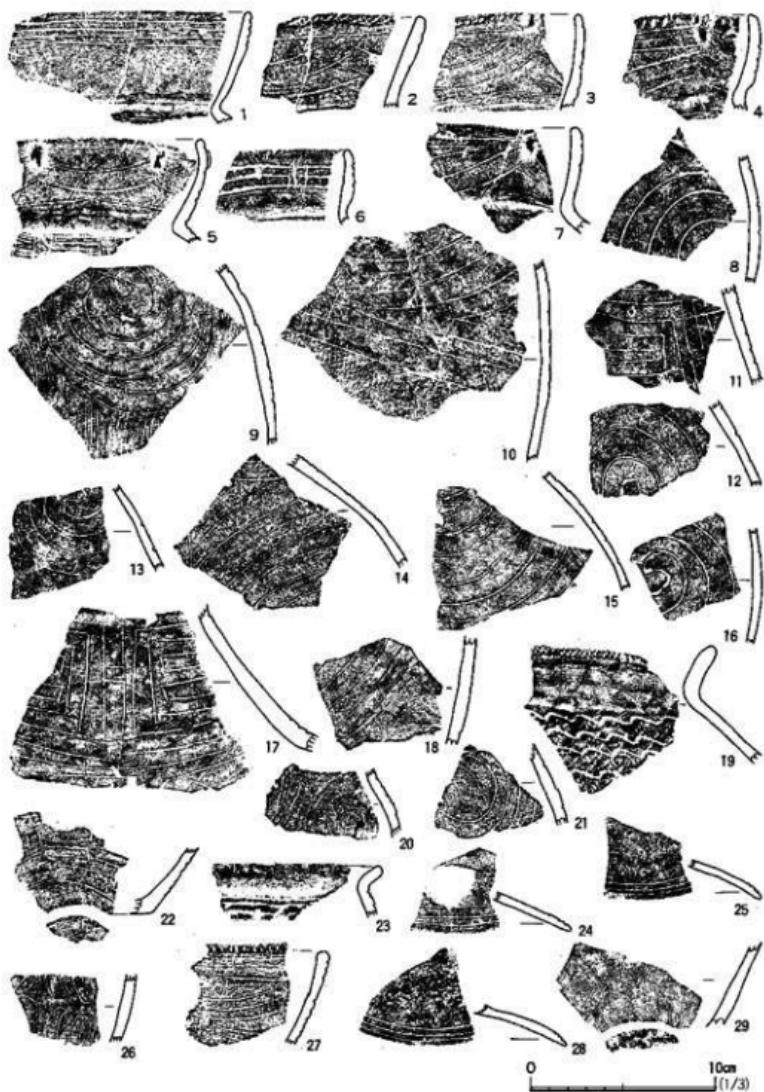


第146図 61号土坑墓上面出土の弥生土器(2)

第2編 一ノ塚B遺跡

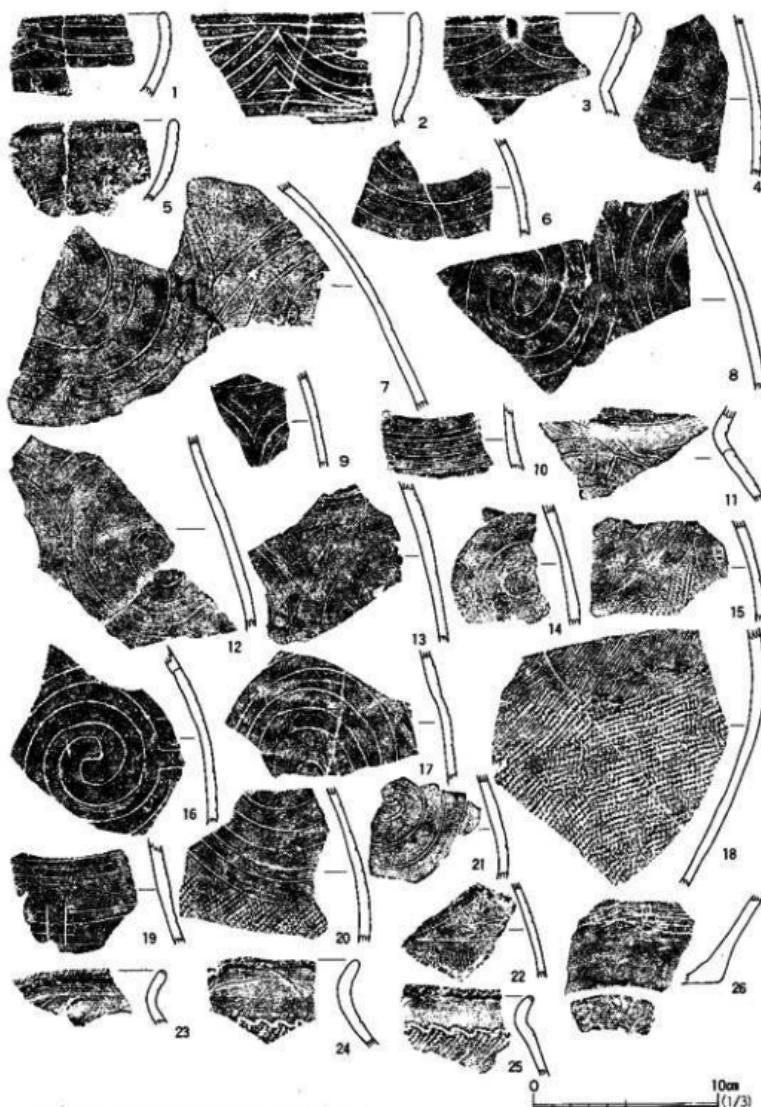


第147図 62・63号土坑墓上面出土の弥生土器(1)

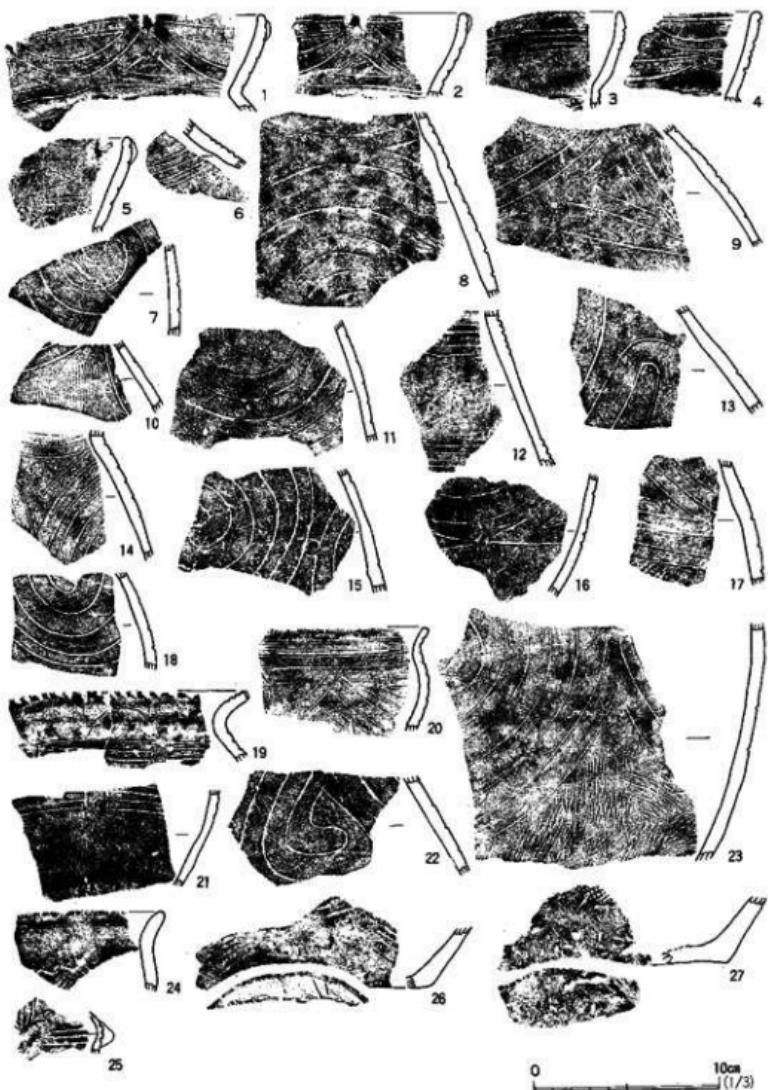


第148図 62・63号土坑墓上面出土の弥生土器(2)

第2編 一ノ塚B遺跡

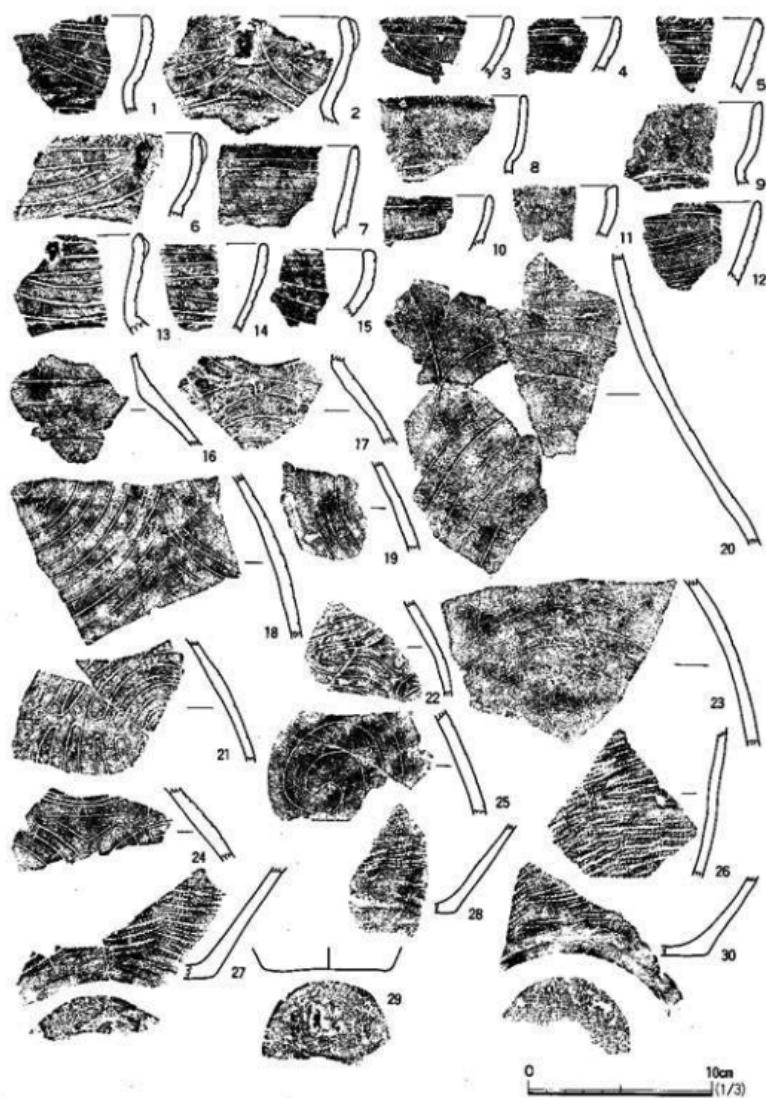


第149図 66号土坑墓上面出土の弥生土器

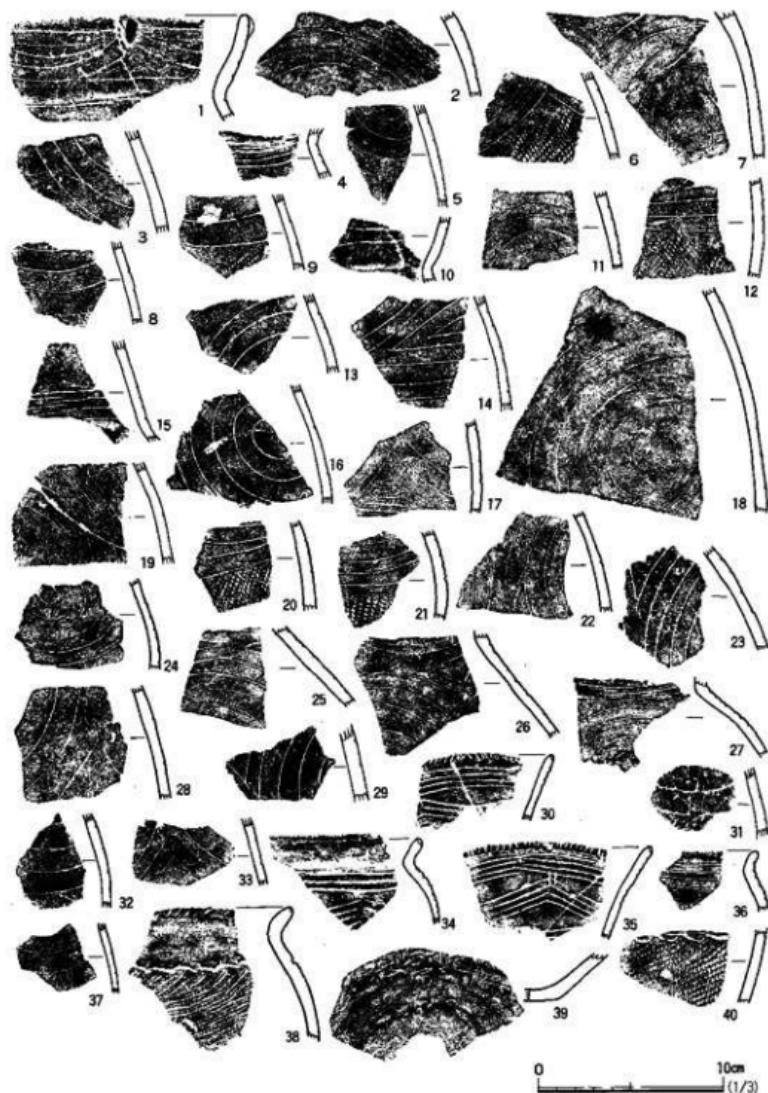


第150図 77号土坑墓上面出土の弥生土器

第2編 一ノ塚B遺跡

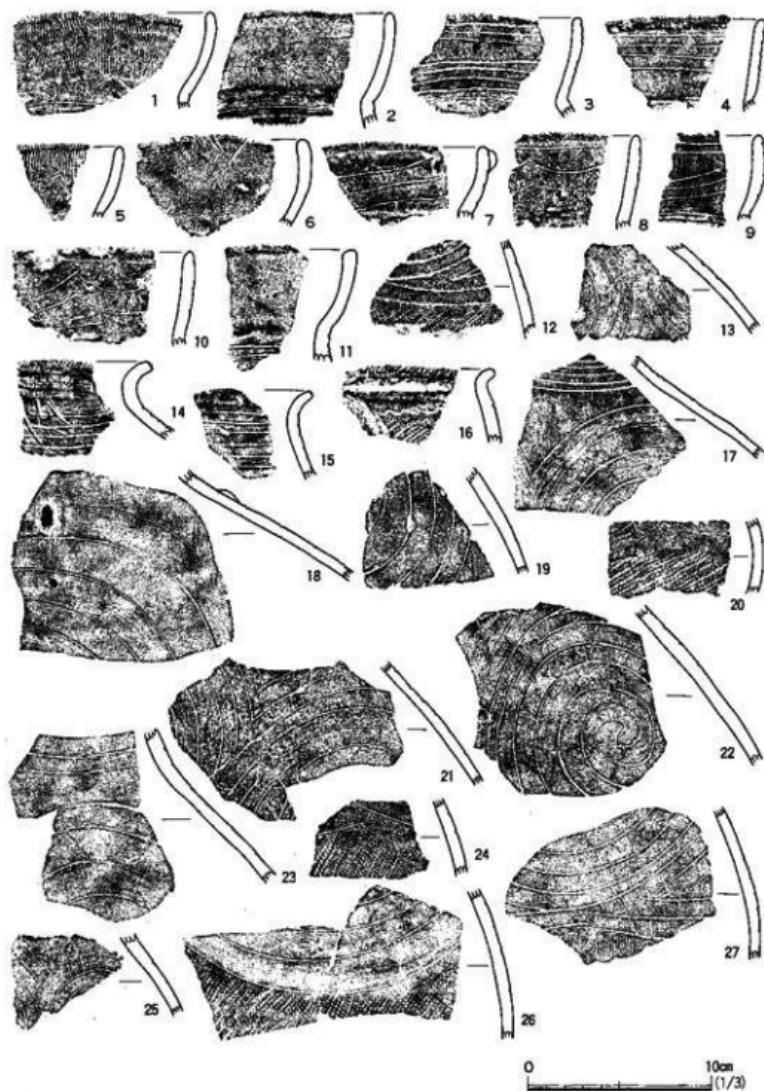


第151図 78号土坑墓上面出土の弥生土器

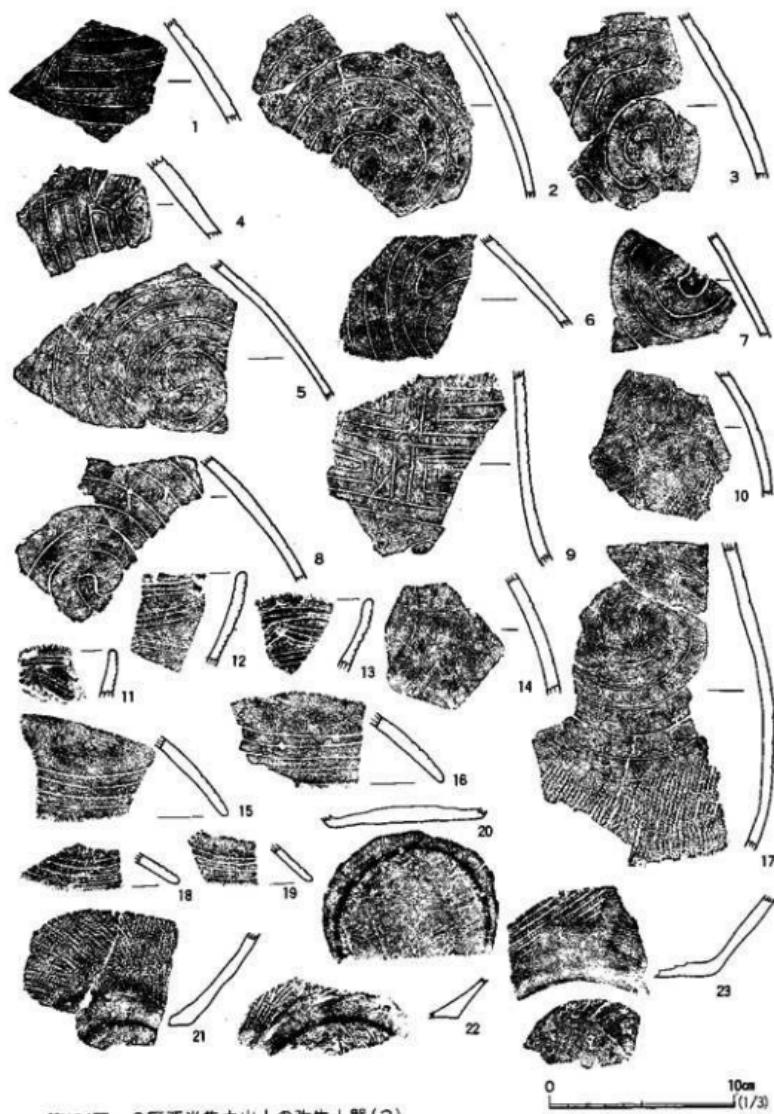


第152図 95号土坑墓上面出土の弥生土器

第2編 一ノ塙B遺跡

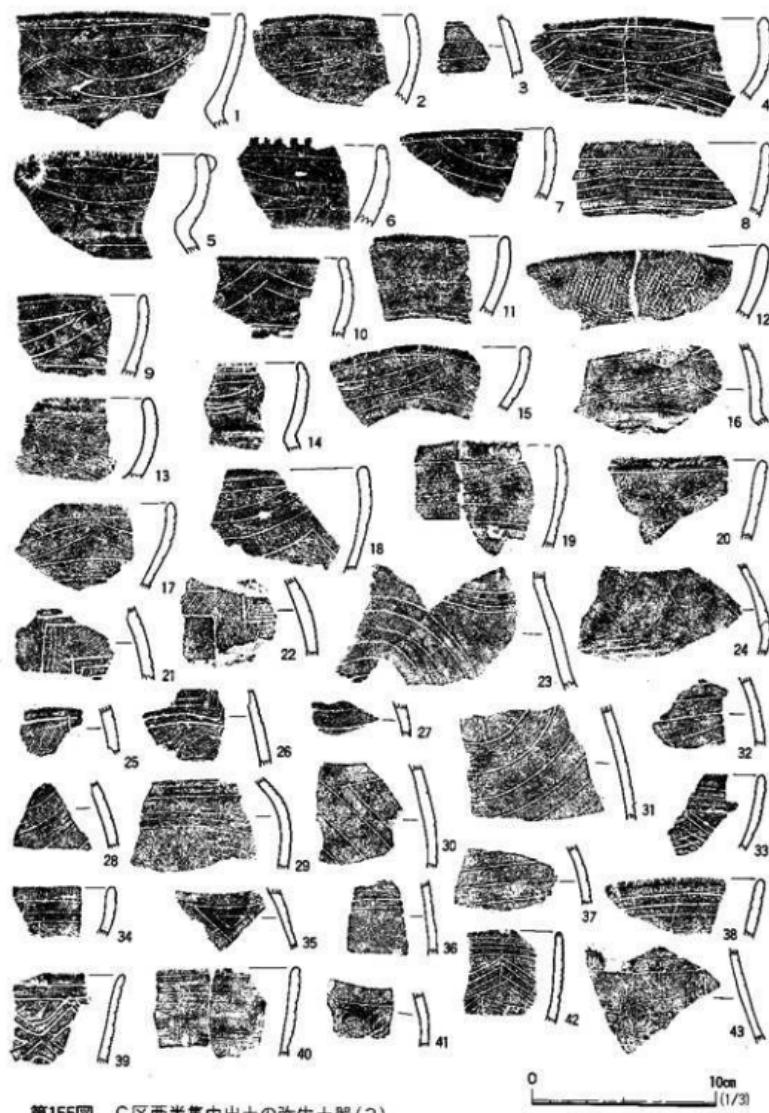


第153図 C区西半集中出土の弥生土器(1)

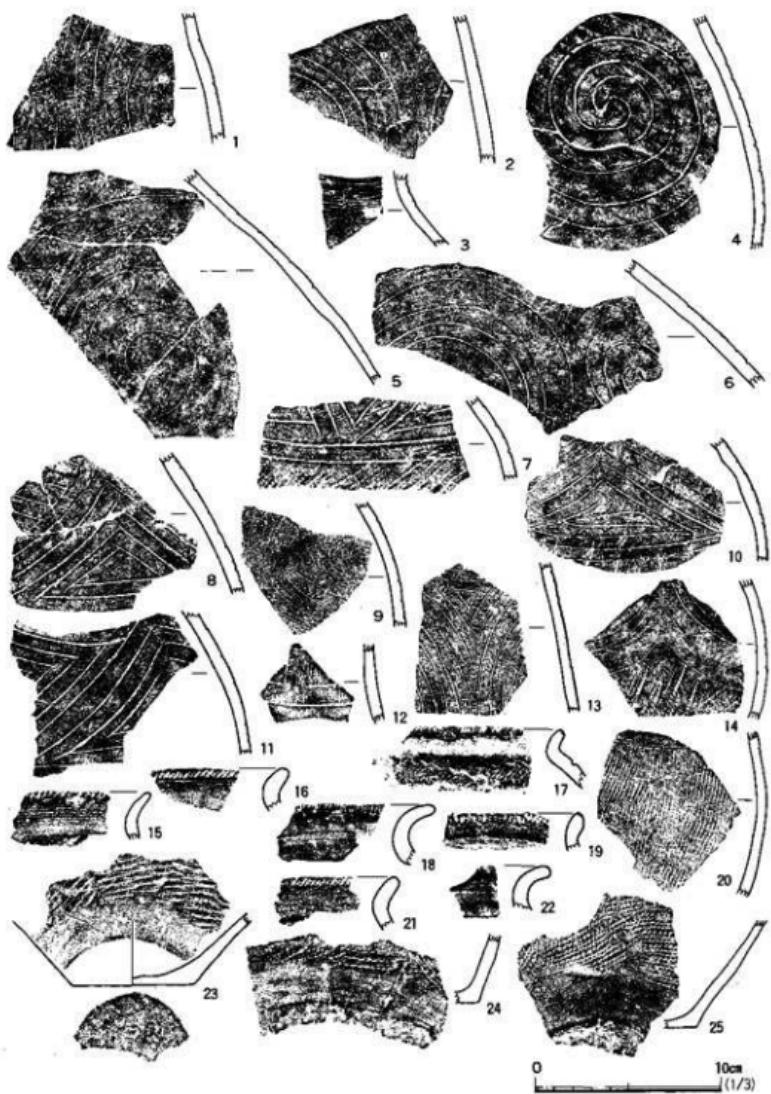


第154図 C区西半集中出土の弥生土器(2)

第2編 一ノ塚B遺跡

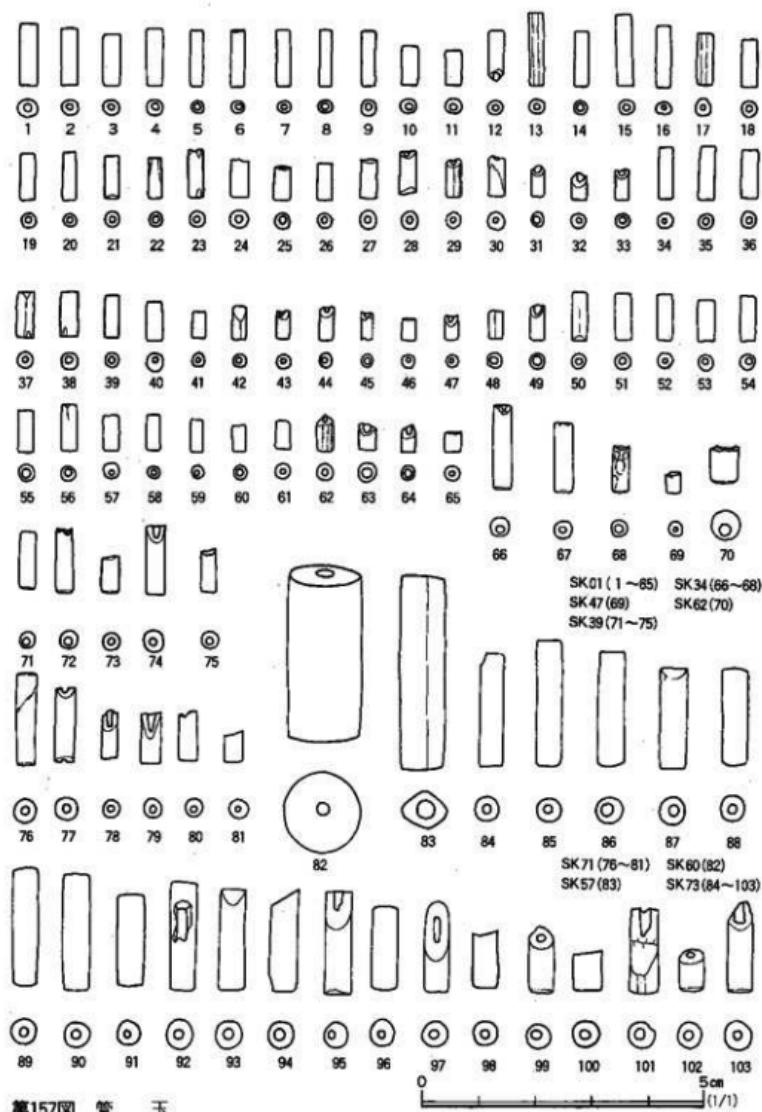


第155図 C区西半集中出土の弥生土器(3)

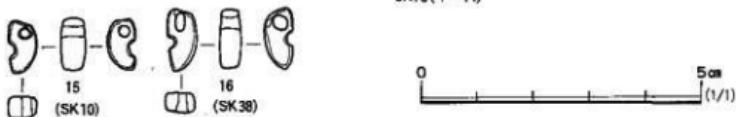
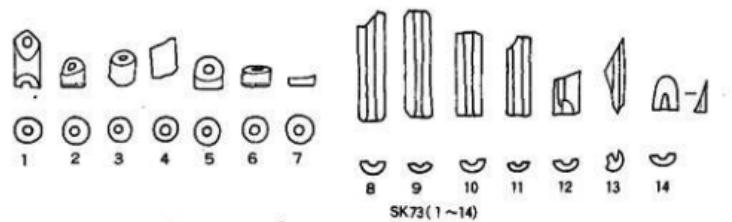


第156図 C区西半集中出土の弥生土器(4)

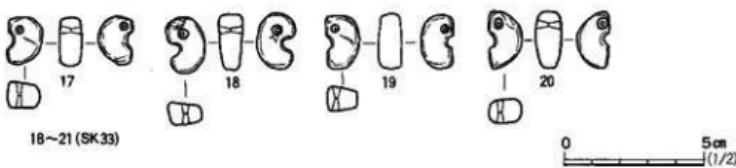
第2編 一ノ塚B遺跡



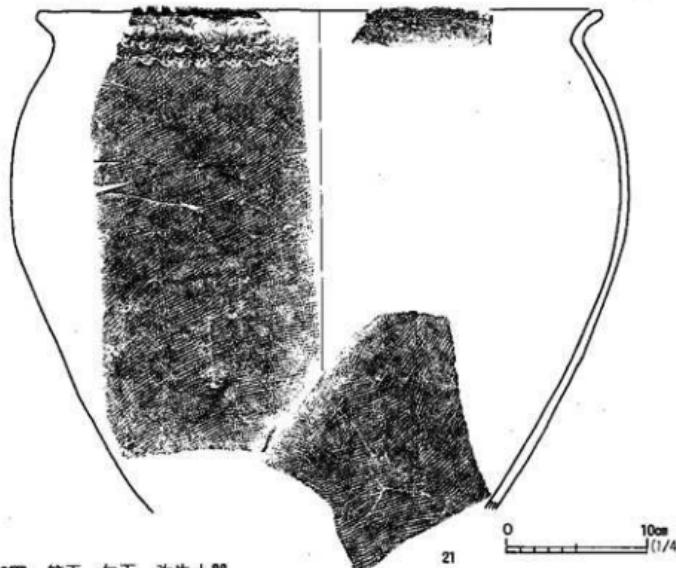
第157図 管 玉



0 5cm (1/1)



0 5cm (1/2)



第158図 管玉、勾玉、弥生土器

21

第4節 弥生時代以降の遺構と遺物

1. 遺構

114号土坑（第26図）

E区北西部で検出した土坑で長軸0.98m、短軸0.92m、深さ32cmの円形を呈する。断面鍋底状を呈し、堆積土は黒褐色で、礫を多く含んでいる。弥生時代の土坑墓の堆積土に比べて軟かく、それより後世の所産と考えられる。遺物は、土坑墓群に近いため、数片の弥生土器が出土している。

115号土坑（第26図）

E区南西端部で検出された土坑で、I区外にのびるための全容は不明である。長軸1.77m、深さ28cmを測る。方形もしくは長方形の土坑と考えられる。床面は平坦であり、壁は比較的急に立ち上がっている。遺物の出土は全くなかった。

116号土坑（第26図）

G区南西寄りで検出された土坑で、長軸1.33m、短軸1.00mの長方形を呈し、深さ26cmを測る。堆積土中に木質をわずかに残す炭化物が含まれており比較的新しい所産と考えられる。

117、118号土坑（第26図）

I区北半で検出した土坑で、両者切り合っており、117号土坑が古く、118号土坑が新しい。117号土坑は長径1.54m、深さ64cmを測り、円形を呈する。堆積土中に多量の礫をふくみ、また、後述する古代・中世の資料が出土している。118号土坑は長径1.26m、深さ20cmを測り円形を呈する。117号土坑に比べて堆積土が較質である。

119号土坑（第26図）

I区南端部で検出され、段丘疊層を掘り込んでつくられている。平面プランは弧長を呈し、長軸2.56m、中央部の幅1.24m、深さ40cmを測る。堆積土は117号土坑のと近似し、若干の古代、中世資料が出土している。

溝跡（第4図、第7図、第27図）

調査区内では4条の溝跡が検出されている。1号溝跡はC区からH区まで直線的にのびており、幅35cm位の規模を有し、近世～近代の水路と考えられ、水の流れは南から北である。23号溝も同様である。明治17年作成の地籍図に1号溝の記録がある。4号溝は、G区中央に検出され、西側のI区外へのびる直径40cmほどの溝である。床面は西へさがっている。この溝の記録は前述の地籍図にはなく、明治以前の所産と考えられる。3号溝では時期を判定する資料の出土はなかった。

(芳賀)

2. 遺物 (第159図・第160図)

出土遺物数は表1の通りである。中・近世の遺物はI・II区より出土しているが、古代のものはI区からのみである。近世のものとしては在地産の碗・皿(1・2)ばかりでなく、美濃産の長石釉の香炉(5)も出土している。また本郷産と思われる呉須の強い発色のものや、肥前磁器皿(4)も出土している。中世のものとしては、瓷器系陶器の甕・壺・片口鉢・皿と須恵器系陶器の甕・壺・擂鉢・土師質土器皿が出土している。瓷器系の甕・壺は底部片(7・8・9)が多いが、6のL字口縁の未発達な形態から13世紀前半の年代が推定される。甕底部片の中には、8のように窯変し、破片が融着したものがある。融着した破片は焼成の際に焼台にしたものと推定される。14のようないすれも胎土は大戸窯と通有であり、大戸窯の製品と推定される。従って大戸窯での供膳具の焼成の可能性を示す資料でもある。須恵器系の甕は斜方向のタタキ調整で、内面の当て具痕が明瞭で、体部下半の破片と推定される。また擂鉢は五条一組の彫りの浅いもので、櫛状の工具が想定される。11は立ち上がりが緩やかで甕の底部のような器形が想定されるもので、明らかに使用のため内面が摩滅している。窯変したものが使用されたのであろう。こうした須恵器系の陶器は会津盆地では喜多方市小田高原窯や大戸窯の沢A・B群で見ることができる。小田高原窯の内容は不明であるが、地理的に明らかに大戸窯に近く、また窯変した製品も含まれることから、大戸窯の沢A・B群の可能性が高い。年代観については今後の同窯跡の研究によると言わざるを得ないが、6の瓷器系の甕との供伴から、12世紀後葉～13世紀前半の年代観が想定される。他に土師質土器皿(9)も出土している。ロクロ調整、底部回転糸切りで内湾気味に立ち上がり底部をやや切り残した器形である。

施釉陶器としては古瀬戸仏花瓶(1)の頸部片が出土している。胎土は灰白色を呈し緻密で釉は黄緑色を呈する灰釉である。全形を推定できないので時期を限定できない。また中国龍泉窯系鎧蓮弁文青磁器(2・3)が出土している。胎土青灰色を呈し緻密で釉はオリーブ色を呈する青磁釉である。外面には片切彫で鎧蓮弁文が描かれており、森田・横田分類のI-5類で13世紀後半～14世紀前半のものと推定される。

I区119号土坑からは瓷器系甕・壺・皿と須恵器系擂鉢、土師質土器皿が一括で出土しており、13世紀前半の土坑と推定され、破片であるが、会津盆地の中世土器の様相をよく反映していると考える。また近隣にこうした土器を使用した生活遺跡も想定される。

古代のものとしては117号土坑から出土した須恵器擂鉢(4)は、ロクロ調整で、内面は使用のため摩滅している。胎土は大戸窯と通有であり、同窯の製品と推定される。M19窯でも擂鉢は出土しているが、器形にはやや差異がみられるが、9世紀の所産と推定される。従って117号土坑出

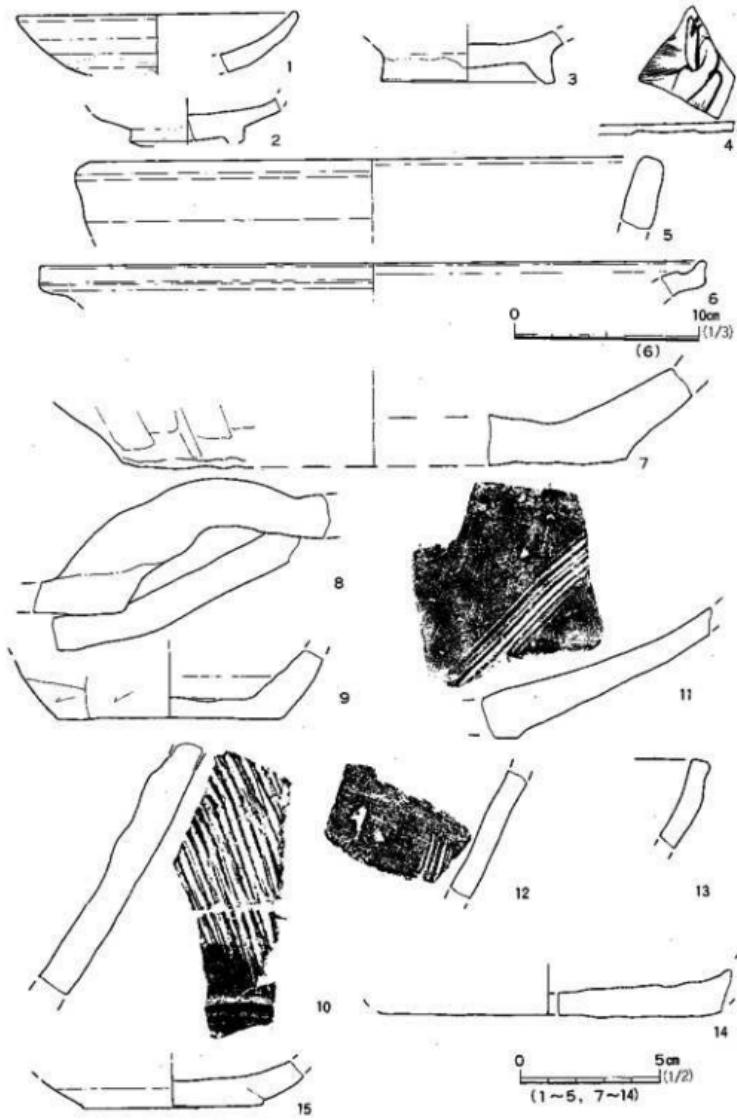
土の擂鉢も該期のものと推定される。

以上、各遺物について概観したが、年代の推定できる遺構としては117・119号土坑しか存在しないが、119号土坑出土遺物は会津盆地の中世土器の組成の一端を示している。須恵器系壺・擂鉢と瓷器系壺・壺・皿との混在と、土師質土器皿の存在である。会津盆地では湯川村北田城跡、喜多方市新宮城跡や若松城三の丸跡などと同じ状況を示しており、中通り・浜通り地方と異なった土器組成を示すと考えられており、本土坑はそうした状況を如実に示すものといえる。また117号土坑は9世紀代の遺構として、やはりごく隣接した地に関連遺跡の存在を示唆するものといえる。このように年代の推定できる遺構は2基のみであるが、一ノ塙A遺跡と同様に周辺には集落の存在が予測される。そうした集落と大戸窯は古代・中世を通して密接な関係を有していたことが予測される。周辺遺跡の調査によってこうした会津盆地の古代・中世の姿もより明確になるであろう。

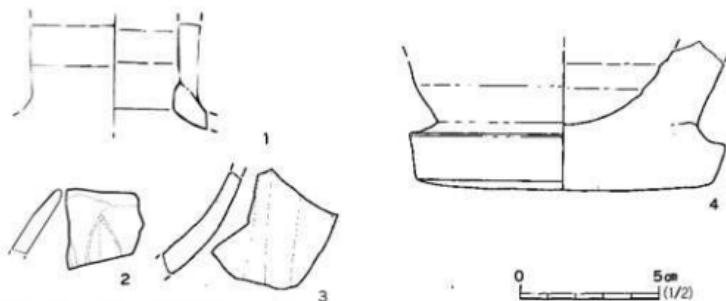
(飯村)

表1 一の塙B遺跡出土の弥生時代以降の遺物集計表

| | 出土地点 | 種別 | 器形 | 破片数 | 備考 | | 出土地点 | 種別 | 器形 | 破片数 | 備考 |
|----|----------------|------|----|-----|-------------|----|------|----------|------------|-----|-------|
| 近世 | I区 | 陶器 | 碗 | 5 | | 中世 | I区 | 瓷器系 | 壺 | 6 | 大戸窯 |
| | | | 擂鉢 | 1 | | | | | 片口鉢 | 3 | 大戸窯 |
| | | | 鉢 | 2 | | | | | 壺 | 2 | |
| | | | 花瓶 | 1 | | | | | 擂鉢 | 3 | |
| | | | 皿 | 1 | | | | | 青磁 鶴蓮弁碗 | 3 | 龍泉窯系 |
| | | | 壺 | 1 | | | | | 文皿 | 1 | 大戸窯 |
| 世 | II区 | 磁器 | 皿 | 2 | 本郷1 | 世 | I区 | 瓷器系 | 土師質 | 1 | |
| | | | 壺 | 1 | 肥前1 | | | | 施釉陶器 | 1 | 瀬戸・美濃 |
| | | | 香炉 | 1 | 美濃 (志野釉) | | | | 仏花瓶 | 1 | |
| | | | 不明 | 1 | | | | | 壺 | 6 | 大戸窯 |
| 中世 | I区 (SK 119) | 瓷器系 | 壺 | 3 | 大戸窯 | 古代 | I区 | (SK 119) | 壺 | 1 | 大戸窯 |
| | | | 壺 | 1 | 大戸窯 | | | | 瓶 | 6 | |
| | | | 皿 | 1 | 大戸窯 | | | | 壺 | 1 | |
| | | | 擂鉢 | 1 | 大戸窯 | | | | 擂鉢 | 1 | |
| 世 | I区 | 須恵器系 | 皿 | 1 | 大戸窯 | | | | 壺 | 4 | |
| | | | 擂鉢 | 1 | 大戸窯 | | | | 瓶 | 6 | |
| 世 | I区 | 土師質 | 皿 | 1 | 大戸窯 | | | | 壺 | 1 | |
| | | | 壺 | 14 | 大戸窯 | | | | 擂鉢 | 1 | |



第159図 中・近世の遺物



第160図 古代・中世の遺物

第3章 II区の調査

I区の北側約20cmのところに設けた調査区であり、現況は水田であった。調査面積は約250m²を測る。6月8日から調査を開始した。最初に重機を用いて表土を除去し、遺構検出作業を実施した。表土下では、水田区域を広げる以前(昭和30年代前半)の小区画の水田に伴う溝が1条検出されたが、それ以外の遺構は全く検出できなかった。LIIから、若干の古代・中世資料が検出されたので、それ以下を掘り下げ、遺物の発見と遺構の検出作業を実施したが、主だった遺構・遺物の発見もなく6月26日でII区の調査は全て終了した。

(芳賀)

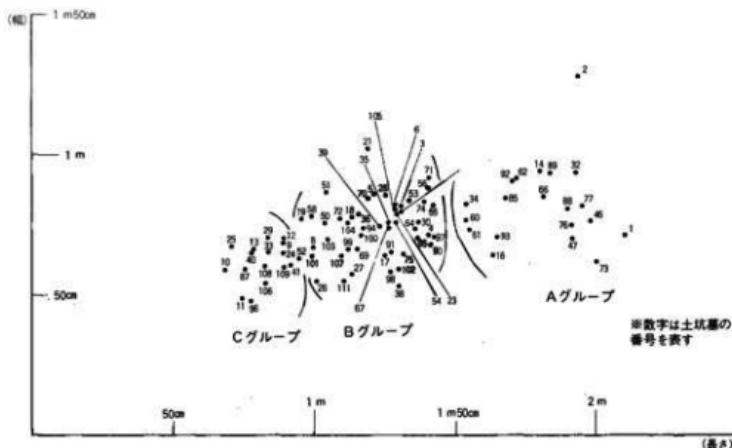
第4章 小 結

第1節 弥生時代の遺構について

今回の本遺跡の調査により弥生時代の遺構は1棟の竪穴住居跡、112基の土坑墓が検出されている。特に土坑墓に関しては、II区の北端部に直径約20mの範囲で明確な墓域を形成して分布しており、数や規模もさることながら、土坑墓内の堆積土中に多量の弥生土器片を含み、また後述するように墓標、墓域の境界の杭列の存在など東日本の弥生時代中期の墓制を考える上で、数多くの知見を得ることができた。土坑墓群の各グルーピングを行い、構造的な分析を行うことなど短時間の作業過程の中では連断できない問題も多く、それらは分析終了後、別に稿を草すとして、ここでは若干の視点について記述する。

112基の土坑墓は、それぞれ規模・形とも様々な様相を示している。第160図に示した長幅相間分布を見てみると、最大のものは1号土坑墓の長軸2.11m、幅0.71m、最小のものは10号土坑墓の長軸0.68m、短軸0.59mであり、この間の規模の各土坑は大きく分けて長軸1.50m以上のもの(Aグループ)、1.50~1.00mのもの(Bグループ)、1.00m未満のもの(Cグループ)の3者がある。数の上では比較的Bグループが多い特徴がある。

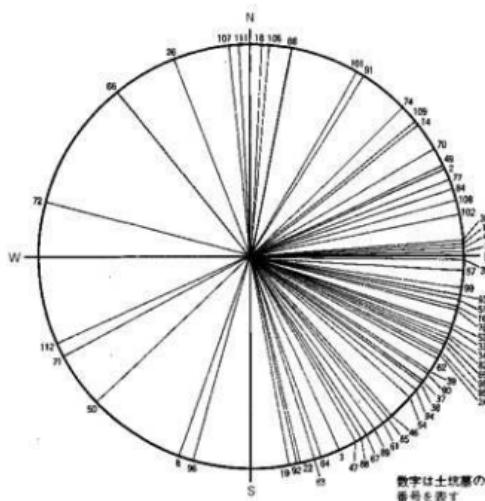
次に土坑墓の形を見てみると、大きく分けて1号土坑墓、47号土坑墓に代表される平面プラン



第161図 土坑墓長幅相間分布

隅丸長方形を呈するもの、55号土坑墓に代表される長椭円形を呈するもの、91号土坑墓に代表される楕円形を呈するものがある。土坑墓の形と前述した規模の関係を見てみると、隅丸長方形の土坑墓はAグループが多く、またBグループでは長軸がやや詰った隅丸長方形、長椭円形の土坑墓が主流であり、Cグループでは楕円形の土坑墓が多い。さらにそれぞれの土坑墓の墓域内における分布状況を観察してみると、D区ではAグループの32・16・14号土坑墓が東西に直線的に並び、その南部に、B・Cグループの土坑墓が集中して分布している。また、X・Y・C・D区の交点を中心とした地域では、88・89号土坑墓が並列し、その周囲をB・Cグループの土坑墓が環状に取り囲んでいる。こうした墓域内の分布におけるまとめは、被葬者間の様々な関係を示すものと考えられ、また墓域内の構造を知る上でも、重要な観点である。本遺跡の場合には、土坑墓間での弥生土器の接合が数多く確認されているが、調査終了後、短時間では結論を導き出す段階に到っておらず、この接合関係を通じて、墓域内の分布状況から見た各グループの分析を今後明確にしていかなければならない。

ところで、本遺跡の土坑墓に極めて特徴的な存在は、土坑墓に近接して発見されるピットである。112基のうち、ピットを確認できた土坑墓は26基を数える。ピットの形は、確認面の直径15~20cmのもの、25~30cmのものの2種類あり、ともに断面形は逆三角形を呈しており、前者の場合は、20~30cm位と比較的深く、後者は浅い。土坑墓とピットとの位置関係を観察してみると、



第162図 土坑墓の推定頭位

47号土坑墓が好例のように、土坑墓の長軸の中軸線の延長上に位置するもの、90号土坑墓のように、コーナー付近に位置するものがある。ピット内における堆積土を観察してみると、土坑墓内に比べて炭化物片が多い特徴がある。ピットは位置関係より、土坑墓と組み合わさせて存在することは明白であり、また断面形等により、丸太杭が打ち込まれていたものと判断され、さらに、杭の先端部は尖るよう加工されていたと思われる。そして、それは墓標としての機能を保有していたものと判断さ

れる。土坑墓に付随するピットと同様なものが土坑墓群の南端部に発見されている。このピットは、土坑墓群を全周するものではなく、南端部に列状に存在する。ピット列の東側への延びを丹念に調査したが、P_s以東、及び以北には全く検出することができなかった。これより判断して、ピット列は、墓域の南限に設置された杭列と判断される。

ところで、東日本の弥生時代の各種の墓において杭による墓標の存在が指摘された例は、これまでなかった。一方縄文時代に目を転じてみると、北海道地方の縄文時代後・晩期の土坑墓の中に墓標と思われるピットの存在が散見される。北海道地方においては、坪井正五郎以来のアイヌの墓標の研究(坪井1894、河野1931他)があり、そうした地域的特質がこの地方の縄文時代の土坑墓の墓標と思われるピットの多くの発見へつながっているのかも知れない。現時点では、本遺跡における墓標の存在は特異である。しかし、本来的に特異なものであるのだろうか。該期の周辺地域の土坑墓の報告を検討してみると、二、三土坑墓に近接存在する、小ピットが図示されている例があることが判明した。宮城県名取市十三塚遺跡(恵美1980)では昭和54年度調査の際に、14基の土坑墓が検出され、そのうち6、7、11、12号土坑墓のコーナー、片側にピットが存在している。また、会津地方の中では会津若松市墓料遺跡(須藤ほか1984)に土坑墓等に近接してではないが小ピット群が検出されており、これらは、墓標、あるいは杭列の存在の可能性を示すものと考えられ、一外に本遺跡例を特異な存在とかたづけてしまうわけにはいかない。今後、該期の土坑墓の調査に際しては、土坑墓に付随する小ピットの有無を検討することは必須の事項である。

土坑墓の床面を観察してみると、第1に、遺体の埋葬に際して木棺を用いたと考えられるような、溝状のピットや付帯施設は全ての土坑墓で検出されず、第2に、長軸に沿っていずれかの方向に傾斜していることが多くの土坑墓で確認された。この傾斜と前述の墓標の位置との関係を見てみると、床面の高い方向に墓標が位置する共通性が観察された。また、玉類、完形土器等の床面における副葬を観察してみると、やはり床面の高い方に副葬がなされていることが判明した。この共通性は、おそらく埋葬遺体の頭位方向の床面を高くし、また、その方向に墓標を設けているものと思われる。ただし、この判断は人骨の検出がなかったため、あくまでも推定の域を脱するものではない。第161図に前述の特色から判断される頭位の推定方位を示した。これによると、N45°E～S10°Eの東北から南南東の範囲に多くのものが集中している。東方を中心とした規制が存在したものと判断される。また一部にはこの方位と逆の方向のものも数基観察できる。西側の方位をもつと思われる土坑墓を観察してみると、例えば71号土坑墓の方位は西側であるが、これに隣接して、形、規模、墓標の存在など近似する70号土坑墓は71号土坑墓とは全く反対の東側の方位を示している。両土坑墓の被葬者は、分布から見ても何らかの関係を保有すると推測されるが、全く正反対の方位を示し大変興味深い。西側の方位を有する土坑墓では、71・72号土坑墓のような位置関係を示す例が少なくない。

ところで、土坑墓群より南へ15m離れたところから検出された1号住居跡の床面出土の弥生土器と73号土坑墓出土のものが接合し、これにより1号住居跡が土坑墓群と関係することが判明している。今回の調査は幅10mの範囲の調査であり、他に住居跡の検出はなかったが、工事区域外に他に住居跡が存在するのか、また1号住居跡1棟だけしかこの地域に存在しないのかによって、住居跡と土坑墓群の関係がかわってくる。現状では、土坑墓内の弥生土器との接合があった点を重視し、葬送に密接な関係を有する住居跡と考えておきたい。

土坑墓のほとんどからは、多量の弥生土器が破片となって出土している。弥生土器の出土状況は、土坑墓内堆積土の上部に多い特色があり、堆積土中に混在しているものより、折り重なって密集している例が多い。この状況は墓坑内を埋める際に弥生土器破片により封をしていたことを物語っているものと思われる。土坑墓からの弥生土器の出土状況を見ると、上層部に盛り上がるよう検出される例が多く、最上部で出土する弥生土器の多くは、器面の荒れや磨滅が激しい特色があり、またこの段階で構造プランを検出できる例は極めてまれで、最上部の弥生土器は土坑墓外にも広がって分布する例が普遍的である。このことから、当時各土坑墓は弥生土器により地表が盛り上っていた可能性が高い。土坑墓内から出土する弥生土器を観察してみると、底部に人為的な穿孔を有するものが多い特色がある。さらに長頸壺の口縁部から頸部にかけて現存する資料が比較的多いのが看取される。頸部と体部の境は打ち欠いて整形している場合が多く、土坑墓内に弥生土器を入れる際に、たんに破片資料を利用するのではなく、完全な形のものを打ち欠いていることが推測される。弥生土器は、炭化物の付着などにより日常使用されていたものを利用しており、それを土坑墓内に参画させる時、底部への穿孔を行っている。

以上、土坑墓内の諸特徴について記述を進めてきた。ここで土坑墓群についてまとめるところとなる。112基の土坑墓は後述するように弥生中期二ツ釜式期に属する。遺体埋葬形態としては、直葬をとるものと思われる。土坑墓内での木棺の使用は観察されないが、遺体が布等でくるまれていたことも考えられる。ただし、伸展葬なのか屈葬などの葬法をとるのか、一土坑墓一遺体の埋葬なのかを知る規準はなく不明である。各土坑墓の大きさは埋葬される遺体の大きさに応じているものと思われ、Aグループは成人、Bグループは成人～小児、Cグループは小児を中心とした埋葬に用いられたと判断される。土坑墓内堆積土中から弥生土器が多量に出土し、底部の穿孔が認められた。また、床面では、管玉、勾玉の副葬があり、管玉を副葬した土坑墓のうち、1・73号土坑墓とともに管玉の出土数では他と際立っている。両者ともに被葬者としての性格が他と異なるのかも知れない。管玉の場合、成人埋葬と判断される土坑墓からの出土であったが勾玉の場合には、10、33号土坑墓のように小さな土坑墓からの出土であった。

さて、こうした土坑墓は、これまで周辺地域では、郡山市柏山遺跡(目黒1966、須藤1972)、本宮町陣場遺跡(馬目1971)、鏡石町笠池上遺跡(永山1980)、須賀川市土取場遺跡(長島1982)、同市

大久保A遺跡(芳賀1981), 山形県米沢市堂森遺跡(佐藤1975)などが知られている。会津地方の例では、会津高田町五本松遺跡(吉田1984), 南御山遺跡(杉原1954)に同様な土坑墓群が存在したと予想され、会津若松市川原町口遺跡でも、土坑墓群の検出があったという。このうち、古い段階としては、土取場遺跡、篠池上遺跡例があり、ともに本遺跡例より一段古い南御山2式期に属する。五本松遺跡は、正式な調査を行った資料ではないが、底部穿孔の壺、管玉の出土により、土坑墓の存在を考えてもよからう。発表された資料の主流は南御山2式期の資料であり、該期の土坑墓があつたものと判断される。南御山2式期以前の葬制は、周知のように再葬墓による2次葬をとるものであり、再葬墓の風習を古くから行い、また中心地域であるこの地域に南御山2式期に2次葬から1次葬への転換があつた点は重要である。その背景を今後検討していかなければならないが、土坑墓内への多量の弥生土器の使用など両者の密接な関係があるものと思われる。現時点ではこうした葬法は、南御山2式期にはじまり、川原町口遺跡例などのように、本遺跡例の次の段階の川原町口式期まで確実に行われている。この段階は関東地方、新潟県南部(下谷地遺跡例)まで方形周溝墓の導入があるわけであり、今後この方面の問題も考えていかなければならぬ。

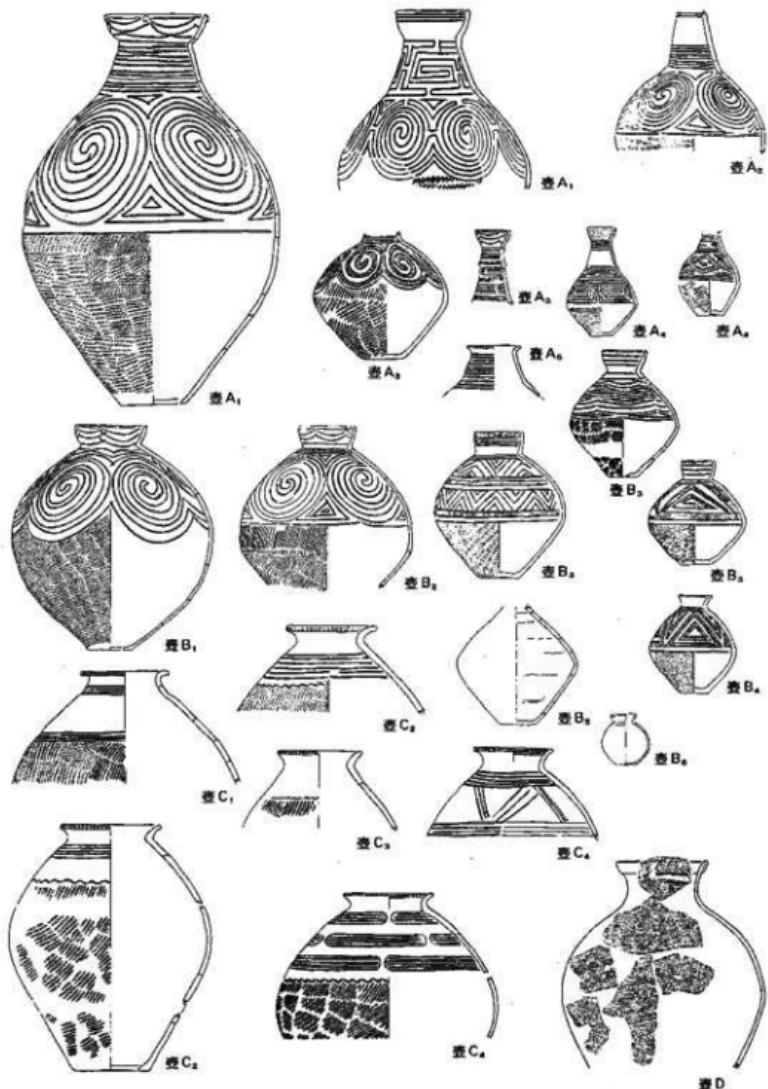
第2節 弥生土器について

本遺跡では土坑墓群を中心として多量の弥生土器の出土があつた。総破片点数は10万点を超えるものと思われる。因に石器は剥片が20点ほど出土しているにすぎない。第163・164図に弥生土器の分類を示した。以下、それをもとに説明を加える。

弥生土器の中で圧倒的に量を誇るのは壺である。壺には長頸壺、無頸壺があり、それぞれ各種の大きさ、プロポーションの特色がある。長頸壺を壺Aとする。壺Aには、受口状の口縁を有し太い頸部をもつ大型の壺(A₁)、受口状の口縁を有し、筒状の細みの頸部の大型の壺(A₂)、A₂と同じ形態を成す中・小型の壺(A₃)、受口状の口縁を有し太い頸部をもつ小型の壺(A₄)、く状に外反する短い口縁を有し、太い頸部をもつ小型の壺(A₅)がある。壺Bは無頸の壺である。壺Bには受口状の口縁を呈し体部球形となる大型の壺(B₁)、B₁と同じ形を成すが、B₁と異って体部上端に頸部文様帶を有する壺(B₂)、受口状の口縁を有し、体部球形となる中・小型の壺(B₃)、く状に外反する短い口縁を有する小型壺(B₄)、体部無文となり口縁部がすぼまる中型の壺(B₅)、口縁く状に外反し、体部球形となる小型の壺(B₆)がある。壺Cはく状に外反する短い広口の口縁部を有し体部中央に丸みをもつものである。口端に繩文を施し、体部の上半を無文とし、体部上端と、中央やや上に平行沈線をめぐらしたもの(C₁)、体部上端部に平行沈線をめぐらし、その直下に結節回転施文を行つたもの(C₂)、体部上部に結節回転施文のみを行つたもの(C₃)、口

端にキザミを有し、体部に平行沈線、あるいは長方形区画文などを施文したもの(C₄)があり、口縁内面への文様の施文がしばしば認められる。壺Dは、口縁が複合口縁を成し、やや太めの頸部をもち、体部飼卵形を成し、口縁部に刷毛目工具による羽状の刺突を施し、外面には、粗い刷毛目による調整を施している。壺には、口縁く状に外反し、口端と体部に縄文を施文し、体部上端には結節回転施文を行い、口縁部にはヨコナデを施したもの(A)，極端に屈曲する短い口縁を有し、体部上半に文様帶を有するもの(B)，口縁部外反し、口良にキザミを有し、体部上半に文様帶をもつもの(C)がある。壺の量では、壺Aが一般的である。鉢では体部に縄文を施文し片口を付けたもの(A)、底部から口縁にかけて屈曲せずにゆるやかに立ち上がるものの(B)、口縁部がく状に外反していくものの(C)、体部下半がやや屈曲し方形の小型鉢(D)、口縁内湾し体部に溝文を施文した中型の鉢(E)、塔状の小型鉢(F)、口縁部・体部間に屈曲を有し、口縁部・体部上半部に文様帶を有する鉢(G)、筒状の小型鉢(H)、がある。高环には、体部にやや内湾しながら立ち上がる环部と外側に広がる台部をもつもの(A)、筒状の台部を有し、切り込みによる窓を設けたもの(B)、棒状で裾部に広がる台部を有するもの(C)、大きく外側に開く环部と、ハ状の台部を有する無文の高环(D)がある。蓋には頂部が高台状となるものは看取されず、頂部からゆるやかに外側に広がり笠状を呈するもの(A₁，A₂)、頂部筒状を呈し、下半部が内湾しながら広がるもの(B₁，B₂)がある。文様帶の位置により、それぞれ分離される。

さて、これらの弥生土器の所属時期について触れてみよう。各器種とも文様施文にはヘラ描きの沈線が用いられており、半截竹管等による2本一組の沈線は観察されない。壺の場合、体部上半に溝文を主流として、重三角文、重菱文等が施文されている。沈線施文は、上記の手法をとるもので、沈線間の間隔は比較的広い。さらに、沈線間を交互にミガキ・ナデの調整をしているのが一般的で、ナデの部分には赤色塗彩されているものが散見される。鉢の場合には、文様帶を有するものでは連弧文のモチーフをもつものが多く、沈線施文部に最終的にミガキ調整を行うことが一般的で、無文部はナデ調整をしている。こうしたヘラ描き沈線による溝文、連弧文を多用し、充填縄文を欠くのは、二ツ釜式土器(中村1959)の特色であり、2本一組同時施文のモチーフの欠落を考えても、本遺跡出土弥生土器の方は二ツ釜式土器と判断してよかろう。二ツ釜式土器は従来資料的にも恵まれず、本宮町陣場遺跡で好資料がある程度であったが、今回の資料により、その内容も明らかになろう。特に、壺Cの存在、片口付鉢の存在、壺における口縁部のヨコナデ手法、沈線間の交互のミガキ・ナデの手法は注目されよう。壺Cに関しては、弥生前期の遠賀川式土器を模倣したものに近似し、その復活を思わせるが、むしろ長頸壺などにおける頸部への上下2段の平行沈線文帯を形成することがこの種の壺の出現と関係すると思われる。一部には37・39・88・106号土坑墓床面出土の完形の壺、第46図1のように沈線区画内に縄文、偽縄文を充填するものもみられ、これらは南御山2式期と判断される。それらの土坑墓の堆積土中の弥

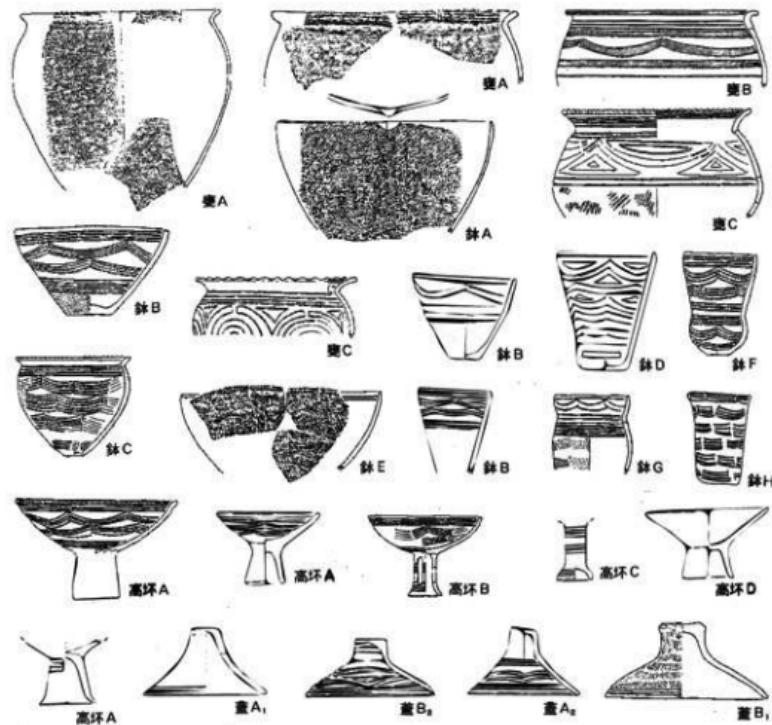


第163図 弥生土器の分類(1)

第2編 一ノ塙B遺跡

生土器は、二ツ釜式土器であり、両者の間に時間差があるが、これは土器型式の上での時間差であり、土坑墓内の土層堆積に時間差を考えることはできず、土坑墓の年代としては、二ツ釜式期と判断するのが妥当であろう。このように土坑墓の中には、一段階古い土器を副葬している現象があり、その種の土器と共に通する器面の荒れは、使い古しの結果によるものであろう。このように本遺跡の土坑墓群の時間的な幅は、二ツ釜式一型式の時間内におさまるものと思われる。

本遺跡の弥生土器については、紙面の都合上詳しく述べることはできないが、編年的な問題、技法上の問題、縄文原体、布痕の統計、累系統の土器である壺Dに関してなど今回用意した稿は別の機会に述べることとする。
(芳賀)

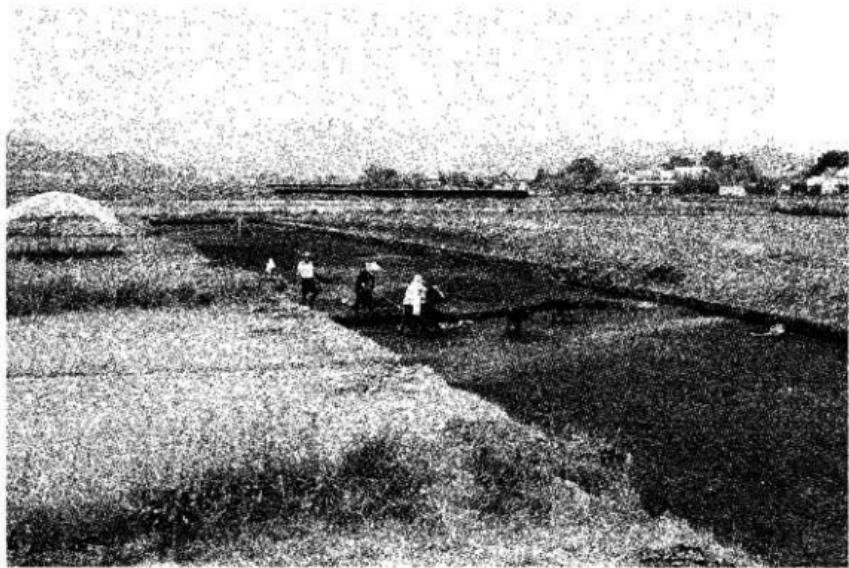


第164図 弥生土器の分類(2)

図 版



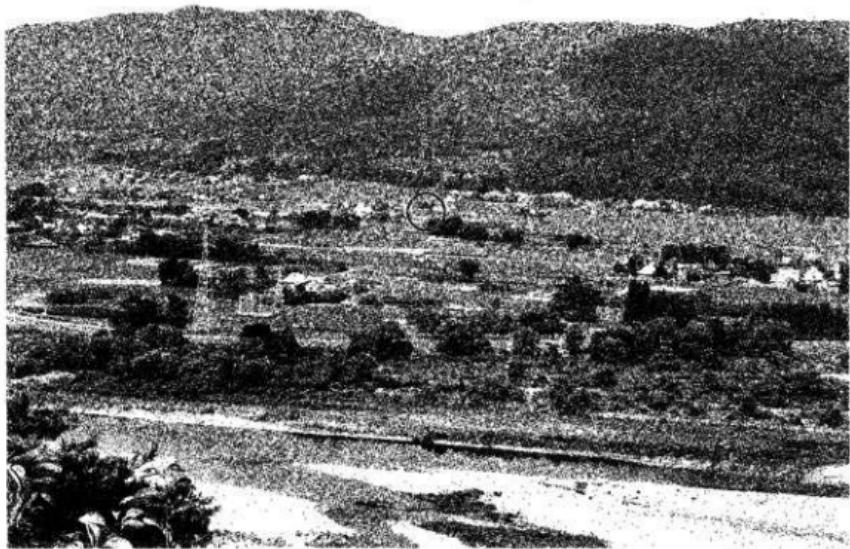
1 遺跡の位置



1 調査風景



2 溝跡



1 遺跡遠景(西から)

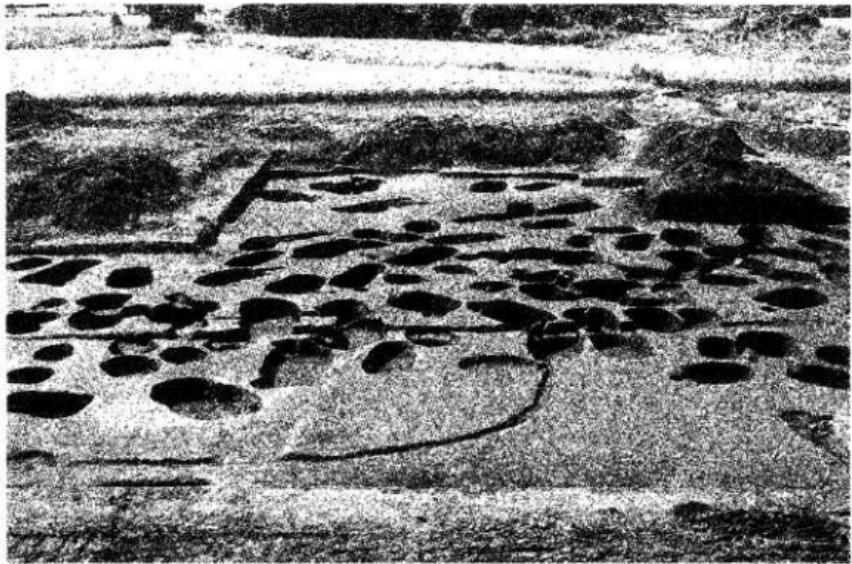


2 発掘調査前の現況(北から)

(2)



1 土坑墓群（北東から）



1 土坑墓群（東から）



2 土坑墓群（北東から）



1 土坑墓群（南半部）



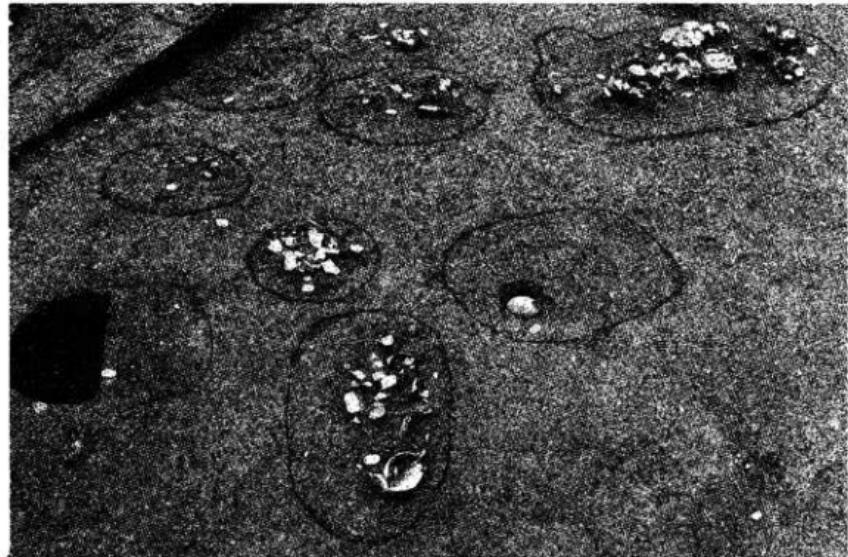
2 土坑墓群（南から）



1 土坑墓群（北から）



2 土坑墓群（西から）



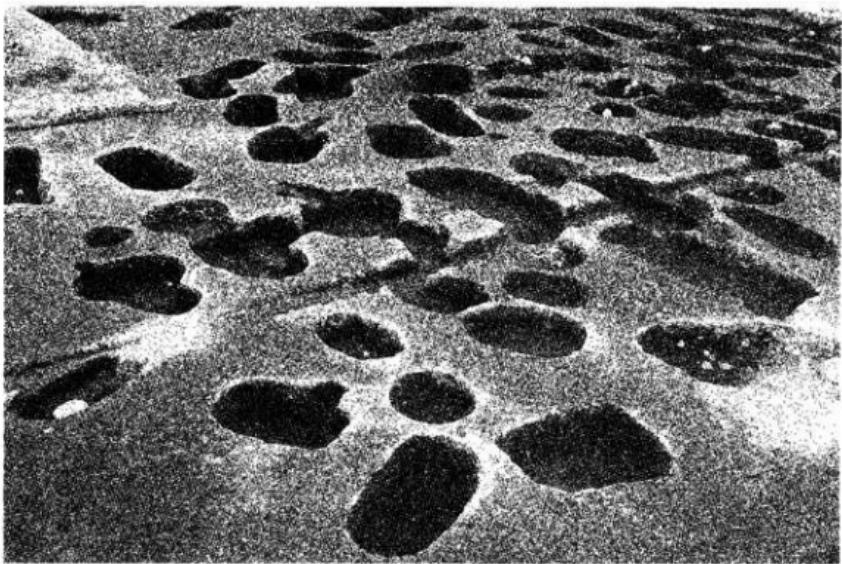
1 土坑墓検出状況



2 土坑墓上面の弥生土器



1 土坑墓群（北から）

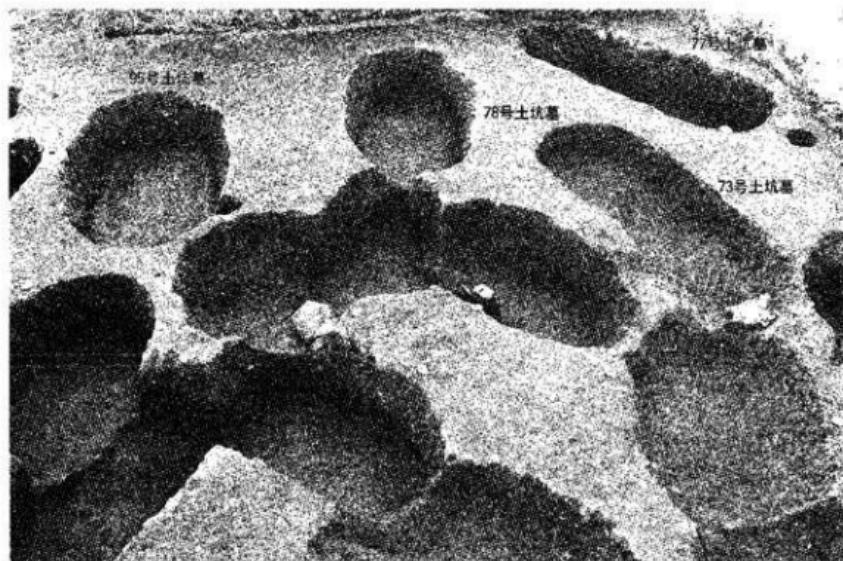


2 土坑墓群（南東から）

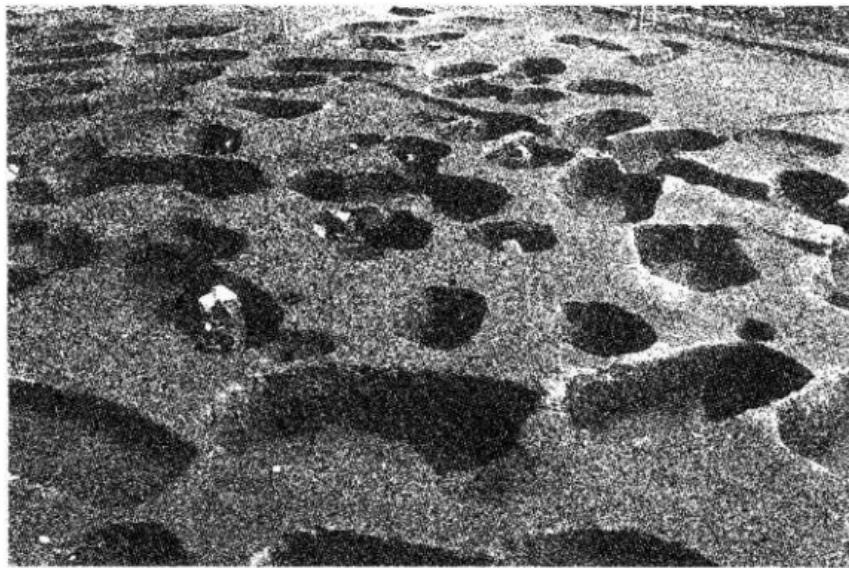
(8)



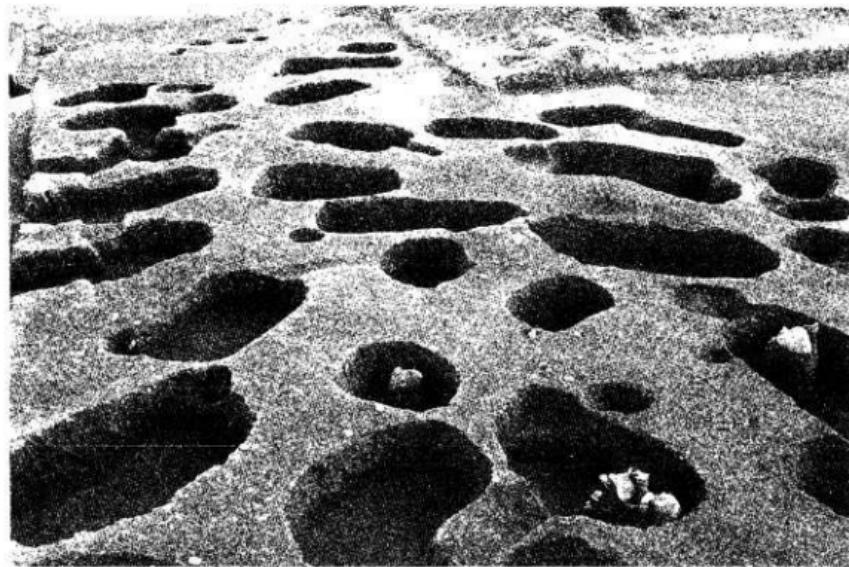
1 土坑墓群（C区、西から）



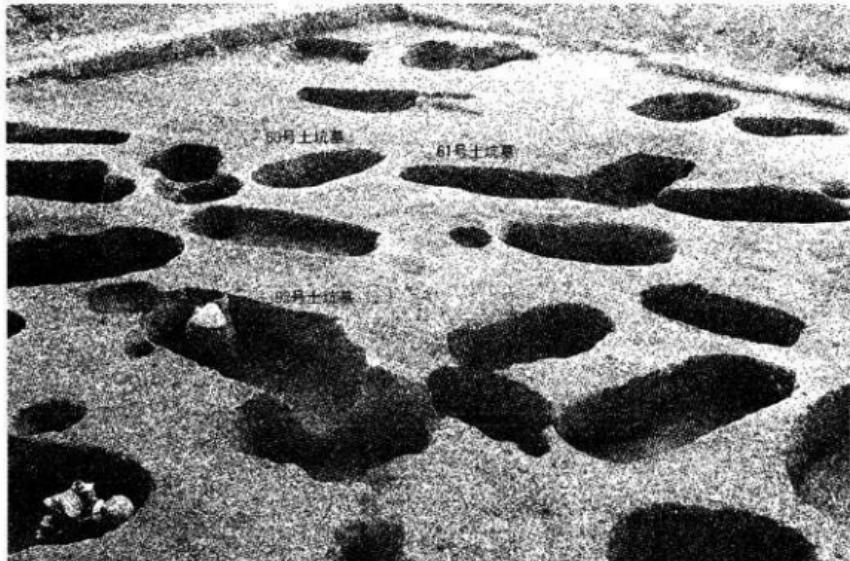
2 土坑墓群（C区、東から）



1 土坑墓群 (C区東半部, 南西から)



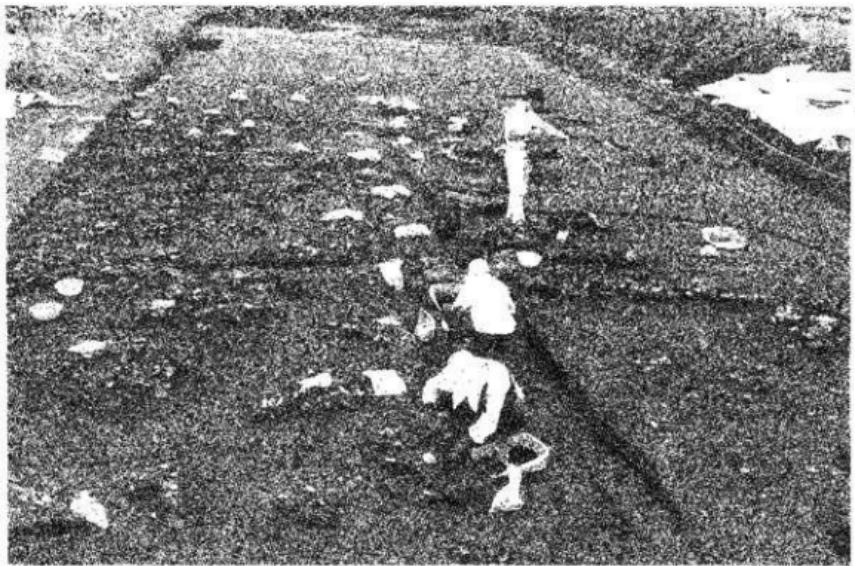
2 土坑墓群 (C区西半部, 北から)



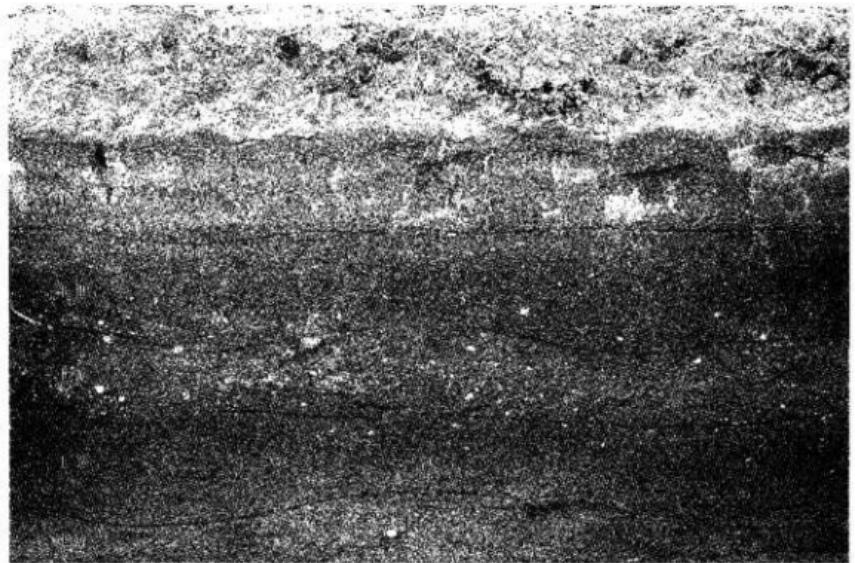
1 土坑墓群 (X・Y区, 東から)



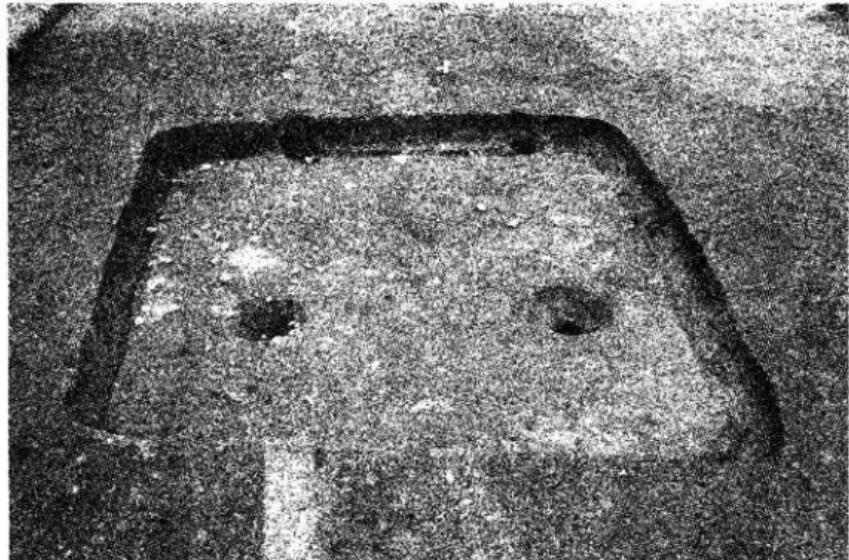
2 土坑墓群 (D区, 北から)



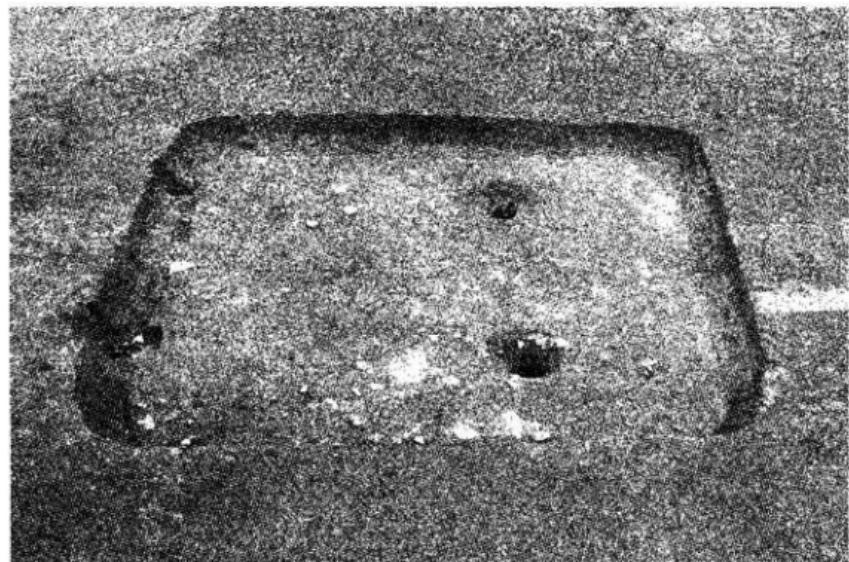
1 土坑墓群調査風景



2 土 層



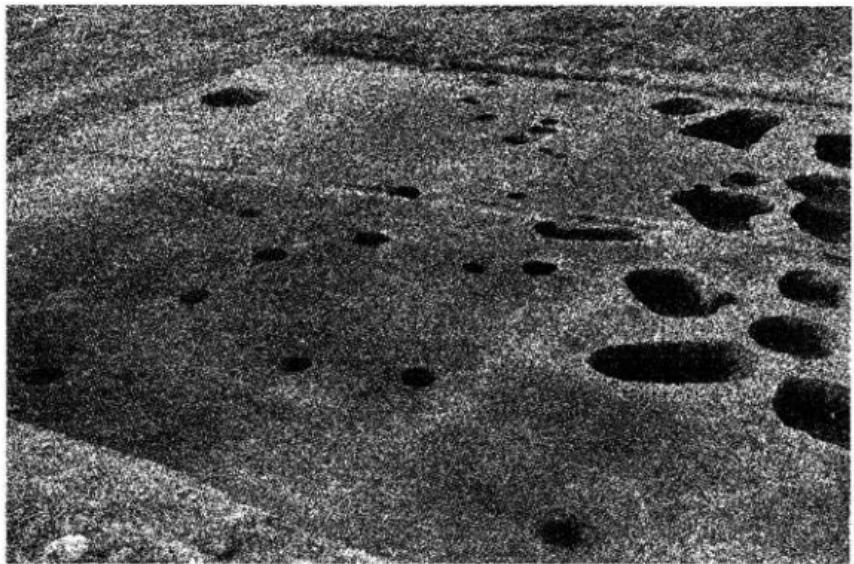
1 1号住居跡（北から）



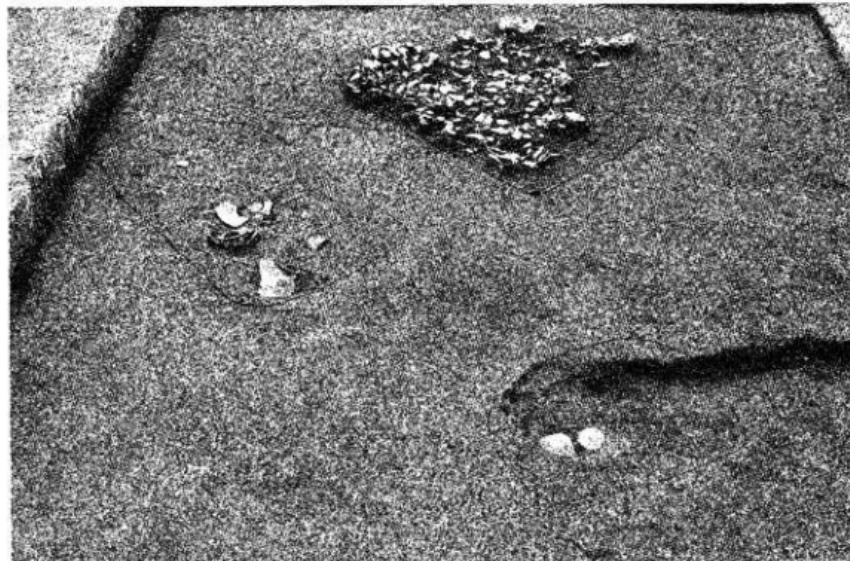
2 1号住居跡（東から）



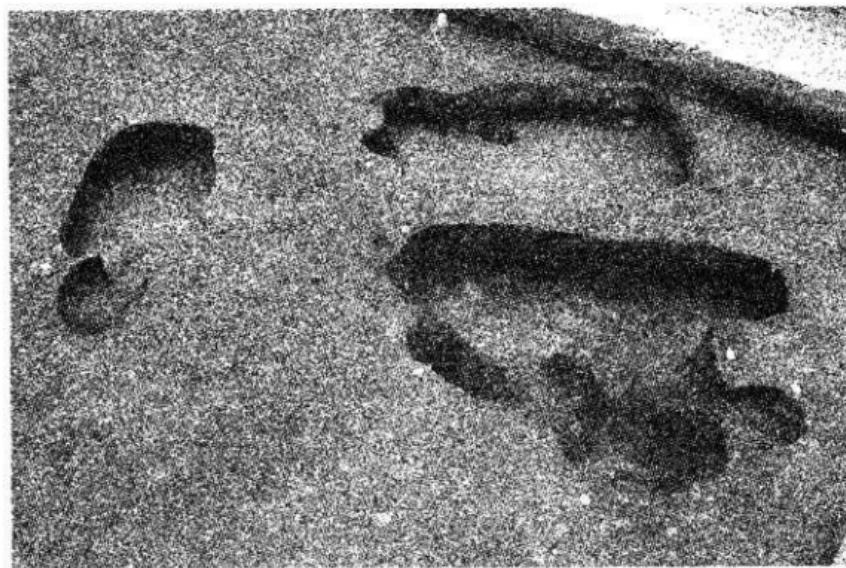
1 土坑墓群南端柱穴列（西から）



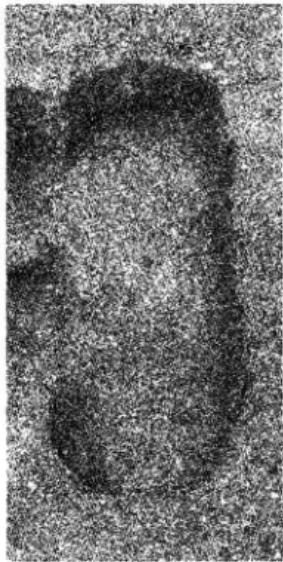
2 土坑墓群南端柱穴列（東から）



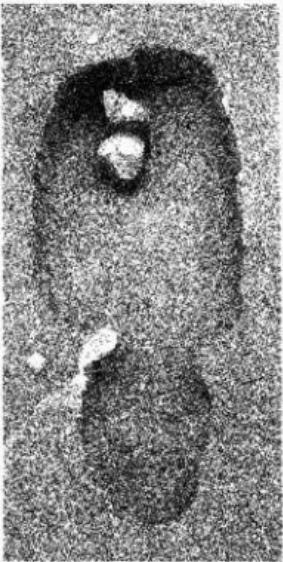
1 1・2・3・41～44号土坑墓（検出面）



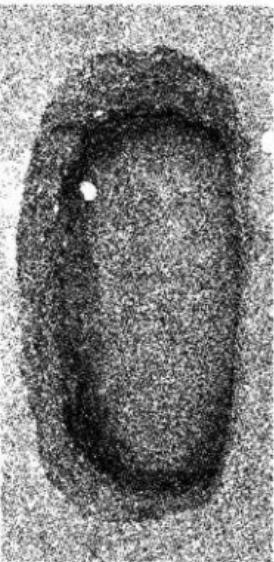
2 1・2・3・41～44号土坑墓（完掘）



1 1号土坑墓



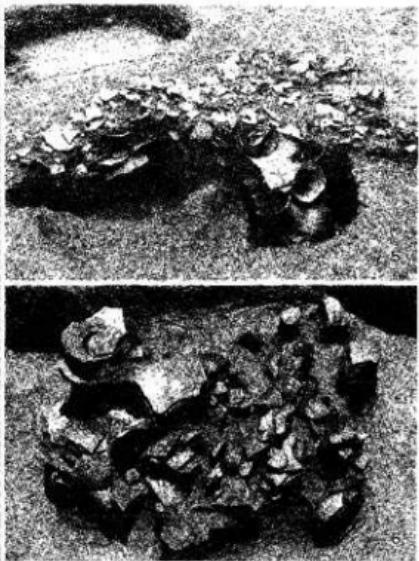
2 3号土坑墓



3 4号土坑墓



4 2号土坑墓

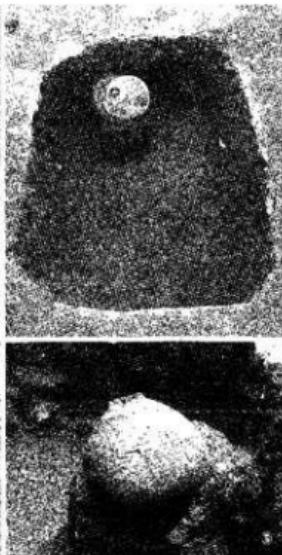


5 1号土坑墓弥生土器

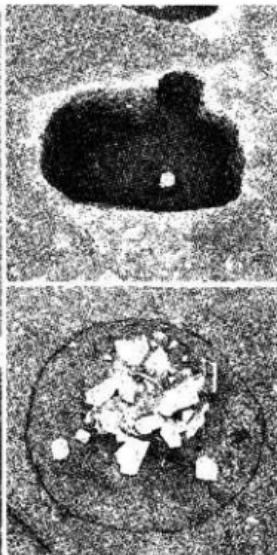
6 2号土坑墓弥生土器



1 7号土坑墓



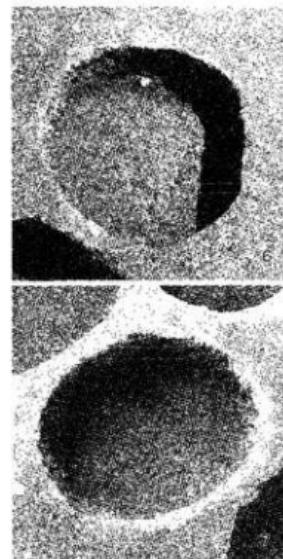
2 8号土坑墓



3 8号土坑墓弥生土器

4 9号土坑墓

5 10号土坑墓



6 12号土坑墓



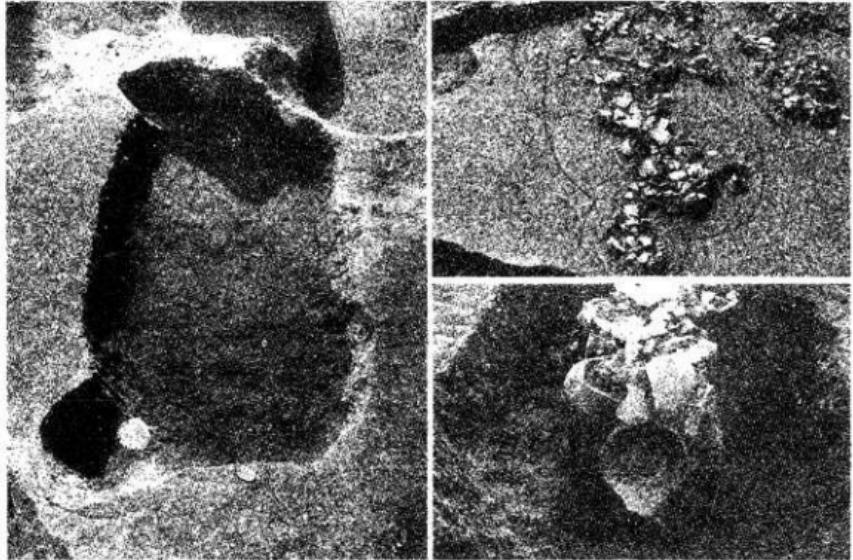
7 13号土坑墓



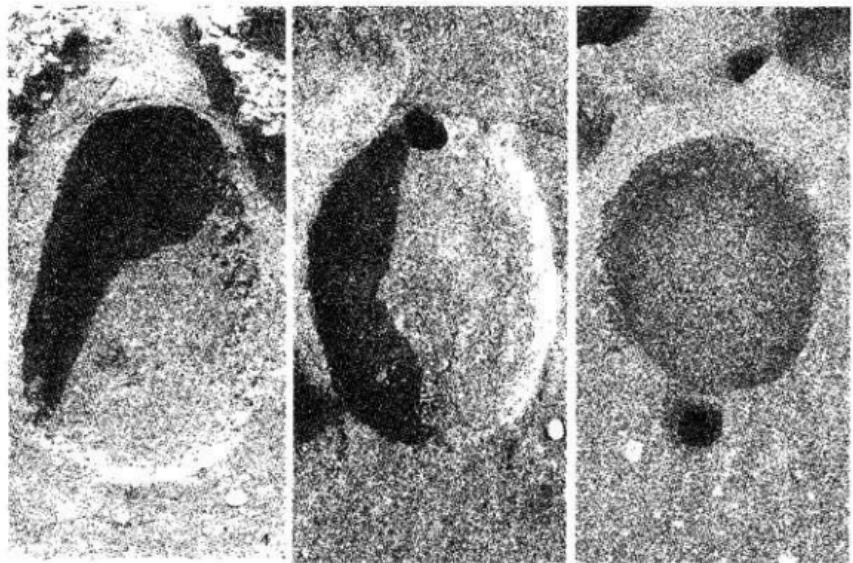
8 14号土坑墓

9 14号土坑墓弥生土器

10 15号土坑墓



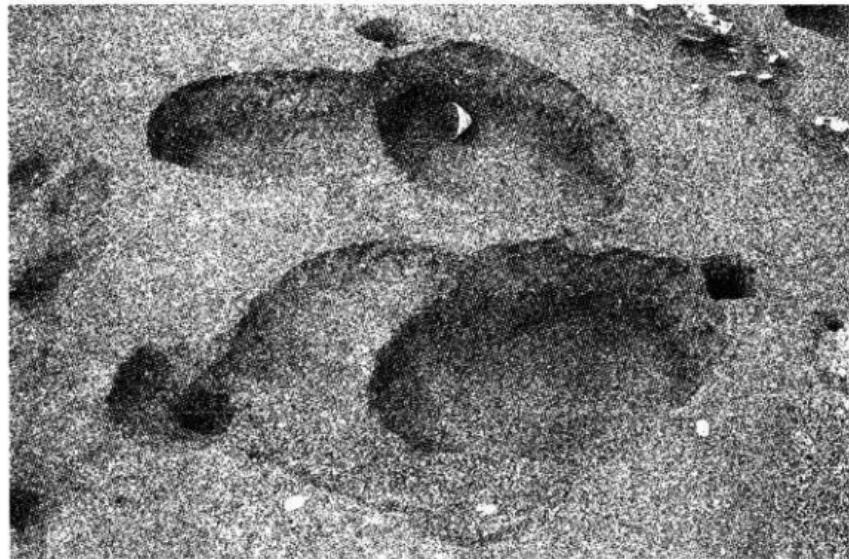
1 16号土坑墓 2 16号土坑墓上面 3 16号土坑墓弥生土器



4 17号土坑墓

5 18号土坑墓

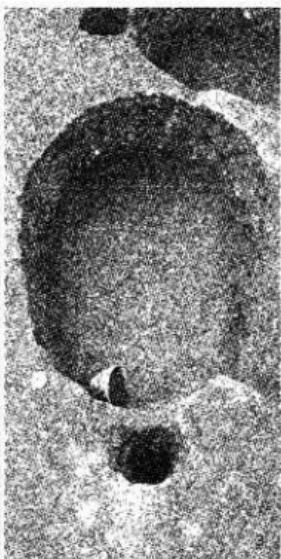
6 19号土坑墓



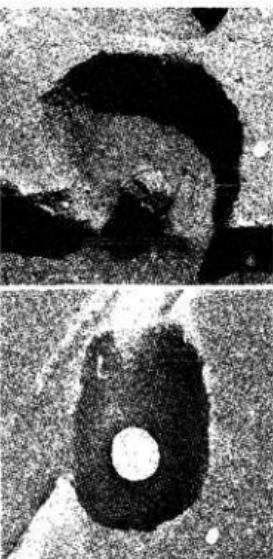
1 20~23号土坑墓



2 21・23号土坑墓



3 22号土坑墓



4 24号土坑墓
5 26号土坑墓



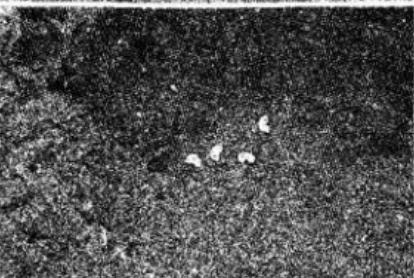
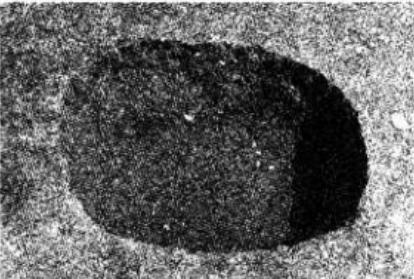
1 27号土坑墓



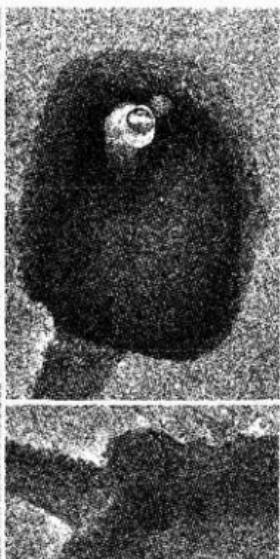
2 32号土坑墓



3 28~30号土坑墓



1 30号土坑墓弥生土器 2 32号土坑墓弥生土器 3 33号土坑墓 4 33号土坑墓勾玉

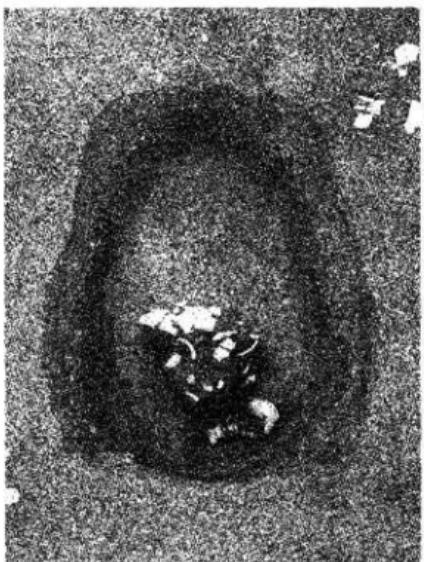


5 34号土坑墓

6 35号土坑墓

7 37号土坑墓

8 37号土坑墓ビット



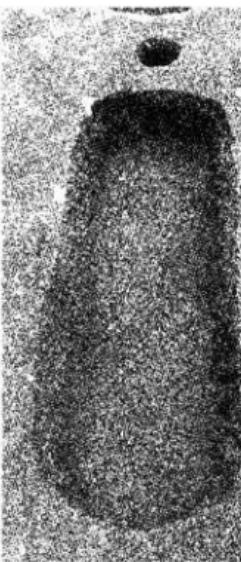
1 39号土坑墓



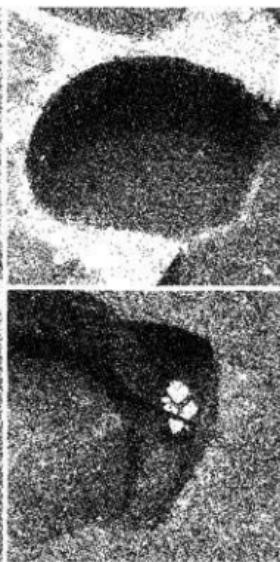
2 40·90号土坑墓



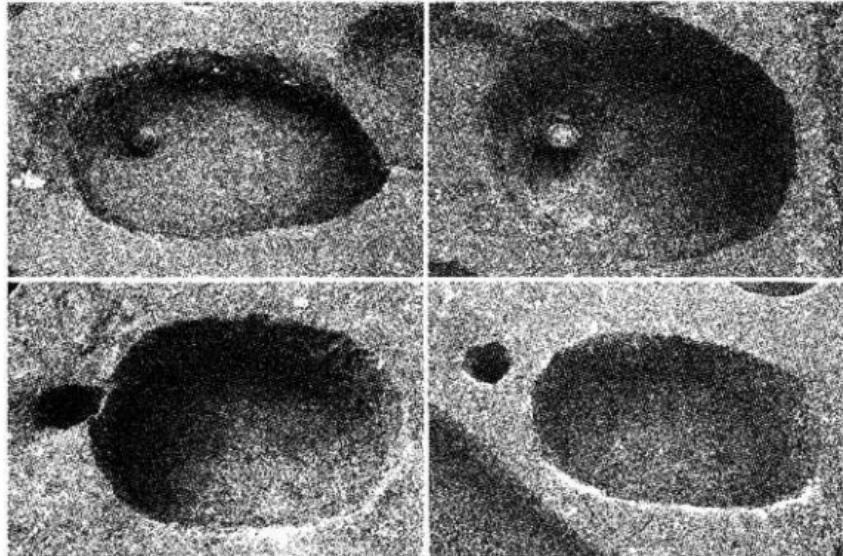
3 46号土坑墓



4 47号土坑墓

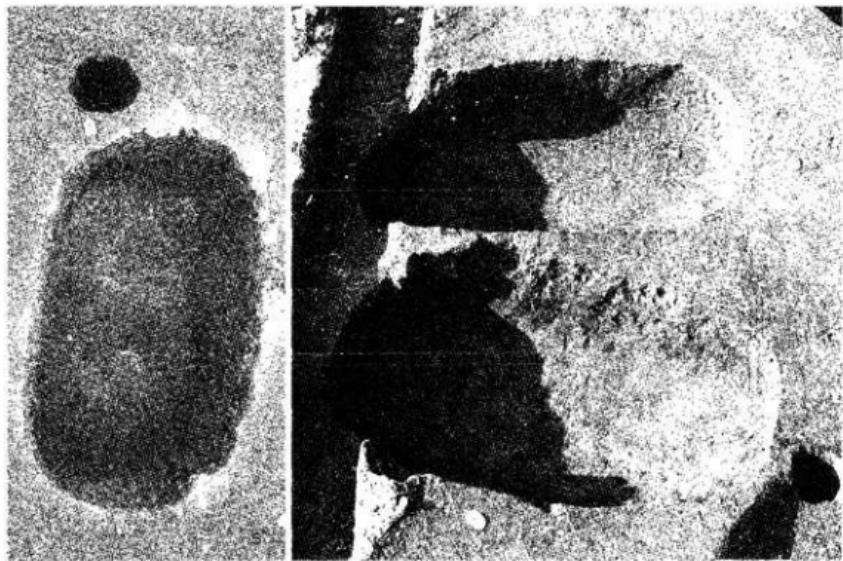


5 45号土坑墓



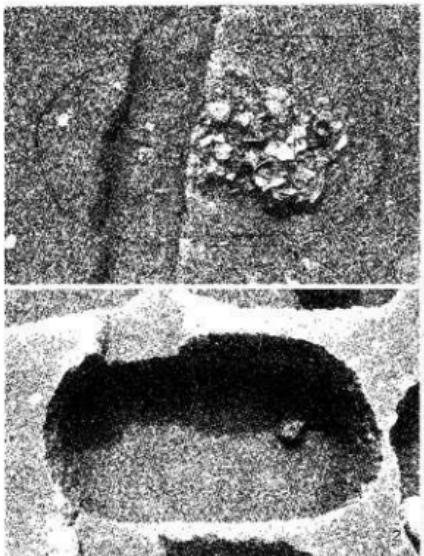
1 48号土坑墓 2 50号土坑墓

3 51号土坑墓 4 53号土坑墓



5 54号土坑墓

6 55・56号土坑墓



1 57号土坑墓上面



2 57号土坑墓

3 59号土坑墓



4 60号土坑墓



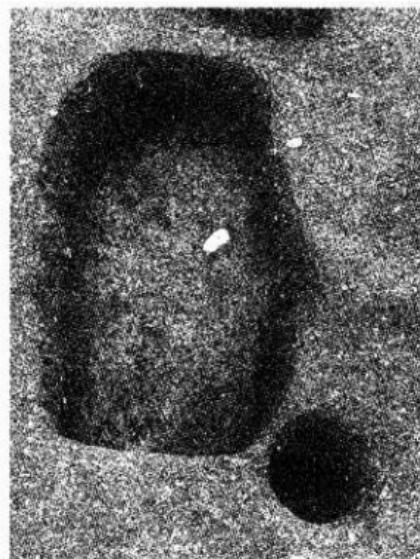
5 61号土坑墓



1 62号土坑墓



2 63号土坑墓



3 66号土坑墓



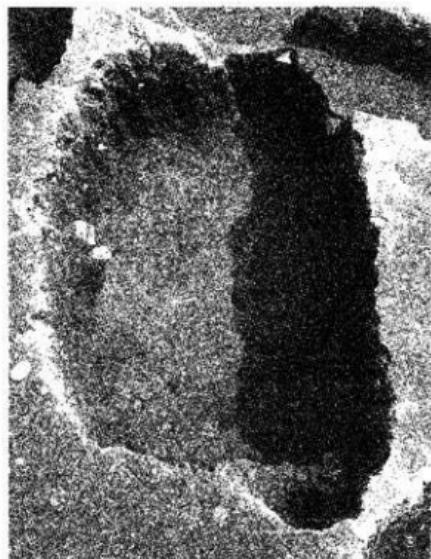
4 67号土坑墓



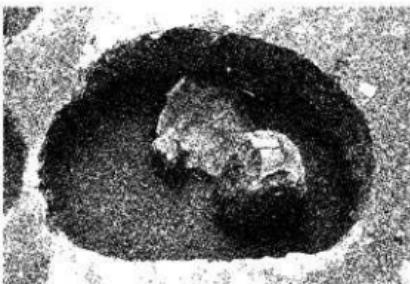
1 68号土坑基



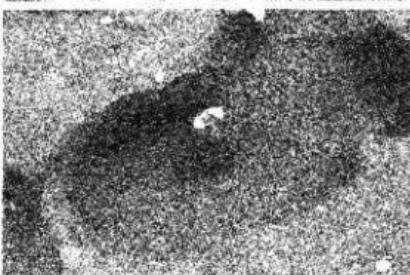
2 70号土坑基



3 71号土坑基



4 72号土坑基



5 74号土坑基

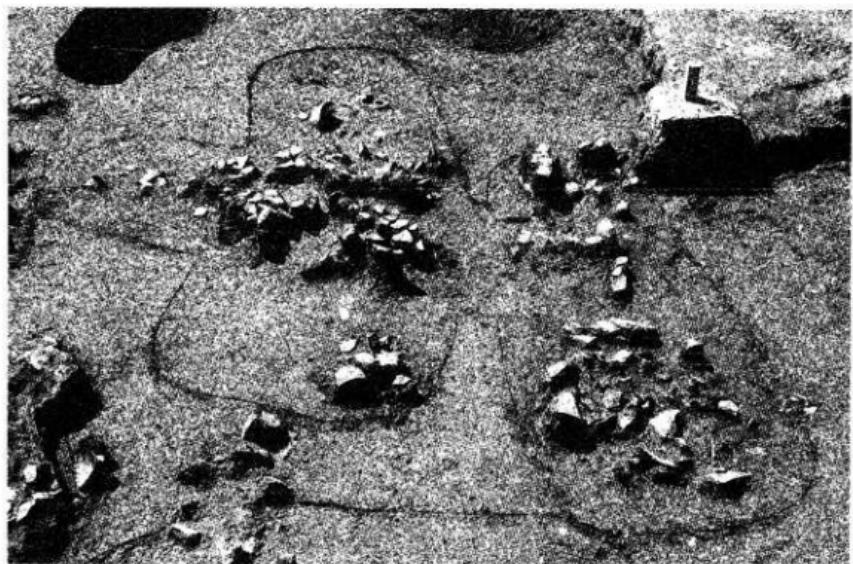


1 73号土坑墓



2 75号土坑墓

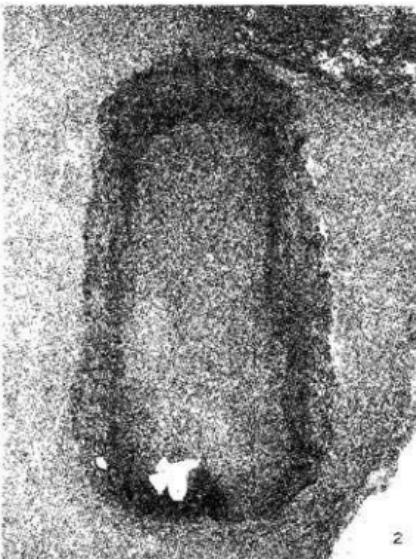
3 79号土坑墓



4 73~76号土坑墓上面



1 76号土坑墓



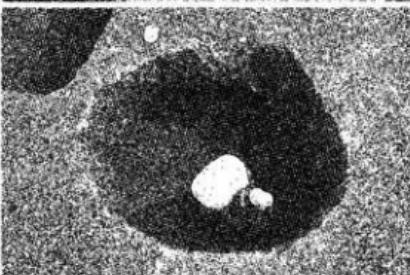
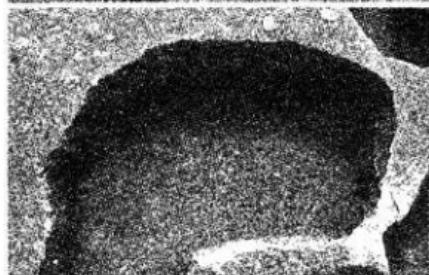
2 77号土坑墓



3 78号土坑墓

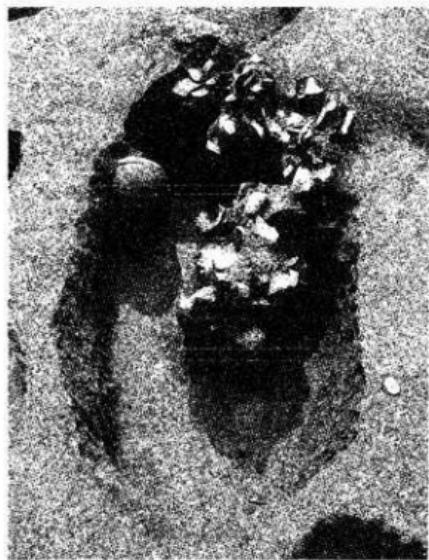


4 88号土坑墓



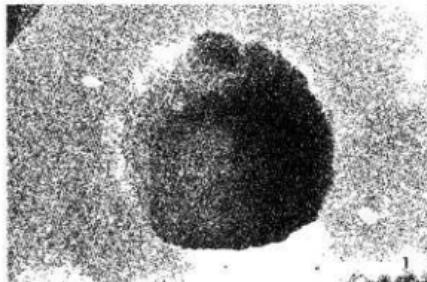
1 81号土坑墓 2 84号土坑墓

3 83号土坑墓 4 87号土坑墓



5 89号土坑墓

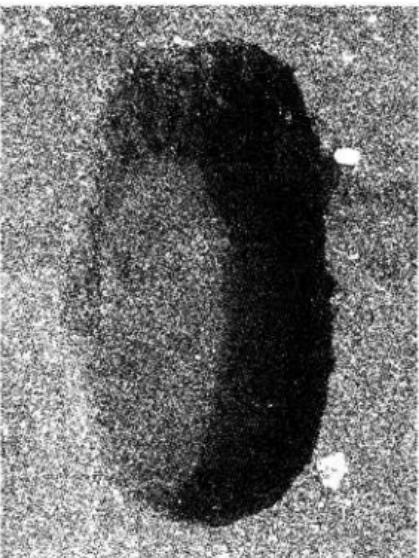
6 90号土坑墓



1 91号土坑墓

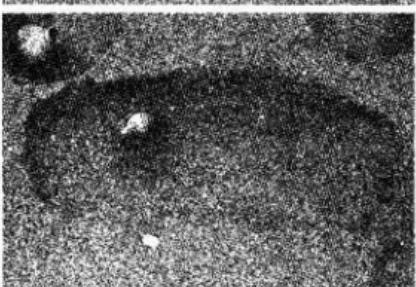
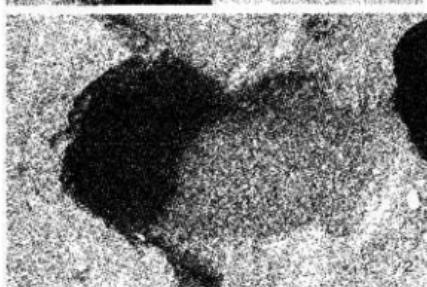
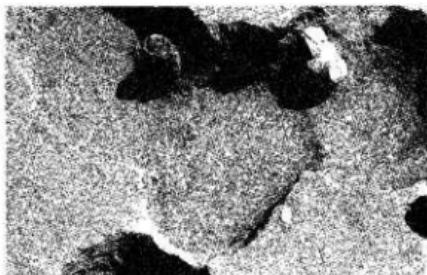
2 94号土坑墓

3 95号土坑墓



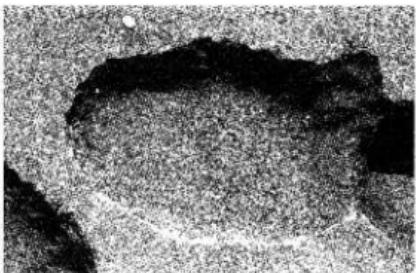
4 97号土坑墓

5 98号土坑墓



1 99号土坑墓 2 100号土坑墓

3 101号土坑墓 4 102号土坑墓

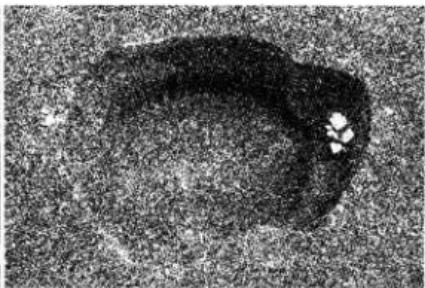


5 103号土坑墓 6 104号土坑墓

7 105号土坑墓 8 106号土坑墓



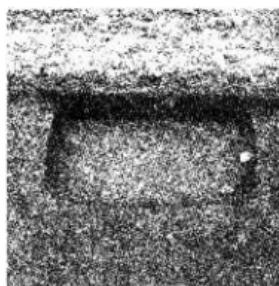
1 112号土坑墓



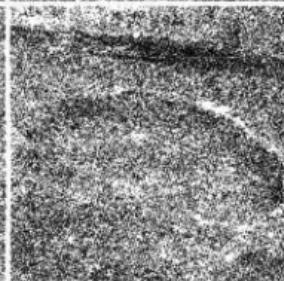
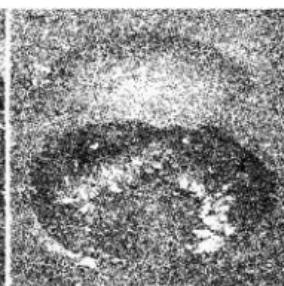
2 113号土坑



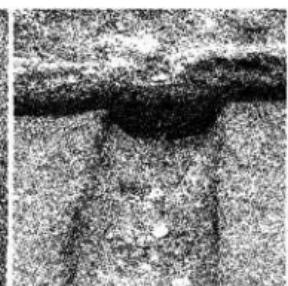
3 114号土坑



4 115号土坑
5 116号土坑



6 117・118号土坑
7 119号土坑



8 2号溝跡